新発田市埋蔵文化財調査報告 第66

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ

２０２２

新発田市教育委員会

新発田市埋蔵文化財調査報告 第66

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ

２０２２

新発田市教育委員会

例　　言

1　本報告書は、新潟県新発田市東姫田字菅田 276 番地１ほか に所在する菅田（すがた）遺跡（２区）の発掘調査記録である。

2　本発掘調査は、経営体育成基盤整備事業　姫田川右岸地区の工事に先立ち、新潟県新発田地域振興局の委託を受けて、新発田市教育委員会が主体となって実施した。令和２年６月 25 日から９月９日まで現地調査を、現地調査終了後から令和４年３月まで整理作業を実施し、令和３年度に報告書の作成と印刷を行った。

3　現地の発掘調査から報告書刊行に至るまでの経費は、総額の 92.5％を事業者である新潟県新発田地域振興局が負担し、残りの 7.5％を文化財保護担当部局である新発田市が負担した。なお、文化財保護担当部局負担分については、その半額を国庫補助、残りを県費補助と市費で負担している。

4　本発掘調査にあたっては、民間発掘調査組織による業務支援委託を導入し、新発田市の実施した一般競争入札の結果、株式会社吉田建設が受託した。

5　調査の記録類および遺物は、新発田市教育委員会で保管している。遺物の注記は、遺跡名を「菅田２」と略記し、必要に応じて「遺物番号・出土グリッド・遺構・層位・日付」を記した。

6　本報告書の作成にあたり、遺構の図化・浄書（トレース）は、津田憲司（新発田市教育委員会）の指示・監督のもと長澤展生と作業員（ともに株式会社吉田建設）が行い、遺物の実測・拓本・トレースと挿図・図版の版下作成は、津田および津田の指示のもと整理作業員（新発田市教育委員会）が行った。

7　本報告書掲載の写真は、遺構を津田と長澤が、遺物を津田が撮影した。

8　本報告書の執筆・編集は、第Ⅴ章を除いて津田が行った。

9　第Ⅴ章の自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その結果を掲載した。

10　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館等をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について複製することができる。

11　発掘調査から本報告書の作成まで、下記の諸氏・機関から多くのご協力・ご支援を賜った。記して感謝の意を表する。（順不同、敬称略）

浅井勝利　近藤勇二　水澤幸一　下中江自治会　東姫田自治会　川東土地改良区
新発田建設株式会社　新潟県教育委員会文化行政課　新潟県新発田地域振興局農村整備部
新潟県立歴史博物館

本 文 目 次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置 …… 1

2　歴史的環境と周辺の遺跡 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要

1　調査に至る経緯と調査体制 …… 6

2　調査方法と基本土層 …… 9

第Ⅲ章　遺　構

1　概　要 …… 12

2　中　世 …… 12

3　古　代 …… 18

第Ⅳ章　遺　物

1　土　器 …… 28

2　墨書土器・黒色土器 …… 43

3　その他の遺物 …… 43

第Ⅴ章　自然科学分析 …… 45

第Ⅵ章　まとめ …… 47

引用・参考文献 …… 48

遺物観察表 …… 49

報告書抄録 …… 後付

挿 図 目 次

第１図　菅田遺跡の位置 …… １
第２図　菅田遺跡周辺の地形 …… ２
第３図　菅田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）…… ４
第４図　試掘調査のトレンチ位置 …… ７
第５図　試掘調査の出土遺物 …… ８
第６図　グリッドの設定と基本土層 …… 10
第７図　遺構の位置（中世）……13-14
第８図　１・２号土坑 …… 15
第９図　３号土坑 …… 16
第10図　１～11号ピット …… 17
第11図　遺構の位置（古代）……19-20
第12図　４～８・10号土坑 …… 21
第13図　９号土坑 …… 22
第14図　１・２・４号溝 …… 23
第15図　３号溝 …… 24
第16図　12～27号ピット …… 26
第17図　28～36号ピット …… 27
第18図　遺構出土の土器（１）…… 29
第19図　遺構出土の土器（２）…… 30
第20図　遺構外出土の土器（１）…… 32
第21図　遺構外出土の土器（２）…… 33
第22図　遺構外出土の土器（３）…… 34
第23図　遺構外出土の土器（４）…… 35
第24図　遺構外出土の土器（５）…… 36
第25図　遺構外出土の土器（６）…… 37
第26図　遺構外出土の土器（７）…… 38
第27図　遺構外出土の土器（８）…… 39
第28図　遺構外出土の土器（９）…… 40
第29図　遺構外出土の土器（10）…… 41
第30図　遺構外出土の土器（11）…… 42
第31図　遺構外出土の土器（12）…… 43
第32図　墨書土器 …… 44
第33図　その他の遺物 …… 44
第34図　木材の顕微鏡写真 …… 46

図 版 目 次

図版１　調査区遠景、調査区近景
図版２　調査区全景、基本土層
図版３　１～３号土坑
図版４　４～７号土坑
図版５　８～10号土坑、１～４号溝
図版６　１～４号溝、２・33号ピット
図版７　土器（１）
図版８　土器（２）
図版９　土器（３）
図版10　土器（４）
図版11　土器（５）
図版12　土器（６）、墨書土器、その他の遺物

凡　例

1　本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の１/50,000「新発田」（平成15年）、新発田市作成の地形図を必要に応じて拡大・縮小したものである。

2　地形図・遺構図の方位記号は真北を示す。高さは海抜高で表す。

3　グリッド杭の国家座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系である。基準の杭とその座標については第Ⅱ章２に記述した。なお、東西方向のグリッド軸線は、真北に対してN－55°46′19″－Wである。

4　挿図の縮尺は、遺構位置図１/200、遺構平面図・断面図１/20～１/40、遺物１/３を基本とし、適宜スケールと縮尺を示した。

5　遺構図の「Ｋ」は、攪乱を示す。

6　土層説明の土色と遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄2008『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社 を参照した。

7　遺物は、種別に係わりなく、通し番号を付した。本文、遺物観察表、挿図および写真図版の番号は全て一致している。

8　挿図中のスクリーントーンは、各挿図に凡例を示した。

9　遺物観察表の数値は、（　）が復元値、＜　＞が残存値を表す。

10　引用・参考文献は、巻末に一括して掲載し、本文中では著者と発行年を括弧書きで示した。ただし、第Ⅴ章については分析の文末に記した。

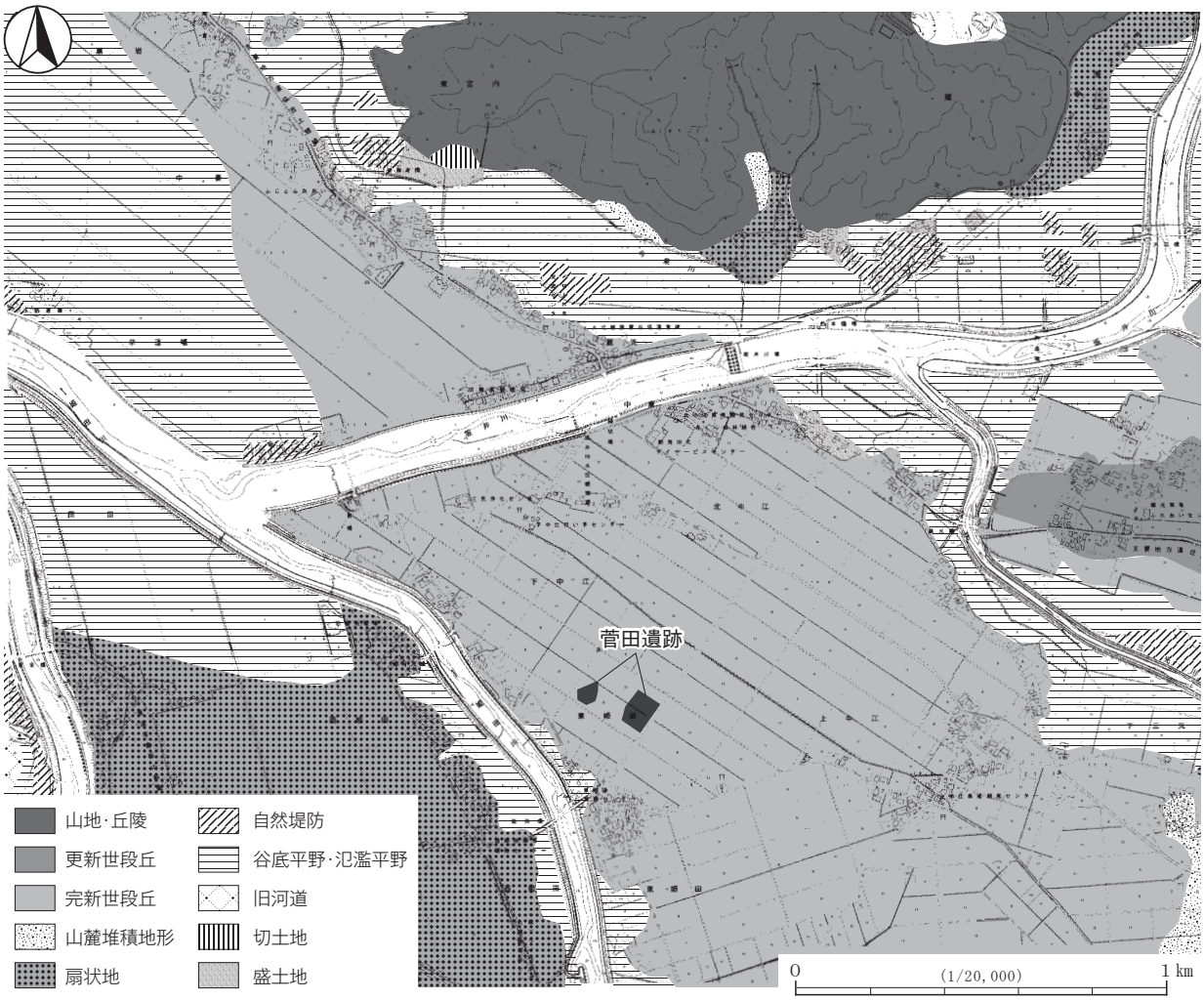
第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置

菅田遺跡のある新発田市は、新潟県の北部、下越地方の中でも「阿賀北地域」と呼ばれる阿賀野川以北の地域に位置する。平成15年7月に北蒲原郡豊浦町と、平成17年7月に同郡紫雲寺町・加治川村と合併したことで、北は胎内市、東は山形県西置賜郡小国町、南は阿賀野市と東蒲原郡阿賀町、西は北蒲原郡聖籠町と新潟市北区にそれぞれ接する広大な市域となった。規模は面積533.1㎢、人口約9万5千人（令和3年12月末現在）で、旧新発田藩の城下町周辺を中心に市街地が発達し、その周囲に農村地帯が広がっている。市域の地勢は、西半の平野部と東半の山岳部から成る。平野部は、越後（新潟）平野の一部にあたり、東の山地から流下する加治川、太田川、折居川などの河川によって形成された段丘や扇状地、自然堤防のほか、海岸線にほぼ平行して発達した砂州や砂丘列のある海岸平野、潟湖の干拓地などによって構成されている。山岳部は、北に櫛形山脈、南に五頭山地、東に飯豊山地の山々が連なるほか、櫛形山脈と五頭山地の間には五十公野丘陵、五頭山地の西側には笹神丘陵といった独立丘陵がみられる（国土地理院 1993）。

菅田遺跡は、新発田市東姫田字菅田276番地1ほかに所在する。市街地の中心部から西へ約5.1kmに位置し、その周辺には水田が広がる。辺り一帯の地形は、南東から北西に向かって比較的緩やかに傾斜しており、北と東と西の三方向をそれぞれ坂井川、三光川、姫田川によって囲まれている。遺跡付近の現標高は約15.6ｍである。

第1図　菅田遺跡の位置



第２図　菅田遺跡周辺の地形

本遺跡は、姫田川右岸の舌状に伸びた完新世段丘面に立地する。この段丘は、加治川支流の姫田川・坂井川などによって数千年前から形成されたもので、開析の程度が低く、広い平坦面を残している。高低による分類では、最も低い低位面に該当する。また、段丘の東と西には、坂井川や三光川、姫田川、加治川といった河川による堆積作用で作られた、谷底平野や氾濫平野などの低地および自然堤防や扇状地といった微高地が広がっている。このように、本遺跡の位置する地域は、低い平坦面が広がり、現在は水稲耕作が発達している土地であるが、複数の河川の合流地であることから、長らくその水害に悩まされてきた土地でもある。

２　歴史的環境と周辺の遺跡

菅田遺跡（１）では、令和元年度と今回の調査で、古代と中世の二つの時期に該当する遺構と遺物を検出した。本遺跡のある新発田市は、古代においては、越後国沼垂郡に位置づけられる。また、10 世紀に成立した『和名類聚抄』によると、この沼垂郡には足羽・沼垂・賀地の三つの郷が存在していたといわれる。賀地郷については、その範囲が、平安時代末期に成立した加地荘と豊田荘の荘域に重なると推定される。両荘園の荘域は、新発田市北部の旧加治川村から同南部の旧豊浦町全体にわたる広大な範囲で、現在の市域の大部分に該当する。このことから、新発田市域は賀地郷に属すると考えられ（桑原 1980）、また、菅田遺跡も同郷に含まれると推定される。

中世に入ると、各地で在地の有力者による荘園の開発が進み、これまでの律令制から、荘園と国衙領が併存する荘園公領制へと、土地の支配体制が大きく変換する。新発田市域にも荘園が成立し、旧加治川村から旧新発田

市一帯にかけては金剛院領の加地荘、旧豊浦町を中心とした市の南部には東大寺領の豊田荘が立荘するほか、旧加治川村の一部は摂関家領の奥山荘に、加治川上流域の赤谷地区は小川荘にそれぞれ含まれる。本遺跡の周辺は地理的にみて、加地荘に含まれると考えられる。加地荘については不明な点が多く、詳細な成立時期などはわかっていない。開発領主についても正確には不明であるが、城氏の一族に「加地三郎」と称した者（城長成）がいることや、近隣の荘園が城氏によって開発・領有されていることなどから、加地荘も城氏により開発・支配されていたものと推測される（阿部・木村 1980）。

本遺跡が位置する新発田市東部は、市内でも、古代から中世の遺跡が数多く分布する地域の一つである。古代は、平野部に集落が営まれたほか、窯業などの生産活動も行われている。中世になると、集落に加えて、山地とその麓に城館が多く築かれる。また、塚および石仏・石塔・板碑といった石造物も数多く作られるようになった。以下、本遺跡周辺の古代から中世の遺跡について、発掘調査を実施したものを中心に記述する。なお、第３図に示した遺跡のうち、古代は 18・19・28・29・33 ～ 40・51・58 ～ 63・74 ～ 76、古代および中世は２・13 ～ 17・27・30 ～ 32・48 ～ 50・64、中世は３～ 12・20 ～ 26・41 ～ 47・52 ～ 57・65 ～ 73 がそれぞれ該当する。

集落遺跡　坂井川右岸の自然堤防および低位面の段丘には、加治天王前遺跡（17）、太田遺跡（19）が立地する。加治天王前遺跡は、13 世紀から 16 世紀に営まれた中世の集落跡で、掘立柱建物や井戸、土坑などを検出した。出土遺物の質と量が豊富であることから、富裕層の居住地と推定される。なお、古代については、遺物は出土しているが、遺構は検出されていない（伊藤ほか 2008）。太田遺跡は、８世紀後半から 10 世紀後半に営まれた古代の集落跡で、掘立柱建物や井戸などのほか、畝状小溝といった農業関連遺構を検出している（伊藤ほか 2006）。

坂井川、三光川、姫田川に囲まれた低位面の段丘には、菅田遺跡（１）のほかに、五斗遺跡（32）が立地する。五斗遺跡は、９世紀中葉の古代の集落跡で、農業関連遺構の畝状小溝などを検出した（伊藤ほか 2021）。

五斗遺跡の南東約 2.5 ㎞には、坂ノ沢Ｄ遺跡（59）が、沢を挟んでその 150 ｍ南には坂ノ沢Ｃ遺跡（60）が位置する。両遺跡とも、姫田川右岸に形成された高位面の段丘に立地する古代の集落跡で、年代は９世紀中葉から 10 世紀と考えられる。坂ノ沢Ｄ遺跡は、土坑や溝、炭焼き施設、焼土集中箇所を検出した（渡邊・田中 1999）。坂ノ沢Ｃ遺跡は、竪穴建物や掘立柱建物、土坑、炭焼き施設を検出し、また、仏具形遺物が多く出土していることから、小規模な仏堂施設の存在が想定されている（渡邊・田中 2001）。検出した遺構・遺物の内容から、坂ノ沢Ｃ遺跡が集落の中心で、坂ノ沢Ｄ遺跡はそれに付随して形成された遺跡と推定される。

五十公野丘陵の西側に広がる段丘化した扇状地には、松橋遺跡（48）、山王遺跡（50）が立地する。松橋遺跡は、８世紀後半から９世紀前半まで営まれた古代の集落跡で、竪穴建物のほか、鍛冶炉といった鉄鍛冶関連遺構を検出している。なお、中世については、遺物は出土しているが、遺構は検出されていない。山王遺跡は、８世紀後半および 13 世紀後半から 15 世紀前半にかけて存続した古代と中世の集落跡である。古代の遺構として掘立柱建物や土坑、中世の遺構として竪穴建物などを検出した（鶴巻 1998）。

生産遺跡　菅田遺跡周辺は、手工業生産に関連する遺跡が少ない。櫛形山脈の南西約 1.5 ㎞、坂井川左岸に位置する丸山（標高 121.1 ｍ）の裾部には、丸山Ａ遺跡（27）、ホーロク沢Ｂ窯跡（28）、ホーロク沢Ａ窯跡（29）が立地するが、須恵器窯のホーロク沢Ａ・Ｂ窯跡については調査を行っておらず、その実態は明らかではない。丸山Ａ遺跡（27）は、８世紀後半から９世紀中葉および 12 世紀前葉から 13 世紀前半に営まれた古代と中世の集落跡である。ただし、古代については、掘立柱建物や井戸のほかに、土師器焼成坑が検出されており、生産遺跡としての性格を併せ持つ。また、土器の埋納・廃棄土坑も検出しており、生産した土器の集積・選別も行われていたと考えられる。中世については、掘立柱建物と珠洲双耳壺を埋納したピットを検出しており、近隣に所在する中世居館跡の蔵光館跡（26）との関連性が推測される（渡邊ほか 2014）。

第３図　菅田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）

城館跡　櫛形山脈の稜線上に、茗荷谷城跡（５）、鳥屋峯城跡（６）、七曲城跡（７）、加治城跡（20）、麓城跡（21）、滝城跡（22）など、数多くの山城が築かれている。中でも、櫛形山脈南端部の要害山に築かれた加治城跡は、山頂部から三方の尾根に向かって郭群が認められる、戦国時代の様相を色濃く残した山城である。佐々木加地氏の居城と伝えられ、新発田重家と上杉景勝による新発田合戦で、天正 15（1587）年９月に落城したとされる。加治城跡から東へ約 1.1 ㎞に築かれた滝城跡は、山頂から延びる２本の尾根上に複数の郭が造られている。南側の尾根先端部を調査し、集石が２箇所検出された。

加治川と姫田川の合流地付近に形成された自然堤防とその周辺の微高地には、里館跡（11）、箱館跡（12）が立地する。箱館跡は、加治城跡から南西約 1.5 ㎞に位置する、一辺約 70 ｍの方形居館跡である。調査では、堀の一部や井戸、溝などを検出した。14 世紀後半から 15 世紀に造られ、16 世紀前半に館としての機能が失われたと考えられる。遺構・遺物の内容から、加地氏の庶子・被官といった小領主の居住が想定される（伊藤ほか 2006）。

三光川左岸に形成された土石流段丘および扇状地には、三光館跡（42）、宝積寺館跡（43）、岡塚館跡（44）、東城館跡が立地する。これらの館跡は、佐々木加地氏の一族である竹俣氏の居館であったと考えられるが、各館がいつの時期に拠点となっていたかは定かでない。三光館跡は、東西 100 ｍ、南北 85 ｍの方形居館跡で、堀の一部や堀に付随する溝、土橋などを検出している。出土遺物から 16 世紀まで館が存続していたと推定される。宝積寺館跡は、一辺 200 ｍ以上の大規模な方形居館跡で、郭内から掘立柱建物、柵、井戸、墓坑などを多数検出した。15 世紀頃は竹俣氏の居館として、16 世紀以降は寺院として機能していたと考えられる（田中ほか 1990）。岡塚館跡では、人為的な整地層が確認され、館の造成に関連した整地の可能性が伺える（鶴巻 1998）。

五十公野丘陵の尾根上には、金谷城跡（45）、升潟山城跡（46）、五十公野城跡（53）が築かれ、また、同丘陵の西麓には五十公野館跡（52）が立地する。五十公野館跡は、佐々木加地氏の一族である五十公野氏の居館跡と考えられる。竪穴建物や井戸、土坑、溝などを検出し、青銅製観音立像や雁股鏃といった希少品が出土している。また、比較的多くの遺物に被熱痕が認められる。背後に位置する五十公野城跡が、新発田合戦で天正 15（1587）年 10 月に落城しており、その関連性が推測される（戸根ほか 2017）。

市域東縁の山麓部周辺も城館が多く築かれた地域である。板山川によって形成された中位面の段丘に立地する板山館跡（73）は、一辺約 50 ｍの方形居館跡で、郭内から掘立柱建物、竪穴建物、柵、井戸などを検出している。出土遺物から、14 世紀後半から 18 世紀前半まで館や屋敷地として機能していたと考えられる。館の規模から、中世は小領主層の居館であったと推定される（本田ほか 2018）。

菅田遺跡周辺の遺跡（古代・中世）

1 菅田遺跡　2 下野付遺跡　3 加治館跡　4 上山下遺跡　5 茗荷谷城跡　6 鳥屋峯城跡　7 七曲城跡　8 伝護念上人の墓
9 菅谷館跡　10 下石川塚群　11 里館跡　12 箱館跡　13 雀塚遺跡　14 黒岩遺跡　15 石橋遺跡　16 加治山ノ下遺跡
17 加治天王前遺跡　18 枇杷遺跡　19 太田遺跡　20 加治城跡　21 麓城跡　22 滝城跡　23 中川遺跡　24 香伝寺本山跡
25 十二林遺跡　26 蔵光館跡　27 丸山Ａ遺跡　28 ホーロク沢Ｂ窯跡　29 ホーロク沢Ａ窯跡　30 岡田扇田遺跡　31 中通遺跡
32 五斗遺跡　33 川前遺跡　34 中通南遺跡　35 鶴城遺跡　36 東姫田正尺遺跡　37 道端遺跡　38 鳥島遺跡　39 新川外遺跡
40 下楠川遺跡　41 楠川館跡　42 三光館跡　43 宝積寺館跡　44 岡塚館跡　45 金谷城跡　46 升潟山城跡　47 下新保の塚
48 松橋遺跡　49 南光遺跡　50 山王遺跡　51 久保住吉遺跡　52 五十公野館跡　53 五十公野城跡　54 上杉景勝陣所跡
55 大友館跡　56 三町歩の塚群　57 山ノ下遺跡　58 吉兵衛屋敷遺跡　59 坂ノ沢Ｄ遺跡　60 坂ノ沢Ｃ遺跡　61 寿福寺林Ｂ遺跡
62 館屋敷遺跡　63 宮田遺跡　64 沢田遺跡　65 八幡館跡　66 八幡城跡　67 浦城跡　68 米倉館跡　69 宮古木塚群　70 車野原の塚
71 庄道田遺跡　72 じょう塚　73 板山館跡　74 宮古木遺跡　75 中野遺跡　76 角地山遺跡　● 石仏・石塔・板碑

第Ⅱ章　調査の概要

１　調査に至る経緯と調査体制

分布調査と試掘調査（第４図）

姫田川右岸地区においてほ場整備事業の計画が持ち上がったことを受け、平成25年４月に、新潟県新発田地域振興局 農村整備部（以下、県振興局）と新発田市教育委員会（以下、市教委）は、同地区の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を行い、地区全域を対象に分布調査が必要であることを確認した。平成28年３月に、市教委は同地区の分布調査を行い、11箇所の地点について試掘・確認調査が必要である旨を県振興局と川東土地改良区に報告した。平成28年度に、経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区（総事業面積268ha）として事業が採択されると、県振興局から市教委に、同地区について試掘・確認調査の要望が提示された。それを受け、市教委では、平成28年から以下のとおり調査を実施し、現在も継続中である。

平成28年：下中江字江端地内（対象面積 約21,000㎡）　東姫田字菅田地内（対象面積 約6,600㎡）
平成29年：下三光字川原地内（対象面積 約14,900㎡）　下三光字五斗地内（対象面積 約16,400㎡）
　　東姫田字菅田地内（対象面積 約37,200㎡）　下三光字金井地内（対象面積 約600㎡）
令和元年：東姫田字菅田地内（対象面積 約26,100㎡）　東姫田字正尺地内（対象面積 約42,500㎡）
令和２年：上中江字道ワキ地内（対象面積 約3,000㎡）　下三光字鳥島地内（対象面積 約32,000㎡）
　　南盾・下三光地内（対象面積 約267,000㎡）　下楠川遺跡（対象面積 約19,700㎡）

調査の結果、これまで６地点で新たな遺跡を発見した。それぞれ、下三光字川原地内は**関根遺跡**（遺跡番号704）、下三光字五斗地内は**五斗遺跡**（遺跡番号705）、東姫田字菅田地内は**菅田遺跡**（遺跡番号706）、東姫田字正尺地内は**東姫田正尺遺跡**（遺跡番号707）、下三光字鳥島地内は**鳥島遺跡**（遺跡番号708）、南盾・下三光地内は**新川外遺跡**（遺跡番号709）と**砂屋敷遺跡**（遺跡番号710）として周知化している。

本発掘調査

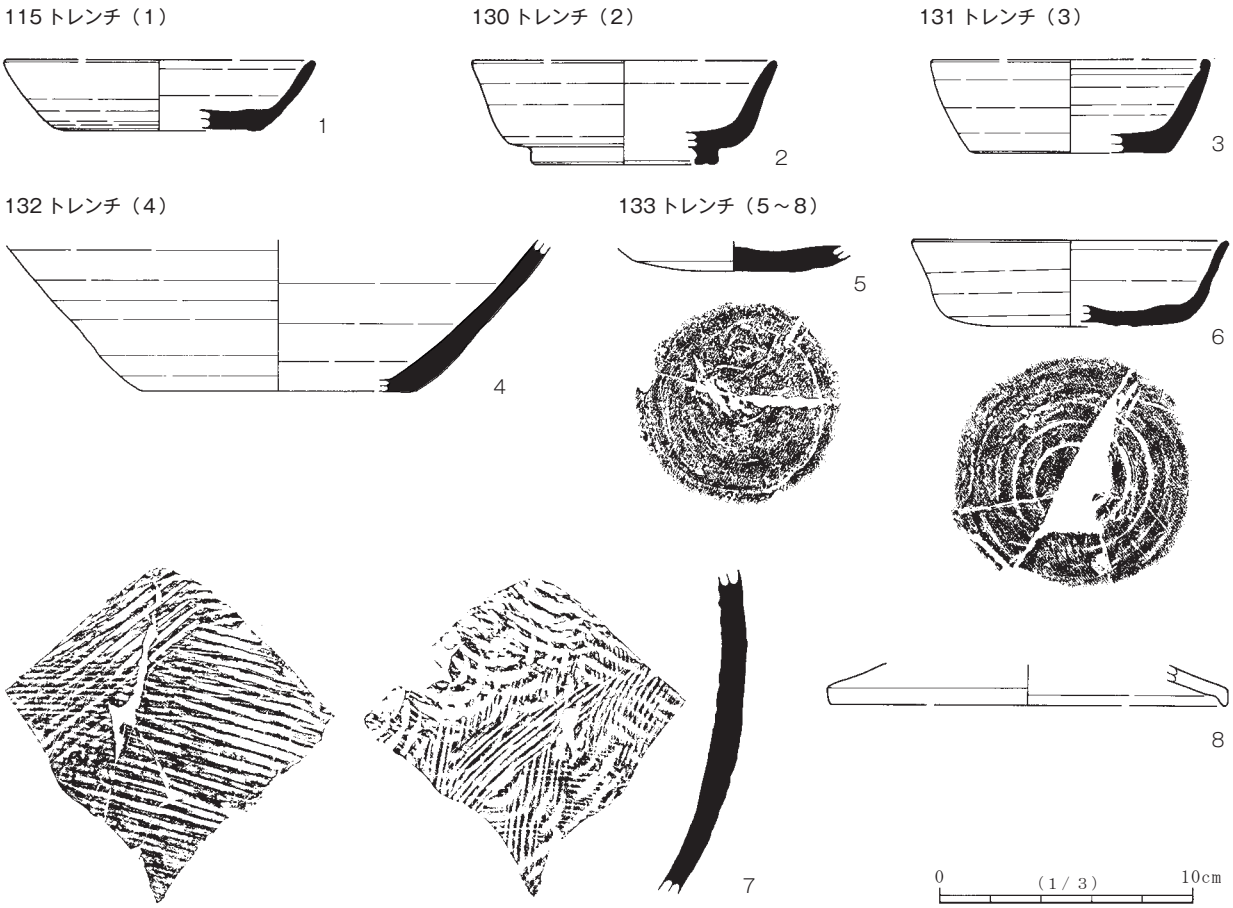
平成 29 年の試掘調査結果を受け、平成 30 年４月から、県振興局と市教委は、関根遺跡、五斗遺跡、菅田遺跡の取り扱いについて協議を開始した。協議を重ねた結果、関根遺跡は盛土施工により現状保存することとし、五斗遺跡と菅田遺跡については、遺跡を掘削せざるを得ない用排水路部分は本発掘調査を実施し、そのほかの部分は盛土施工によって保存することで合意した。また、本発掘調査は、令和元年度に五斗遺跡と菅田遺跡の西半部（１区）を、令和２年度に菅田遺跡の東半部（２区）を行うこととし、２区の調査では、民間調査組織による業務支援委託を導入することも併せて確認した。以下、菅田遺跡（２区）の本発掘調査に係る経緯について述べる。

これまでの協議を踏まえ、県振興局は、文化財保護法第94条第１項に則り、令和２年２月５日付けで、新潟県教育委員会教育長宛ての芝振農整第685号「埋蔵文化財発掘の通知について」と、芝振農整第685号の２「埋蔵文化財発掘通知の進達について（依頼）」を市教委に提出した。市教委は、令和２年２月10日付け文行第1115号－２「埋蔵文化財の発掘について（副申）」を副えて、芝振農整第685号を新潟県教育委員会（以下、県教委）に提出した。それに対して、県教委は、令和２年２月20日付け教文第1187号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」で、市教委と県振興局へ、工事の着手前に発掘調査を実施するように通知した。県振興局は、令和２年３月11日付け芝振農整第798号「菅田遺跡に係る発掘調査について（依頼）」で、市教委に

菅田遺跡（２区）の本発掘調査実施を依頼し、市教委は同年３月24日付け文行第1243号－２「菅田遺跡に係る発掘調査について（回答）」で、その実施を受諾した。これを受け、県振興局と新発田市は、令和２年５月７日付けで発掘調査費用負担の契約を締結した。費用の負担割合については、例言に記載したとおりである。業務支援委託については、新発田市が一般競争入札を実施し、令和２年５月25日付けで株式会社吉田建設（以下、㈱吉田建設）と委託契約を結んだ。その後、市教委は県教委に、令和２年６月８日付け文行第296号「埋蔵文化財発掘調査の報告について」で本発掘調査の着手を報告し、同年10月16日付け文行第709号「埋蔵文化財発掘調査の報告について」で調査の終了を報告した。

調査は、工事計画の変更により調査面積が拡大したことや、遺物が当初の想定を大きく上回って多量に出土したことなどから、作業量が大幅に増加した。そのため、作業期間とその内容の見直しを行い、新発田市と㈱吉田建設は、令和２年11月30日付けで業務支援委託について変更契約を締結した。また、新発田市は、令和３年１月29日付けで発掘調査費用負担に係る契約の変更を県振興局へ依頼し、同年２月３日付けで両者は変更契約を締結した。その後、市教委は、令和３年３月18日付け文行第1145号「経営体育成基盤整備事業　姫田川右岸地区における埋蔵文化財包蔵地発掘調査　完了報告書」で、県振興局に令和２年度の業務が完了したことを報告した。令和３年度については、市教委が直営で本格整理作業を実施し、報告書を刊行することとなっており、令和３年５月21日付けで県振興局と新発田市が発掘調査費用負担の契約を締結している。なお、菅田遺跡（２区）に係る試掘調査から報告書刊行に至るまでの調査体制は、次のとおりである。

第４図　試掘調査のトレンチ位置



第５図　試掘調査の出土遺物

調査体制

平成 29 年度（試掘調査）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）
監　　理　平山　真　（文化行政課長）
総　　括　坂井　喜行（文化行政課 課長補佐）
調査担当　本田　祐二（文化行政課 主任）
調 査 員　坂野　岳史（文化行政課 臨時職員）
庶　　務　渡邊美穂子（文化行政課 係長）

令和２年度（２区：本発掘調査・整理作業）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　工藤ひとし）
監　　理　平山　真　（文化行政課長）
総　　括　小林　大作（文化行政課 課長補佐）
調査担当　津田　憲司（文化行政課 主任）
調 査 員　長澤　展生（株式会社吉田建設）
現場代理人　林　悟　　（株式会社吉田建設）
庶　　務　渡邊美穂子（文化行政課 係長）

令和３年度（２区：整理作業・報告書刊行）

調査主体　新発田市教育委員会（教育長　工藤ひとし）
管　　理　平山　真　（文化行政課長）
総　　括　杉山　隆　（文化行政課 課長補佐）
調査担当　津田　憲司（文化行政課 主任）
庶　　務　渡邊美穂子（文化行政課 係長）

２　調査方法と基本土層

調査区とグリッドの設定（第６図）

本発掘調査の対象となった調査区（２区）は、遺跡範囲のうち、ほ場整備事業によって掘削される排水路部分に該当する。その範囲は、幅 6.8 ｍ、長さ 70 ｍの細長い長方形で、面積は 473.7 ㎡である。調査にあたり、遺構や遺物の位置表記に用いるために、グリッドを設定した。

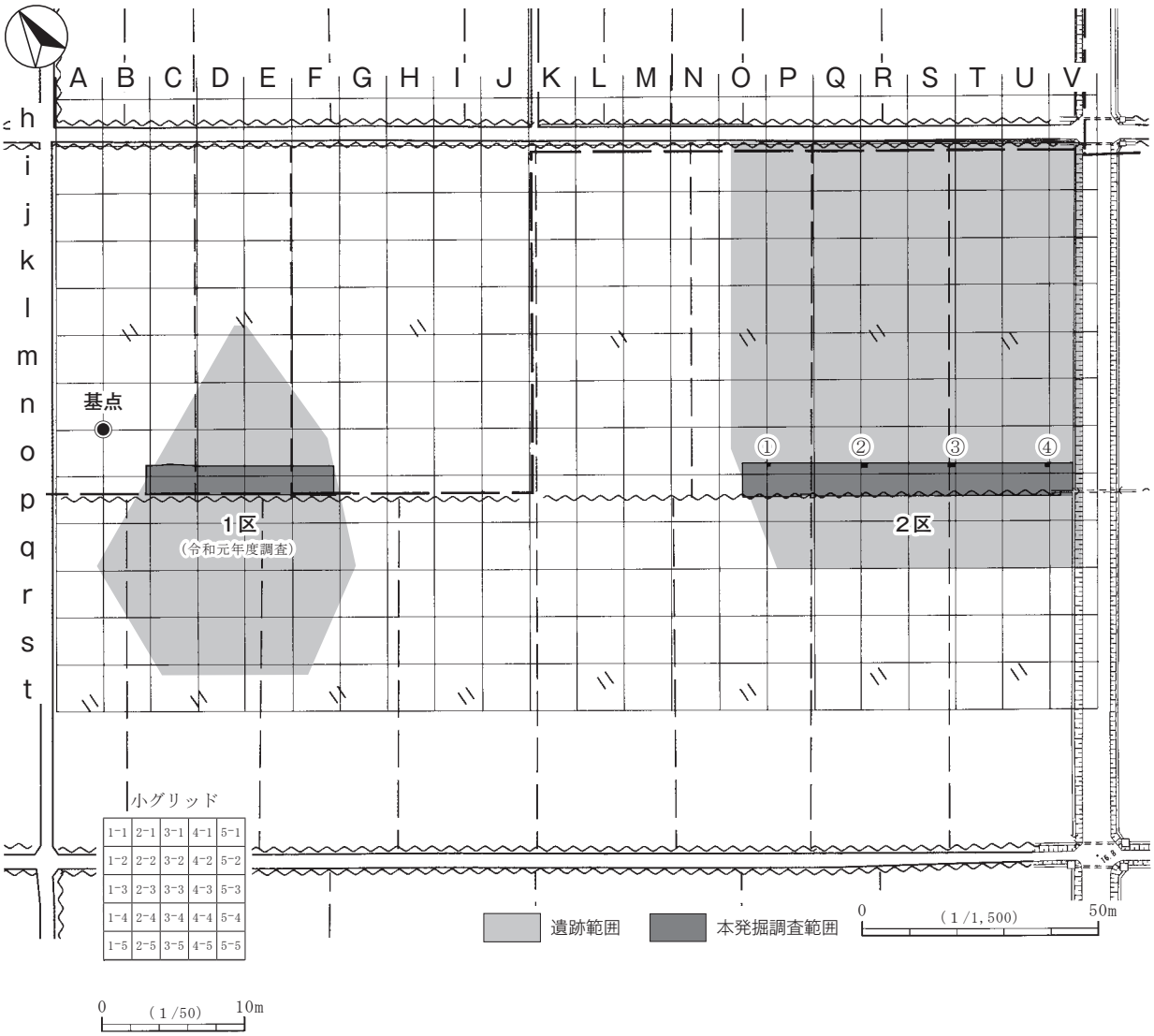
グリッドは、令和元年度の１区本発掘調査で設定したものを、遺跡全体を網羅するように延長して使用した。よって、設定の基点は１区の調査時と同じである。国家座標はＸ＝ 216519.076、Ｙ＝ 77659.665（世界測地系平面直角座標第Ⅷ系）で、後述するグリッドの表記で示すと、「Bo1-1」の北西隅にあたる（伊藤ほか 2021）。この基点から、１区のセンターラインに平行するように東西方向の軸線を、それに直行して南北方向の軸線を設定した。なお、東西方向の軸線は、真北に対して 55°46′19″西へ傾いている。この両軸線を基準に、一辺 10 ｍ四方の方眼を組み、これを大グリッドとした。また、大グリッドを東西・南北にそれぞれ５等分、計 25 分割した一辺２ｍ四方の方眼を小グリッドとした。大グリッドは、西から東へ「A」・「B」…、北から南へ「a」・「b」…とそれぞれ大・小文字のアルファベットを付け、その組み合わせで「Aa」・「Bb」…と呼称し、小グリッドは、西から東、北から南へそれぞれ「1」…「5」と算用数字を付け、大グリッドと組み合わせて「Aa1-1」・「Bb5-5」…と呼称した。また、標高値については、二級水準点Ａ－30（Ｈ＝ 16.487 ｍ）を視準し、調査区周辺に仮杭を打設して、計測に使用した。

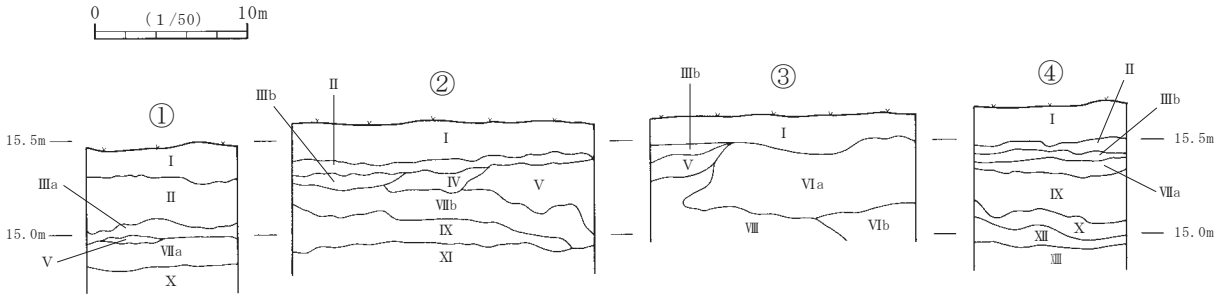
基本土層（第６図、図版２）

調査区（２区）現況の地表面は、標高の平均が約 15.6 ｍである。東西の比高差は約 20 ㎝で、東から西へ緩やかに傾斜した地形である。なお、この傾斜はそのまま西へと続き、２区から西へ約 86 ｍに位置する１区は、２区よりも平均で約 30 ㎝、最大で約 75 ㎝、標高が低い。

基本土層は、調査区北壁の４地点（①～④）で観察した。土層は、耕土を含めてⅠ～ⅩⅢ層に大別し、土質や包含物の違いから、アルファベットの小文字を付けてさらに細別した。Ⅰ層の黒褐色土とⅡ層の黒色混砂礫土は、水田耕作に伴う土層である。Ⅲ層は古代の遺物包含層である。層厚は約２～６㎝と薄いが、遺物を多量に含み、調査区のほぼ全域で確認された。土質から２層に細別でき、Ⅲa 層の暗灰黄色細砂は調査区西端から東へ約７ｍまでの範囲に、Ⅲb 層の暗灰黄色～暗オリーブ灰色混砂礫細砂は、それよりも東側の範囲にそれぞれ堆積する。そして、Ⅳ層以下がいわゆる地山に該当する。Ⅳ層は暗灰黄色細砂である。②地点で確認されたが、その堆積範囲は限定的である。Ⅴ層は黄褐色砂である。Ⅵ層は、色調からⅥａ層のオリーブ褐色砂とⅥｂ層の黄褐色砂の２層に細別できる。Ⅶ層は、調査区域に比較的広く堆積している土層で、③地点を除いた３地点で確認できている。２層に細別でき、Ⅶａ層は灰オリーブ色～暗オリーブ灰色細砂、Ⅶｂ層は黄灰色細砂である。Ⅷ層は灰色砂、Ⅸ層は灰黄色砂、Ⅹ層は灰オリーブ色粘質シルト、Ⅺ層は暗灰黄色細砂、Ⅻ層は灰白色砂、ⅩⅢ層はオリーブ黒色細砂である。これらの地山は、いずれも河川に起因する堆積層と考えられる。また、Ⅶａ層およびⅨ～ⅩⅢ層については、未分解の植物遺体を多く含んでいることから、比較的長い時間、水の影響を受けていたことが伺える。遺構は、Ⅲ層の上面で中世の遺構を、地山の上面すなわちⅣ～Ⅶ層の上面で古代の遺構を検出した。

地山から推定される調査区の旧地形は、調査区西端から東へ約 10 ｍの Po・Pp グリッド西半部までは、標高が約 15.0 ｍと比較的低く平坦である。そこから東へ向かって徐々に標高が高くなり、Qo・Qp グリッドと Ro・Rp グリッドの境目付近から調査区東端まで、若干の起伏はあるものの、標高が約 15.3 ～ 15.5 ｍのほぼ平坦な微高地状の地形が続いていく。





基本土層

Ⅰ　10YR2/2 黒褐色土　粘性・しまりややあり。礫を多量含む。耕土。
Ⅱ　2.5Y2/1 黒色混砂礫土　粘性なく、しまり強い。色調は暗い。
Ⅲa　2.5Y4/2 暗灰黄色細砂　粘性ややあり、しまりあり。礫を少量含む。古代の遺物包含層。
Ⅲb　2.5Y4/2 暗灰黄色～2.5GY4/1 暗オリーブ灰色混砂礫細砂　粘性ややあり、しまりあり。炭化物粒を微量含む。古代の遺物包含層。
Ⅳ　2.5Y5/2 暗灰黄色細砂　粘性ややあり、しまりあり。
Ⅴ　2.5Y5/4 黄褐色砂　粘性・しまりなし。
Ⅵa　2.5Y4/3 オリーブ褐色砂　粘性・しまりなし。
Ⅵb　2.5Y5/3 黄褐色砂　粘性・しまりなし。
Ⅶa　5Y4/2 灰オリーブ色～2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細砂　粘性・しまりややあり。繊維状の未分解植物を多量含む。
Ⅶb　2.5Y4/1 黄灰色細砂　粘性・しまりややあり。
Ⅷ　5Y5/1 灰色砂　粘性・しまりなし。粒径が小さく、きめ細かい。
Ⅸ　2.5Y7/2 灰黄色砂　粘性・しまりなし。未分解植物をやや多く含む。
Ⅹ　5Y5/2 灰オリーブ色粘質シルト　粘性強く、しまりあり。繊維状の未分解植物をやや多く含む。
Ⅺ　2.5Y4/2 暗灰黄色細砂　粘性・しまりややあり。繊維状の未分解植物をやや多く含む。
Ⅻ　2.5Y7/1 灰白色砂　粘性・しまりなし。粒径は小さい。未分解植物を多量含む。
ⅩⅢ　5Y3/1 オリーブ黒色細砂　粘性あり、しまりややあり。部分的に灰白色砂が薄い帯状に堆積する。未分解植物をやや多く含む。

0 （1/40） 1m

第6図　グリッドの設定と基本土層

現地調査の経過（日誌抄）

６月２日～６月24日　現地にて、調査の事前準備を開始する。現場事務所・駐車場用地において、草刈りなどの環境整備を実施した後、同地内に鉄板を敷設し、事務所や休憩所、トイレ、器材倉庫の設営と発掘資材の搬入を行う。調査区については、環境整備を行った後、調査区の北壁側に沿って、重機の稼働に必要な鉄板を敷設した。なお、22日に現場作業員への説明会を現地で実施した。

６月25日～７月８日　重機による調査区の表土掘削を行い、掘削終了後に、大グリッドの杭を打設した。しかし、７月１日に急遽、県振興局から市教委へ、当初の計画を変更して工事の掘削幅を拡張したいとの要望が寄せられる。そこで、両者は協議を行い、調査区幅を6.0mから6.8mに拡張することで合意した。これを受け、６・７日に調査区北壁側の拡張部分を、再度重機によって掘削した。

７月９日～８月４日　調査区南壁側の拡張部分を人力で掘削した後、遺構の検出作業に着手する。１区の調査結果などから、当初はⅢ層の上面を遺構検出面と想定して調査を始めたが、同層中から遺物の出土がみられることなどから、調査区の壁などを利用して、層相を詳細に検討した。その結果、Ⅲ層は古代の遺物包含層で、その下層上面が遺構検出面であることがわかった。これを受け、17日からⅢ層（遺物包含層）の掘り下げに着手した。ただし、So・Spグリッド付近については、遺物包含層の上面で遺構を確認したため、同層の掘削は直ちには行わず、上面の遺構調査が完了した後、改めて掘り下げることとした。また、遺物の出土量が増えてきたことから、雨天時の作業として、現場事務所での遺物水洗作業を開始した。

８月５日～８月24日　遺物包含層を掘り下げた後、改めて遺構の検出作業と各遺構の調査に入る。調査は、調査区東端から順次西へ向かって行い、土坑、溝、ピットを検出した。埋土の断面図作成、遺物の取り上げ、写真撮影などを実施し、平面図作成を除く、各遺構の調査を完了した。

８月25日～８月31日　遺構の平面図作成と調査区の全景撮影を行う。平面図の作成は25・31日に実施した。全景撮影は、26・27日に調査区全体を清掃した後、28日に高所作業車とドローンを使用して撮影を行った。

９月１日～９月９日　So・Spグリッド付近について、遺物包含層の掘削とその下層の調査に入る。下層から土坑とピットを検出し、埋土の断面図と完掘平面図を作成した。その後は、遺物の水洗作業のほか、発掘資材の清掃・搬出準備や調査区に敷設した鉄板の撤去を実施した。９日にこれらの作業が完了し、現地での調査は終了した。

９月10日～９月16日　10日に遺物を㈱吉田建設の整理室へ搬出する。その後、現場事務所、休憩所、トイレなどの設備や発掘資材を搬出し、現場事務所・駐車場用地に敷設した鉄板の撤去作業を行った。15日に県振興局が現地を確認し、16日に調査区の引き渡しを行って、現地での作業が全て完了した。

整理作業

現地での調査終了後、整理作業を開始する。９月14日～12月４日までは、引き続き㈱吉田建設の業務支援を受けて、基礎的な整理を中心に作業を実施した。遺構の図面類については、平面図と断面図の整合確認と合成を行い、浄書（トレース）した。遺物については、出土位置や日付けなどの情報を注記した後、接合と復元作業を行った。現地で撮影した写真は、記録が照合できるように、デジタル写真についてはデータを整理し、モノクロ写真についてはネガをアルバムに整理したうえで、台帳を作成した。また、出土木製品については、民間分析機関に委託して樹種同定を実施した。

12月からは、市教委の直営で、本格的な整理作業に着手した。令和２年度は、報告書に掲載する遺物の選び出しと、その実測およびトレースを行った。令和３年度も、引き続き市教委の直営で整理作業を実施する。遺構については図版の版下作成を行った。遺物については、実測とトレースのほか、拓本の採取と写真撮影を行い、図版の版下を作成した。その後、原稿の執筆と編集作業を経て、報告書を印刷・刊行した。

第Ⅲ章　遺　構

１　概　要

今回調査を実施した２区では、中世と古代の遺構を検出している。遺構は、主にQo2-4～Qp2-3グリッドから調査区東端にかけて位置し、その範囲は、おおむね調査区内の微高地に該当する。Po3-4～Pp3-3グリッド以西の低地部分では、ピットが１基検出されただけで、ほかに遺構は確認されなかった。

中世の遺構は、古代の遺物包含層であるⅢ層の上面で検出した。検出した遺構は、土坑３基、ピット11基である。ピットについては、現地調査時および整理作業時に、平面の規模や配列、底面の標高などを検討したが、規則性は認められず、掘立柱建物や柵などの遺構を想定するには至らなかった。これらの遺構は、Rp4-2～So5-5グリッドに位置し、その範囲は狭く限定的である。後世の水稲耕作に伴う掘削の影響からか、遺構の上部は削平されており、その遺存状態はあまり良くない。なお、上記の遺構のほかに、溝状および土坑状のプランを三つ検出したが、埋土から近世の陶磁器が出土したことなどから、攪乱とした。

古代の遺構は、地山の上面すなわちⅣ～Ⅶ層の上面で検出した。検出した遺構は、土坑７基、溝４条、ピット25基である。ピットについては、中世のそれと同様、規則性は認められなかった。検出した遺構は、その分布に大きく三つのまとまりがみられる。すなわち、Qp2-1～Rp3-1グリッドには４～６号土坑とＰ13～25が、Ro5-5～Sp4-3グリッドには７・８号土坑とＰ26～30が、To1-5～Up3-1グリッドには９号土坑と１～４号溝、Ｐ31～36がそれぞれ位置する。ただし、これらのまとまりの意味するところは明らかではない。なお、遺構は上部がかなり削平されており、その遺存状態は良くなかった。

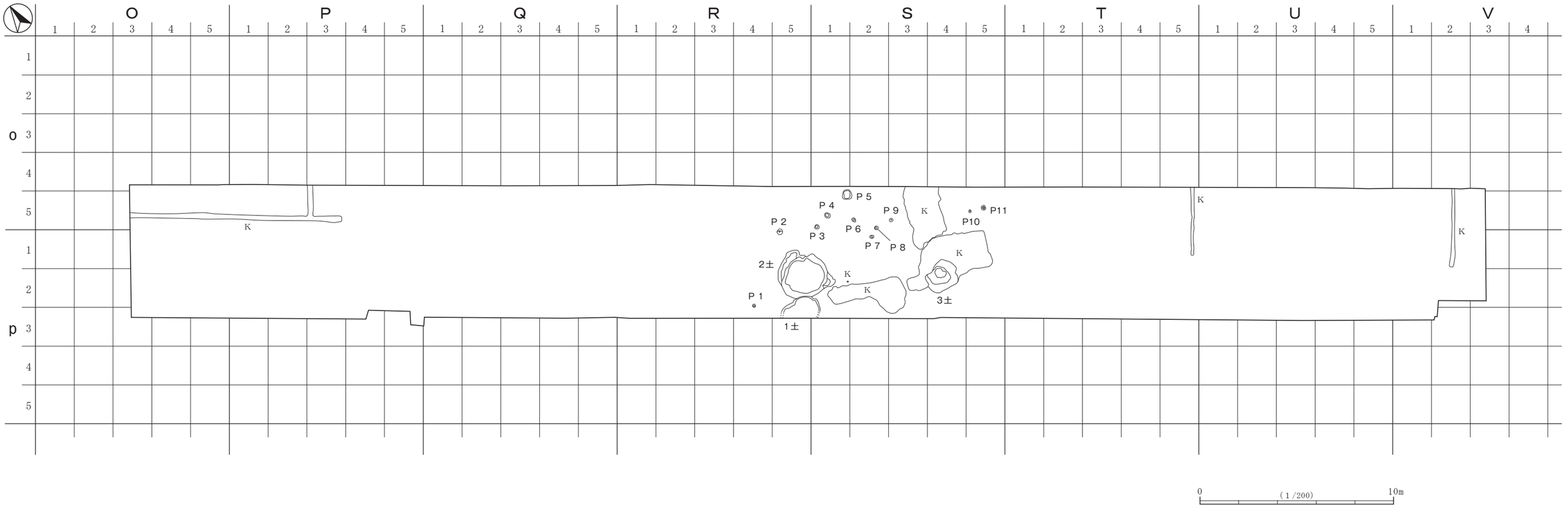
以下、中世、古代の順に遺構について記述していく。なお、遺構は、種別ごとに両時代を通じて連続した番号を付している。

２　中　世

１・２号土坑（第８図、図版３）

１号土坑は、Rp5-2～Sp1-3グリッドに位置する。遺構の一部が南側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明であるが、平面は不整な円形もしくは楕円形と推定される。確認できた規模は、東西方向に197㎝、南北方向に113㎝、検出面から底面までの深さは６㎝である。断面は浅い皿状で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂礫土の単層である。２号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、土師器の小破片が１点出土しているが、遺構の時期を示すものではない。

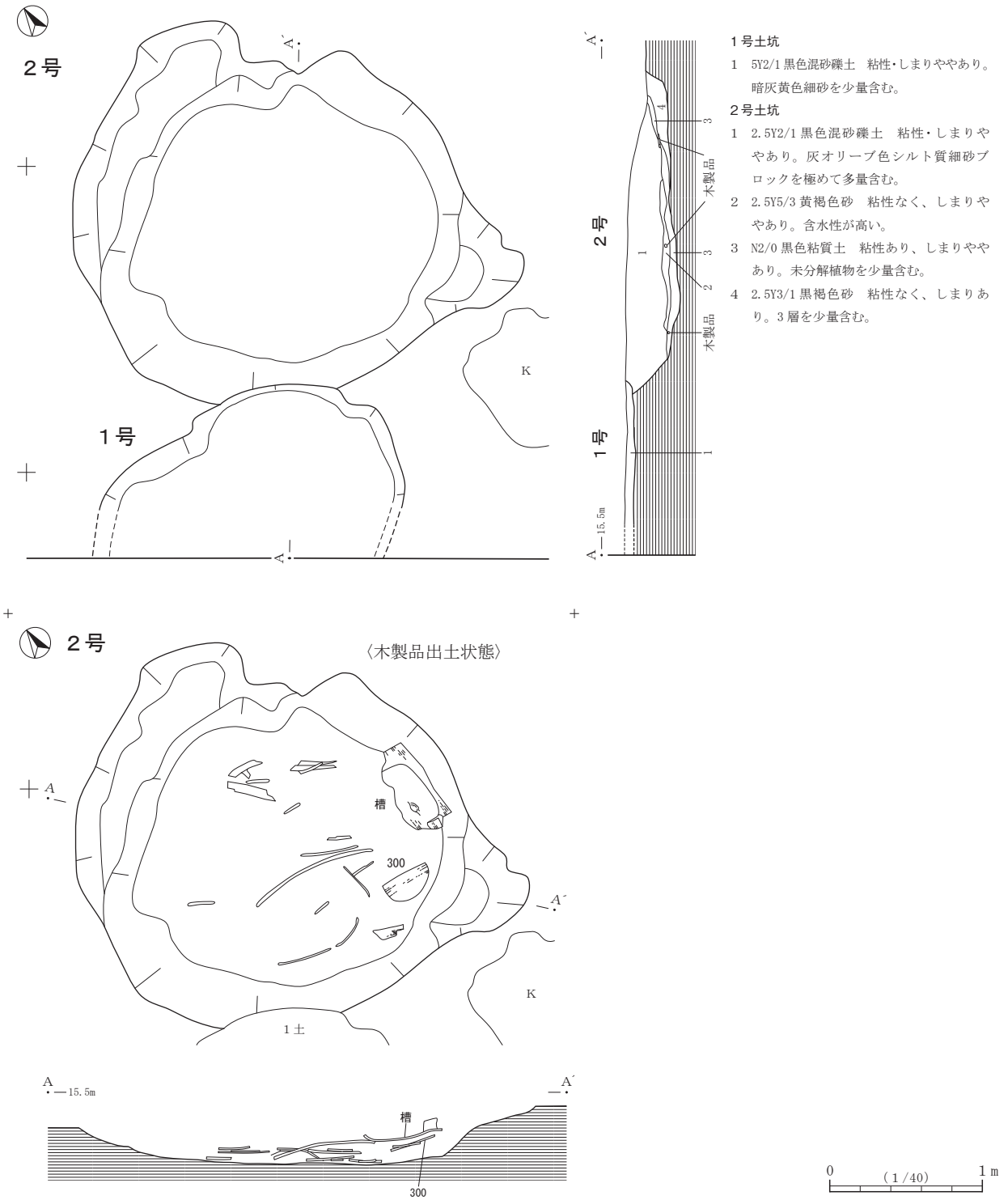
２号土坑は、Rp5-1 ～ Sp1-2 グリッドに位置する。平面は不整な円形で、東側と西側にそれぞれテラス状の段がみられる。規模は、長軸が 299 ㎝、短軸が 250 ㎝、検出面から底面までの深さは 35 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は４層に分けられる。１号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、底面の直上から、浅い容器の槽、板状木製品、棒状木製品といった木製品が出土した。ただし、いずれも脆く、遺存状態が劣悪であったため、形を保って取り上げることができたのは、蓋板（300）を含めて、３点のみである。そのほかに、須恵器と土師器の小破片がそれぞれ２点ずつと、オニグルミ核とみられる種実が１点出土している。なお、出土した須恵器と土師器は、１号土坑と同様、遺構の時期を示すものではない。



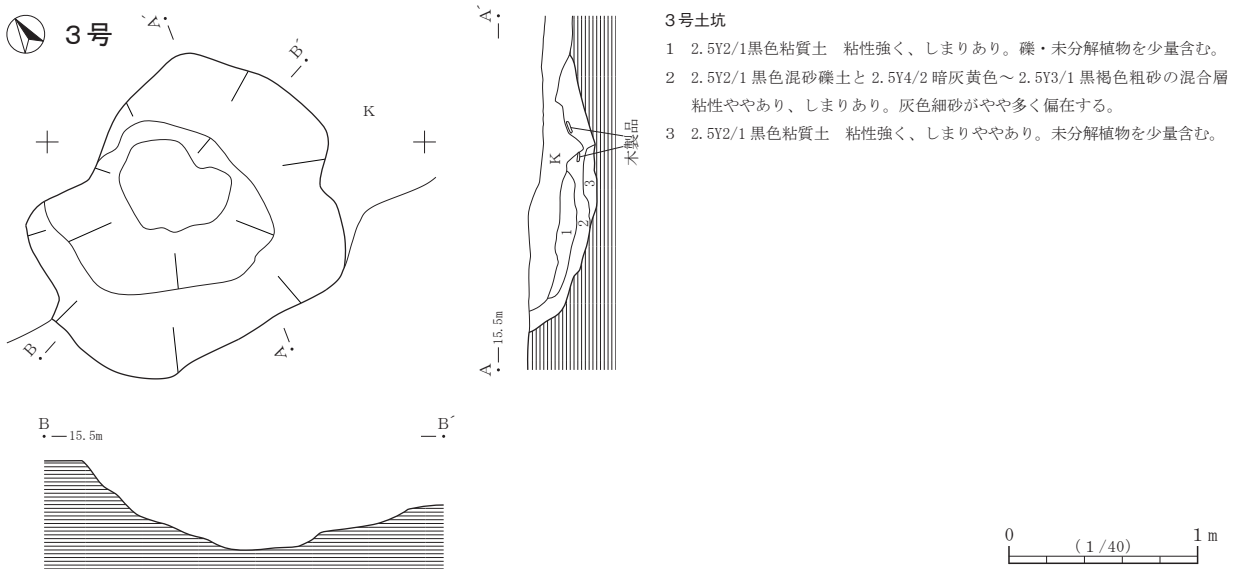
第７図　遺構の位置（中世）

３号土坑（第９図、図版３）

Sp3-2・4-1・4-2グリッドに位置する。上部を近世の攪乱によって壊されているため、全体の詳細な規模は不明であるが、平面は不整な隅丸長方形と推定される。確認できた規模は、長軸が174㎝、短軸が146㎝、検出面から底面までの深さは35㎝である。断面は弧状で､底面は平坦だがやや丸みを帯びる。埋土は３層に分けられる。遺物は、須恵器と土師器の破片が少量と、土師質土器、木製品の小破片が出土している。土師質土器は１層から出土した。器種は小皿（９）である。出土遺物から、本遺構は13世紀代の所産と考えられる。



第８図　１・２号土坑



第９図　３号土坑

１～11号ピット（Ｐ１～Ｐ11）（第10図、図版６）

１号ピット（Ｐ１）は、Rp4-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 16 ㎝、短軸が 15 ㎝、検出面から底面までの深さは 13 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

２号ピット（Ｐ２）は、Ro5-5、Rp5-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 29 ㎝、短軸が 28 ㎝、検出面から底面までの深さは17 ㎝である。断面はＶ字形で、底面は狭小である。埋土は２層に分けられる。遺物は、１層の黒色砂質土から木製品が出土している。柱根の一部にも見えるが、判然としない。

３・４号ピット（Ｐ３・Ｐ４）は、So1-5 グリッドに位置する。Ｐ３は、平面が円形で、規模は径が 23 ㎝、検出面から底面までの深さは 20 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は平坦である。Ｐ４は、平面が楕円形で、規模は長軸が 31 ㎝、短軸が 25 ㎝、検出面から底面までの深さは 12 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。なお、どちらのピットも、遺物は出土していない。

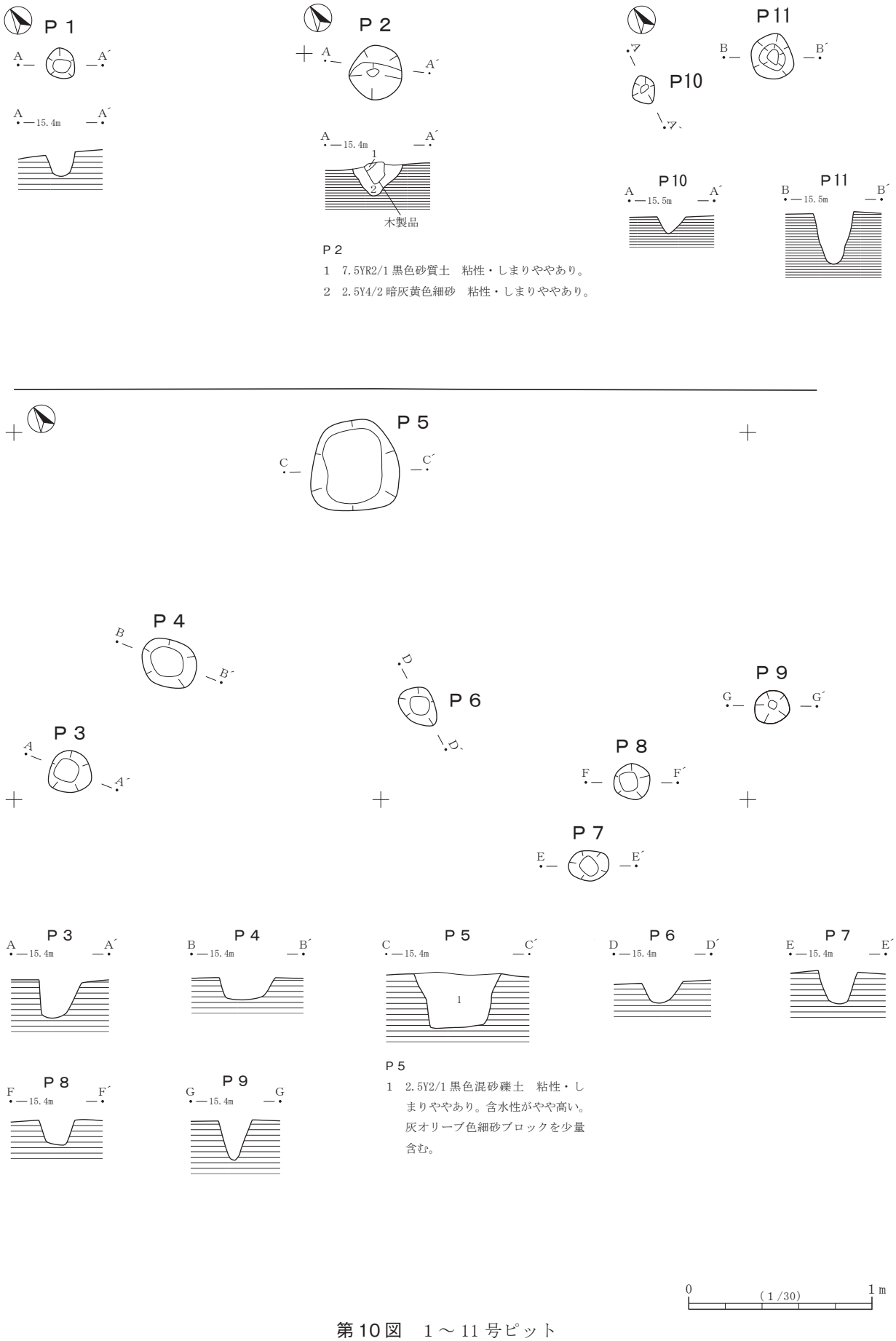
５号ピット（Ｐ５）は So1-4・1-5・2-4・2-5 グリッドに位置する。平面は隅丸の方形で、規模は長軸が 49 ㎝、短軸が 48 ㎝、検出面から底面までの深さは 30 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂礫土の単層である。遺物は出土していない。

６・８号ピット（Ｐ６・Ｐ８）は、So2-5 グリッドに位置する。Ｐ６は、平面が楕円形で、規模は長軸が 24 ㎝、短軸が 18 ㎝、検出面から底面までの深さは 11 ㎝である。断面は逆台形で、底面は丸みを持つ。Ｐ８は、平面が円形で、規模は径が 19 ㎝、検出面から底面までの深さは 14 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦だが、やや傾斜する。どちらのピットも、遺物は出土していない。

７号ピット（Ｐ７）は、Sp2-1 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 22 ㎝、短軸が 16 ㎝、検出面から底面までの深さは 17 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

９号ピット（Ｐ９）は、So3-5 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 19 ㎝、短軸が 18 ㎝、検出面から底面までの深さは 22 ㎝である。断面はＶ字形で、底面は狭小である。遺物は出土していない。

10・11 号ピット（Ｐ 10・Ｐ 11）は、So5-5 グリッドに位置する。Ｐ 10 は、平面が隅丸の方形で、規模は長軸が 19 ㎝、短軸が 12 ㎝、検出面から底面までの深さは９㎝である。断面はＶ字形で、底面は狭小である。Ｐ 11 は、平面が隅丸の方形で、規模は長軸が 24 ㎝、短軸が 22 ㎝、検出面から底面までの深さは 28 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は丸みを持つ。なお、どちらのピットも、遺物は出土していない。



P 2

1　7.5YR2/1 黒色砂質土　粘性・しまりややあり。

2　2.5Y4/2 暗灰黄色細砂　粘性・しまりややあり。

P 5

1　2.5Y2/1 黒色混砂礫土　粘性・しまりややあり。含水性がやや高い。灰オリーブ色細砂ブロックを少量含む。

第10図　1～11号ピット

３　古　代

４号土坑（第 12 図、図版４）

Qp4-2・5-1・5-2 グリッドに位置する。遺構の一部が南側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明である。確認できた規模は、東西方向に 270 ㎝、南北方向に 58 ㎝、検出面から底面までの深さは最も深いところで 23 ㎝である。断面は浅い皿状である。底面は平坦だが、中央部のやや東寄りにもう一段掘り込みがある。埋土は黒褐色混砂礫土の単層である。16 号ピットと一部重複し、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、須恵器坏・横瓶と土師器鍋・甕が出土している。出土遺物から、本遺構は８世紀第４四半期から９世紀初頭頃の所産と考えられる。

５号土坑（第12図、図版４）

Qo5-5、Ro1-5 グリッドに位置する。平面は長方形で、規模は長軸が 73 ㎝以上、短軸が 33 ㎝、検出面から底面までの深さは最も深いところで 17 ㎝である。断面は浅い皿状である。底面は平坦だが、中央部がピット状に一段掘り込まれている。埋土は２層に分けられる。19 号ピットと一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、１層から須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。本遺構の年代については、出土遺物の遺存状態が良くないため判然としないが、ここでは８世紀後半の所産と考えておきたい。

６号土坑（第 12 図、図版４）

Ro2-5 ～ Rp3-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 102 ㎝、短軸が 100 ㎝、検出面から底面までの深さは 25 ㎝である。断面は箱形で、底面は平坦である。埋土は黒色混砂礫土の単層で、遺物は土師器甕の破片が１点のみ出土した。

７号土坑（第 12 図、図版４）

So2-5 ・3-5、Sp3-1 グリッドに位置する。平面は不整な楕円形で、規模は長軸が 158 ㎝以上、短軸が 129 ㎝、検出面から底面までの深さは 18 ㎝前後である。断面は逆台形で、埋土は黒色粘質土の単層である。底面は凹凸が著しく、また、遺構の周縁部にピット状の凹みが多くみられることから、植栽痕の可能性もある。28・29 号ピットとそれぞれ一部重複しており、新旧関係は本遺構が両者よりも古い。遺物は出土していない。

８号土坑（第 12 図、図版５）

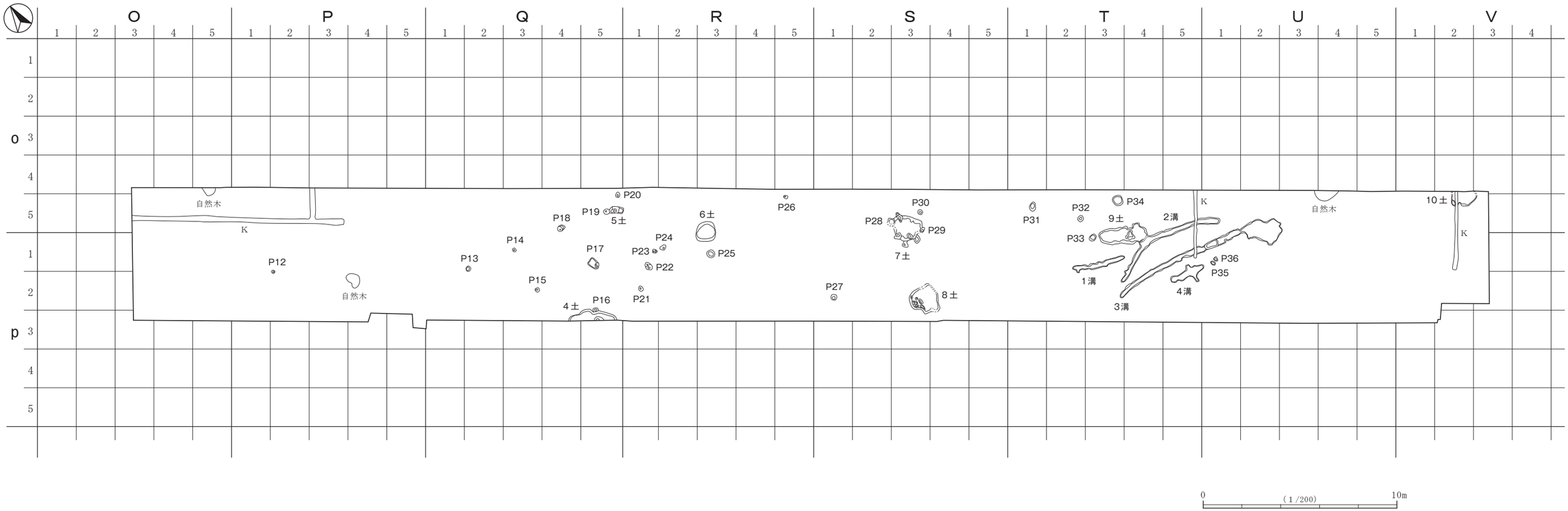
Sp3-2 ～ 4-3 グリッドに位置する。平面は不整形で、規模は長軸が 149 ㎝、短軸が 140 ㎝、検出面から底面までの深さは 14 ㎝前後である。断面は逆台形である。底面は凹凸があり、西側部分にはピット状の凹みが多くみられる。埋土は暗灰黄色混砂礫土の単層で、遺物は須恵器坏の破片が１点のみ出土した。

９号土坑（第 13 図、図版５）

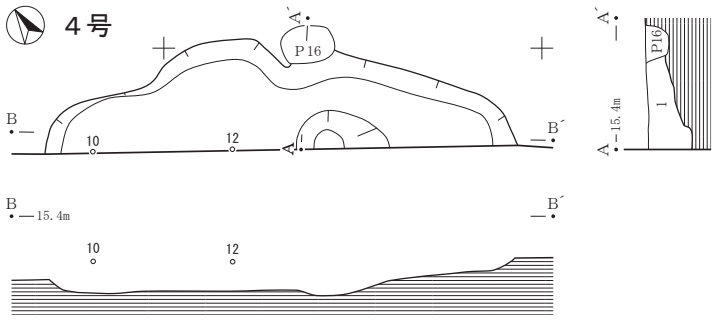
To3-5 ～ Tp5-1 グリッドに位置する。平面は不整な楕円形で、規模は長軸が 249 ㎝、短軸が 91 ㎝である。検出面から底面までの深さは４～ 13 ㎝とばらつく。断面は弧状だが、東側部分では浅い皿状となる。底面は凹凸が著しく、島状の凸部もみられる。埋土は２層に分けられる。２号溝と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が古い。遺物は、須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。出土遺物から、本遺構は８世紀末から９世紀初頭の所産と考えられる。

10 号土坑（第 12 図、図版５）

Vo2-4 ～ 3-5 グリッドに位置する。遺構の一部が北側の調査区外に広がるため、全体の規模は不明だが、平面は不整な円形もしくは楕円形と推定される。確認できた規模は、東西方向に 130 ㎝、南北方向に 75 ㎝、検出面から底面までの深さは５㎝である。断面は浅い皿状で、底面は若干起伏があるが、概ね平坦である。埋土は黄灰色粘質土の単層で、遺物は須恵器坏が出土している。

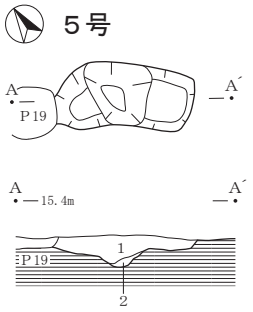


第 11 図　遺構の位置（古代）



4号土坑

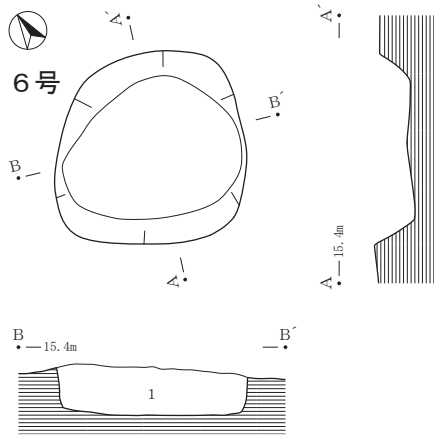
1　2.5Y3/1 黒褐色混砂礫土　粘性・しまりややあり。炭化物粒を少量含む。



5号土坑

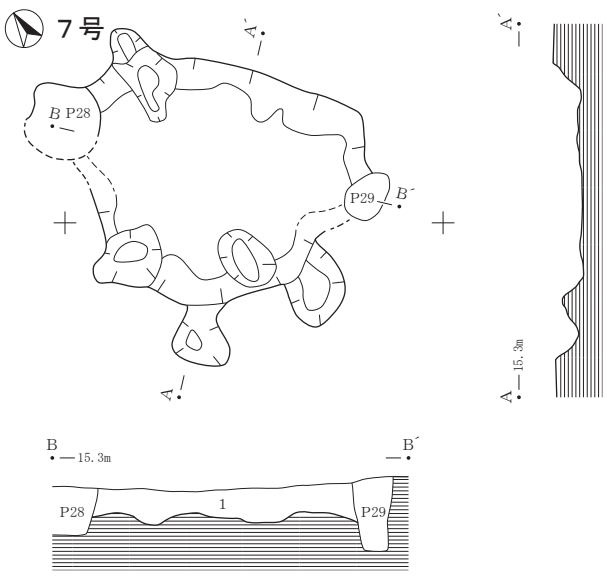
1　2.5Y4/2 暗灰黄色土　粘性・しまりややあり。炭化物粒を少量含む。

2　2.5Y2/1 黒色粘質土　粘性あり、しまりややあり。



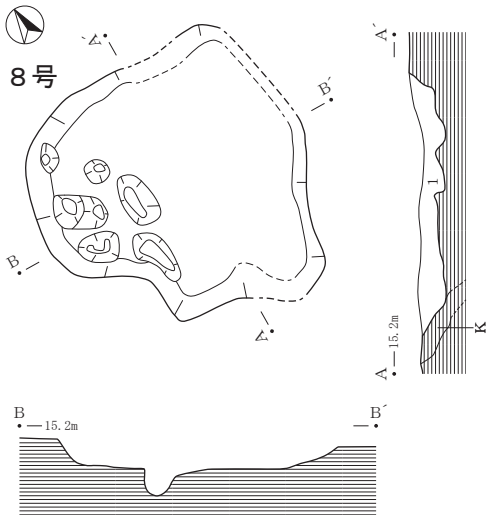
6号土坑

1　2.5Y2/1 黒色混砂礫土　粘性ややあり、しまりあり。黒褐色砂がやや多く偏在。



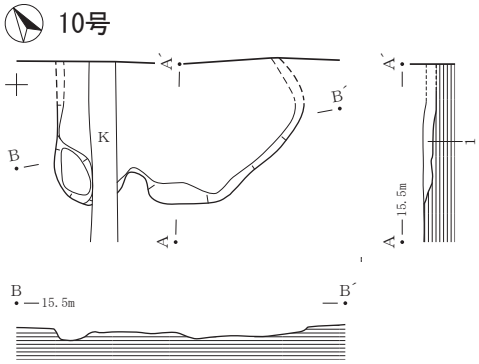
7号土坑

1　7.5YR3/1 黒色粘質土　粘性あり、しまりややあり。含水性がやや高い。繊維状の未分解植物をやや多く、炭化物粒を少量含む。



8号土坑

1　2.5Y4/2 暗灰黄色混砂礫土　粘性・しまりややあり。含水性がやや高い。黒色土をやや多く含む。

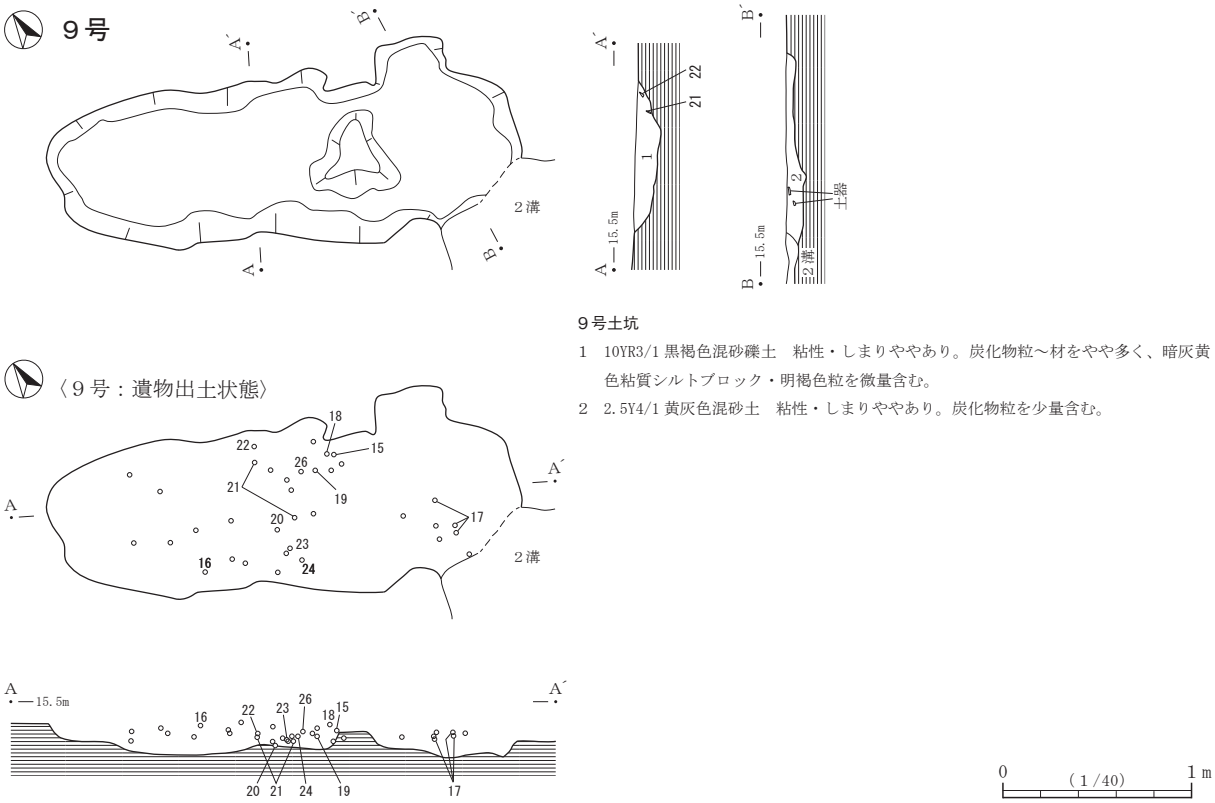


10号土坑

1　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまりあり。礫・繊維状の未分解植物を多量、炭化物粒を少量含む。

0　(1/40)　1m

第12図　4～8・10号土坑



9号土坑

1　10YR3/1 黒褐色混砂礫土　粘性・しまりややあり。炭化物粒～材をやや多く、暗灰黄色粘質シルトブロック・明褐色粒を微量含む。

2　2.5Y4/1 黄灰色混砂土　粘性・しまりややあり。炭化物粒を少量含む。

第13図　9号土坑

1号溝（第14図、図版５・６）

Tp2-1 ～ 4-1 グリッドに位置する。幅は 24 ～ 37 ㎝、検出面から底面までの深さは５～９㎝で、東西方向へ直線状に延びる。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は黒褐色土の単層で、遺物は須恵器坏のほか、土師器甕の破片が２点出土している。出土遺物から、本遺構は９世紀第３四半期頃の所産と考えられる。

2号溝（第 14 図、図版５・６）

Tp3-2 ～ Uo1-5 グリッドに位置する。幅は 17 ～ 45 ㎝、検出面から底面までの深さは２～７㎝で、緩やかに湾曲しつつ東西方向へ延びる。断面は逆台形で、底面は平坦である。埋土は２層に分けられる。９号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、２層から須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。本遺構の詳細な時期は不明だが、９号土坑より新しいことから、９世紀以降の所産としておきたい。

3号溝（第 15 図、図版５・６）

Tp3-2 ～ Uo3-5 グリッドに位置する。幅は 19 ～ 40 ㎝、検出面から底面までの深さは４～９㎝で、東西方向へ直線状に延び、東端部で不整形な土坑状になる。断面は逆台形である。底面は平坦だが、Up1-1 グリッド付近はやや凹凸がみられる。なお、土坑状の部分は長軸が 195 ㎝、短軸が 130 ㎝、検出面からの深さは２～９㎝で、底面の凹凸が著しい。埋土は２層に分けられ、遺物は１層から須恵器坏・坏蓋と土師器甕が出土している。出土遺物から、本遺構は８世紀末から９世紀初頭頃の所産と考えられる。

4号溝（第 14 図、図版５・６）

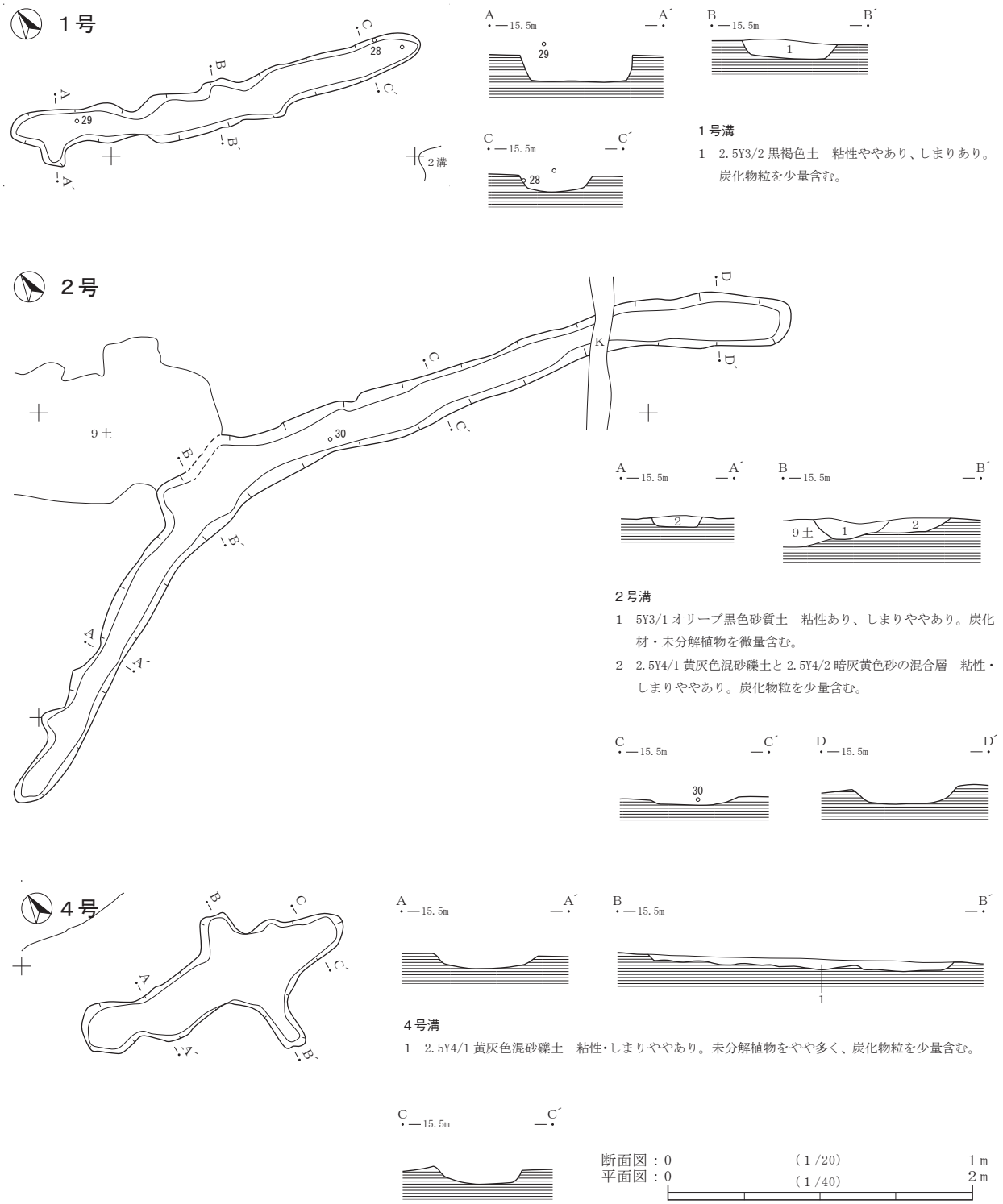
Tp5-1 ・5-2、Up1-1グリッドに位置する。幅は24～34㎝、検出面から底面までの深さは２～５㎝で、東西方向へ直線状に延びる。検出時は、別の溝が直交しているようにも見えたが、埋土を観察した結果、同一の遺構と判断した。断面は浅い皿状で、底面は平坦である。埋土は黄灰色混砂礫土の単層で、遺物は須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。

12 ～ 36 号ピット（P 12 ～ P 36）（第 16 ・17 図、図版 6 ）

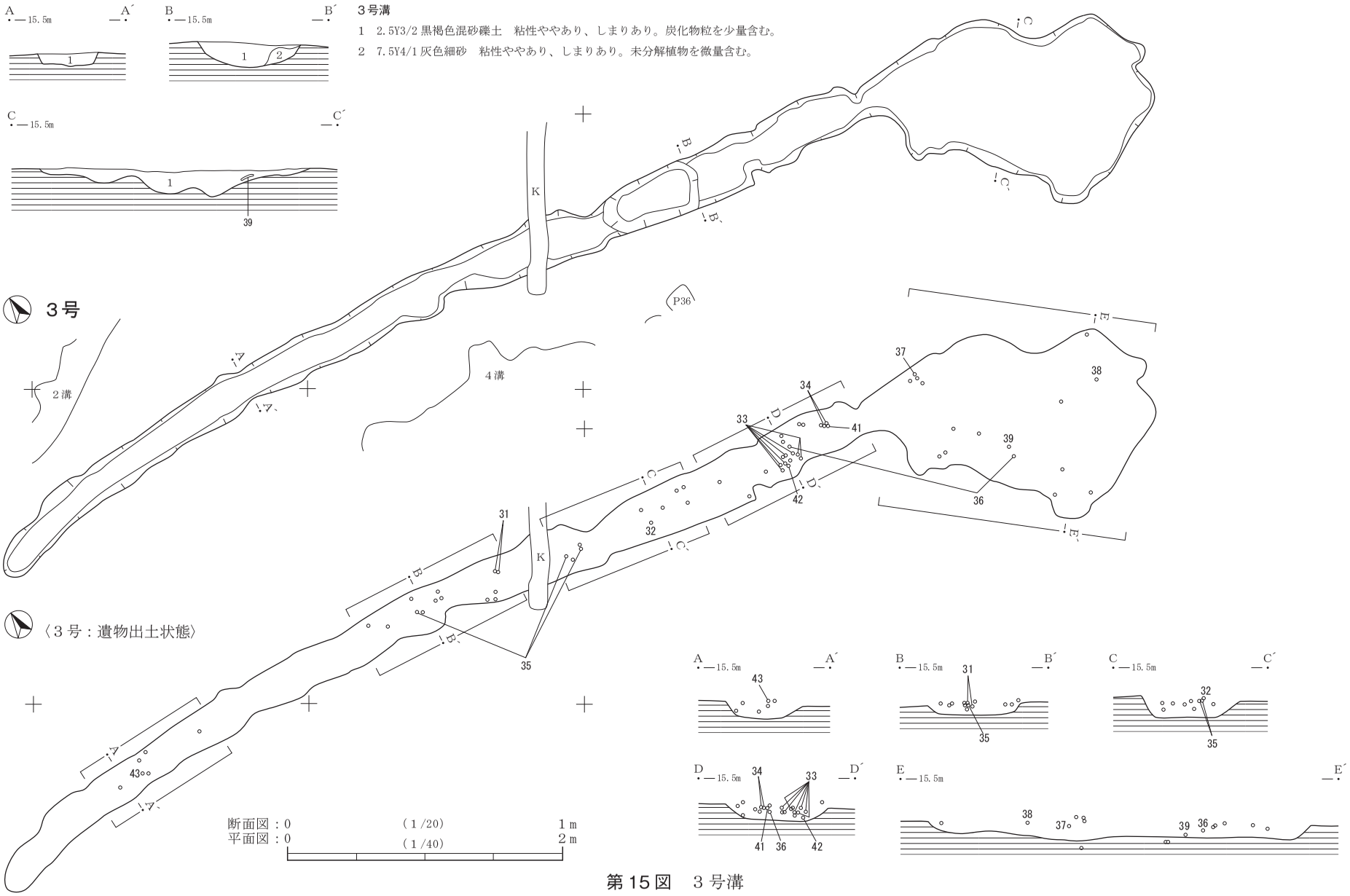
12 号ピット（P 12）は、Pp2-1・2-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 18 ㎝、短軸が 16 ㎝、検出面から底面までの深さは 11 ㎝である。断面は逆台形で、底面はやや丸みを持つ。遺物は出土していない。

13 号ピット（P 13）は、Qp2-1 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 28 ㎝、短軸が 25 ㎝、検出面から底面までの深さは 14 ㎝である。断面は逆台形で、底面は傾斜する。遺物は出土していない。

14 号ピット（P 14）は、Qp3-1 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 20 ㎝、短軸が 17 ㎝、



第 14 図　1 ・ 2 ・ 4 号溝


3号溝
1　2.5Y3/2 黒褐色混砂礫土　粘性ややあり、しまりあり。炭化物粒を少量含む。
2　7.5Y4/1 灰色細砂　粘性ややあり、しまりあり。未分解植物を微量含む。
3号
2溝
4溝
P36
〈3号：遺物出土状態〉
断面図：0　(1/20)　1m
平面図：0　(1/40)　2m

第15図　3号溝

検出面から底面までの深さは 13 ㎝である。断面はＵ字形で、底面はやや丸みを持つ。遺物は出土していない。

15 号ピット（Ｐ 15）は、Qp3-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は径 23 ㎝、検出面から底面までの深さは 14 ㎝である。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物は、土師器甕の破片が２点出土している。

16 号ピット（Ｐ 16）は、Qp5-2・5-3 グリッドに位置する。平面は楕円形、規模は長軸が 28 ㎝、短軸が 20 ㎝、検出面から底面までの深さは 12 ㎝である。断面は逆台形、底面は平坦である。４号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は出土していない。

17 号ピット（Ｐ 17）は、Qp5-1 グリッドに位置する。平面はやや不整な長方形、断面は浅い皿状であるが、南側部分が一段掘り込まれている。規模は長軸が 60 ㎝、短軸が 42 ㎝で、検出面から掘り込み部分の底面までは深さ 14 ㎝である。埋土は２層に分けられる。遺物は、須恵器坏（45）のほか、土師器甕が出土している。

18 号ピット（Ｐ 18）は、Qo4-5 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 39 ㎝、短軸が 29 ㎝、検出面から底面までの深さは 15 ㎝である。断面は逆台形で、西側部分が掘り込まれている。出土遺物はない。

19･20 号ピット（Ｐ 19・Ｐ 20）は、Qo5-5 グリッドに位置する。Ｐ 19 は、平面が楕円形で、規模は長軸が 31 ㎝、短軸が 27 ㎝、検出面から底面までの深さは 19 ㎝である。断面はＶ字形で、底面は平坦だが狭小である。５号土坑と一部重複しており、新旧関係は本遺構の方が新しい。遺物は、土師器甕の破片が２点出土している。Ｐ 20 は、平面が楕円形で、規模は長軸が 28 ㎝、短軸が 22 ㎝、検出面から底面までの深さは 34 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

21 号ピット（Ｐ 21）は、Rp1-2 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 28 ㎝、短軸が 22 ㎝、検出面から底面までの深さは 12 ㎝である。断面は弧状で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

22・23 号ピット（Ｐ 22・Ｐ 23）は、Rp1-1 グリッドに位置する。Ｐ 22 は、平面が楕円形、規模は長軸が 45 ㎝、短軸が 32 ㎝で、検出面から底面までの深さは 30 ㎝である。断面は箱形で、底面は凹凸がある。遺物は、土師器甕の破片が２点出土している。Ｐ 23 は、平面が不整な隅丸長方形で、東側にテラス状の段がある。規模は長軸が 24 ㎝、短軸が 19 ㎝、検出面から底面までの深さは 24 ㎝で、断面はＶ字形である。遺物は出土していない。

24 号ピット（Ｐ 24）は、Rp2-1 グリッドに位置する。平面は不整な隅丸の方形で、規模は長軸が 28 ㎝、短軸が 27 ㎝、検出面から底面までの深さは 12 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

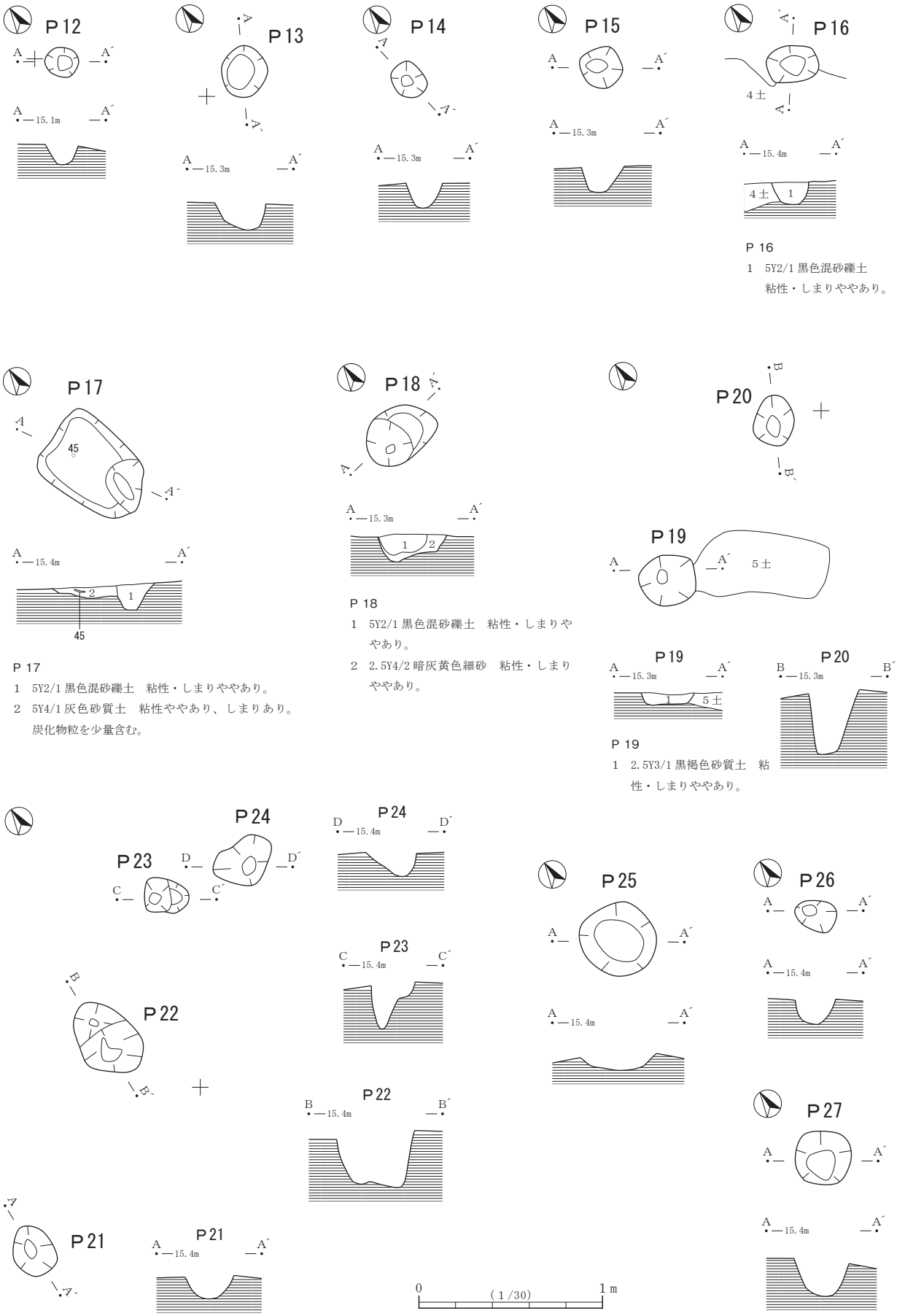
25 号ピット（Ｐ 25）は、Rp3-1 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 42 ㎝、短軸が 20 ㎝、検出面から底面までの深さは８㎝である。断面は緩やかな弧状で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

26 号ピット（Ｐ 26）は、Ro5-5 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 23 ㎝、短軸が 17 ㎝、検出面から底面までの深さは 13 ㎝である。断面はＵ字形で、底面はやや傾斜する。遺物は出土していない。

27 号ピット（Ｐ 27）は、Sp1-2 グリッドに位置する。平面は円形で、規模は長軸が 30 ㎝、短軸が 29 ㎝、検出面から底面までの深さは 19 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は丸みを持つ。遺物は出土していない。

28 ～ 30 号ピット（Ｐ 28 ～Ｐ 30）は、So2-5 ・ 3-5 グリッドに位置する。Ｐ 28 は、平面が不整な円形と推定される。規模は径が 39 ㎝で、検出面から底面までの深さは 25 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。Ｐ 29 は、平面が楕円形で、規模は長軸が 27 ㎝、短軸が 20 ㎝、検出面から底面までの深さは 39 ㎝である。断面はＵ字形で、底面は平坦である。Ｐ 28 ・29 は、７号土坑と一部重複しており、新旧関係は両者とも同土坑より新しい。Ｐ 30 は、平面が円形で、長軸が 26 ㎝、短軸が 25 ㎝、検出面から底面までの深さは 15 ㎝である。断面は逆台形で、底面は平坦である。なお、Ｐ 28 ～ 30 はいずれも遺物が出土していない。

31 号ピット（Ｐ 31）は、To5-5 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 48 ㎝、短軸が 31 ㎝、検出面から底面までの深さは 15 ㎝である。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。



P 16

1　5Y2/1 黒色混砂礫土
　粘性・しまりややあり。

P 17

1　5Y2/1 黒色混砂礫土　粘性・しまりややあり。

2　5Y4/1 灰色砂質土　粘性ややあり、しまりあり。
　炭化物粒を少量含む。

P 18

1　5Y2/1 黒色混砂礫土　粘性・しまりややあり。

2　2.5Y4/2 暗灰黄色細砂　粘性・しまりややあり。

P 19

1　2.5Y3/1 黒褐色砂質土　粘性・しまりややあり。

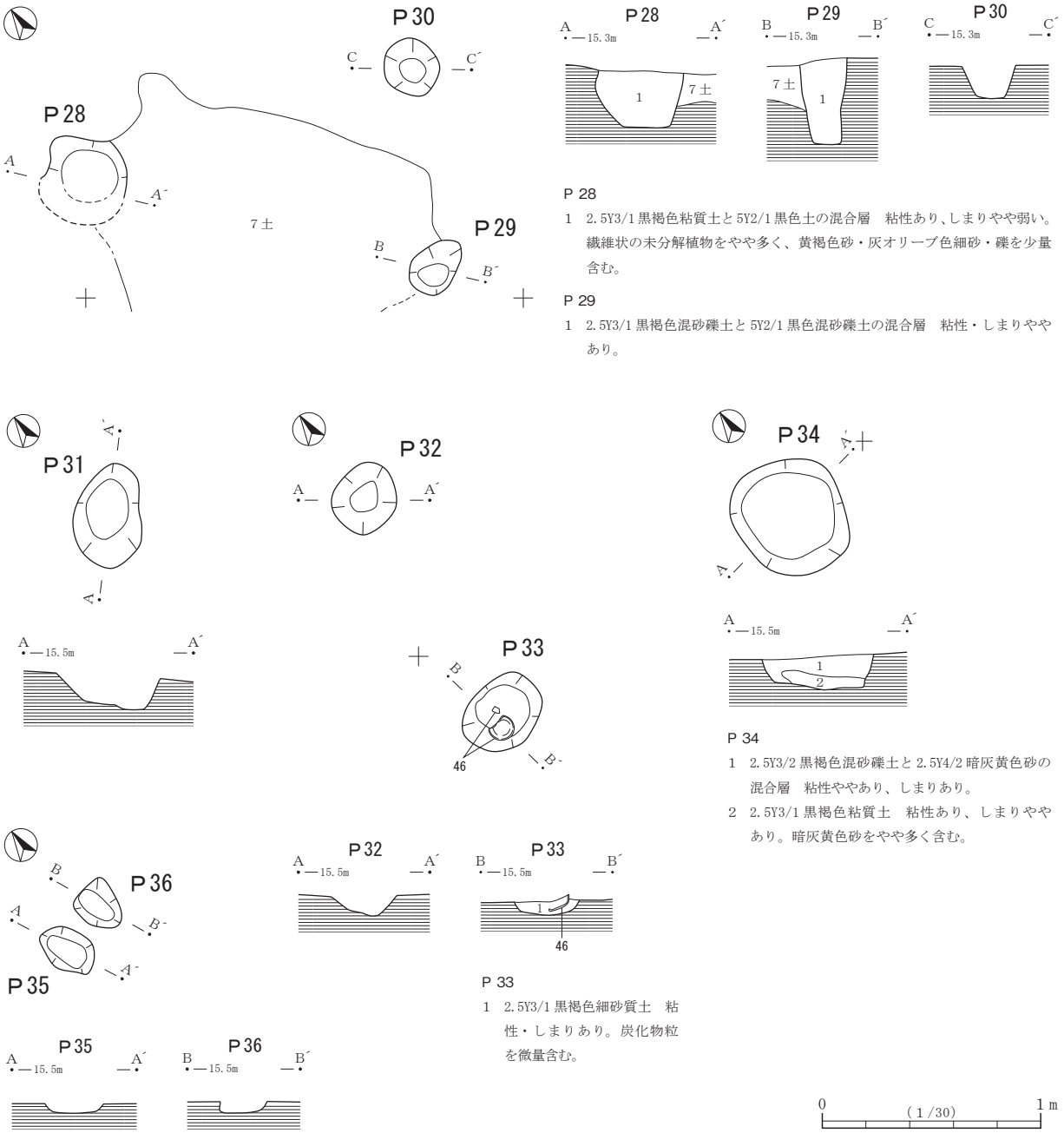
第16図　12 ～ 27 号ピット

32 号ピット（Ｐ 32）は、To2-5 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 32 ㎝、短軸が 28 ㎝、検出面から底面までの深さは９㎝である。断面は逆台形で、底面は傾斜する。遺物は出土していない。

33 号ピット（Ｐ 33）は、Tp3-1 グリッドに位置する。平面は楕円形で、長軸は 39 ㎝、短軸は 30 ㎝、検出面から底面までの深さは６㎝である。断面は緩やかな弧状で、底面は丸みを持つ。埋土は単層で、須恵器坏（46）が正位の状態で出土した。出土遺物から、本遺構は８世紀第４四半期頃の所産と考えられる。

34 号ピット（Ｐ 34）は、To3-5 グリッドに位置する。平面は楕円形で、規模は長軸が 55 ㎝、短軸が 50 ㎝、検出面から底面までの深さは 15 ㎝である。断面は箱形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

35・36 号ピット（Ｐ 35 ・Ｐ 36）は、Up1-1 グリッドに位置する。両者とも平面はやや不整な楕円形である。Ｐ 35 は、長軸 27 ㎝、短軸 19 ㎝、検出面から底面までの深さが４㎝で、断面は浅い皿状である。Ｐ 36 は、長軸 23 ㎝、短軸 19 ㎝、検出面から底面までの深さが５㎝で、断面は箱形である。どちらも遺物は出土していない。



Ｐ 28

1　2.5Y3/1 黒褐色粘質土と 5Y2/1 黒色土の混合層　粘性あり、しまりやや弱い。繊維状の未分解植物をやや多く、黄褐色砂・灰オリーブ色細砂・礫を少量含む。

Ｐ 29

1　2.5Y3/1 黒褐色混砂礫土と 5Y2/1 黒色混砂礫土の混合層　粘性・しまりややあり。

Ｐ 34

1　2.5Y3/2 黒褐色混砂礫土と 2.5Y4/2 暗灰黄色砂の混合層　粘性ややあり、しまりあり。

2　2.5Y3/1 黒褐色粘質土　粘性あり、しまりややあり。暗灰黄色砂をやや多く含む。

Ｐ 33

1　2.5Y3/1 黒褐色細砂質土　粘性・しまりあり。炭化物粒を微量含む。

第 17 図　28 ～ 36 号ピット

第Ⅳ章　遺　物

出土した遺物は、古代の須恵器と土師器が大半を占める。須恵器には墨書されたものも少量みられ、土師器では内面を黒色処理した、いわゆる黒色土器も確認された。古代の遺物としては、その他に土製品、金属製品、石製品が出土している。中世については、土師質土器と珠洲が出土している。ただし、その出土量は極めて少なく、遺構外から出土したものも含めて、わずか５点である。また、木製品も出土したが、出土量は少量であった。

１　土　器

中世の土師質土器と珠洲、および古代の須恵器と土師器について述べる。墨書のある須恵器と黒色土器については、「２　墨書土器・黒色土器」で記述するので、ここでは触れない。また、器種の名称に関して、いわゆる椀は「坏」に、小形甕は「甕」にそれぞれ含めて使用している。なお、遺物の時期の判断にあたっては、珠洲は吉岡康暢氏の編年（吉岡 1994）、古代の土器は笹澤正史氏の編年（笹澤 2019）を参考とした。

土坑（第 18 ・19 図、図版７）

３号土坑からは、土師質土器の小皿（９）が１点出土している。手づくね成形で、底部と体部の境がなく、身が浅い。口縁端部を面取りしている。形状から 13 世紀代の所産と考えられる。

４号土坑からは、須恵器坏・横瓶と土師器鍋・甕が出土している。３点（10 ～ 12）を図示した。10 は体部に沈線が巡る金属器模倣の須恵器有台坏で、笹澤編年Ⅴ１期もしくはⅤ２期に該当すると考えられる。11 は土師器甕の胴部である。12 は土師器鍋で、胴部外面の下半にスス、内面にはコゲが付着する。

５号土坑からは、須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。２点（13 ・14）を図示した。13 ・14 とも須恵器無台坏である。13 は箱形の器形と推定され、笹澤編年Ⅳ期もしくはⅤ１期に該当すると考えられる。

９号土坑からは、須恵器坏と土師器坏・甕が多く出土している。12 点（15 ～ 26）を図示した。15 ～ 18 は須恵器無台坏、19 は須恵器有台坏である。これらの坏は法量がやや小さく、笹澤編年Ⅴ２期に比定できる。20 ～ 26 は土師器甕で、そのうちの 20 ・21 は小形品である。21 は口縁部内面にコゲが付着している。

10 号土坑からは、須恵器無台坏（27）が１点出土している。口縁部から体部上半が欠損し、全体の器形が不明なため、詳細な帰属時期は明らかではない。

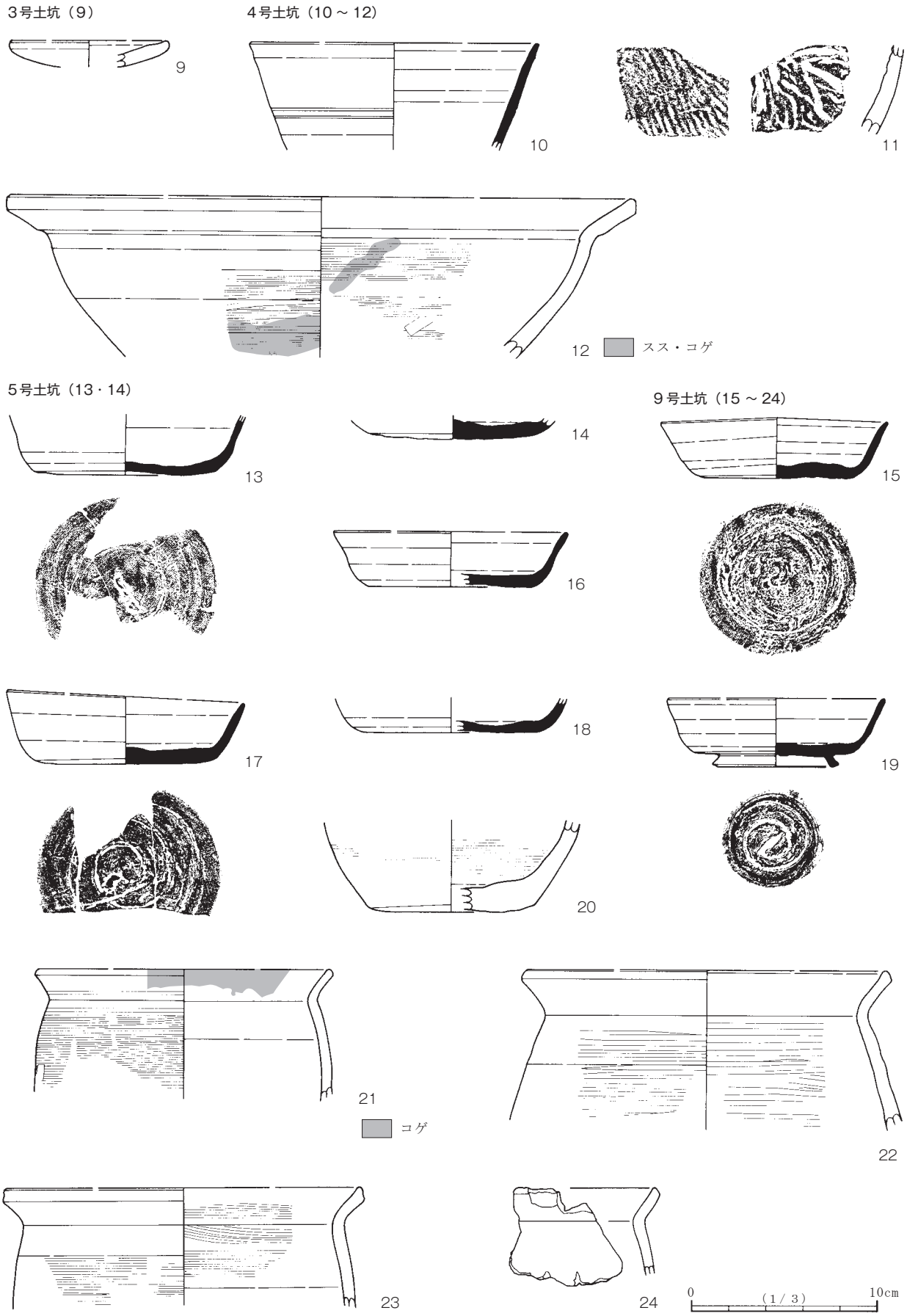
溝（第 19 図、図版７・８）

１号溝からは、須恵器坏と土師器甕が出土している。２点（28・29）を図示した。28 ・29 は須恵器無台坏で、29 は小泊産と推定される。器高も含め法量が小さく、笹澤編年Ⅶ１期新段階に比定できる。

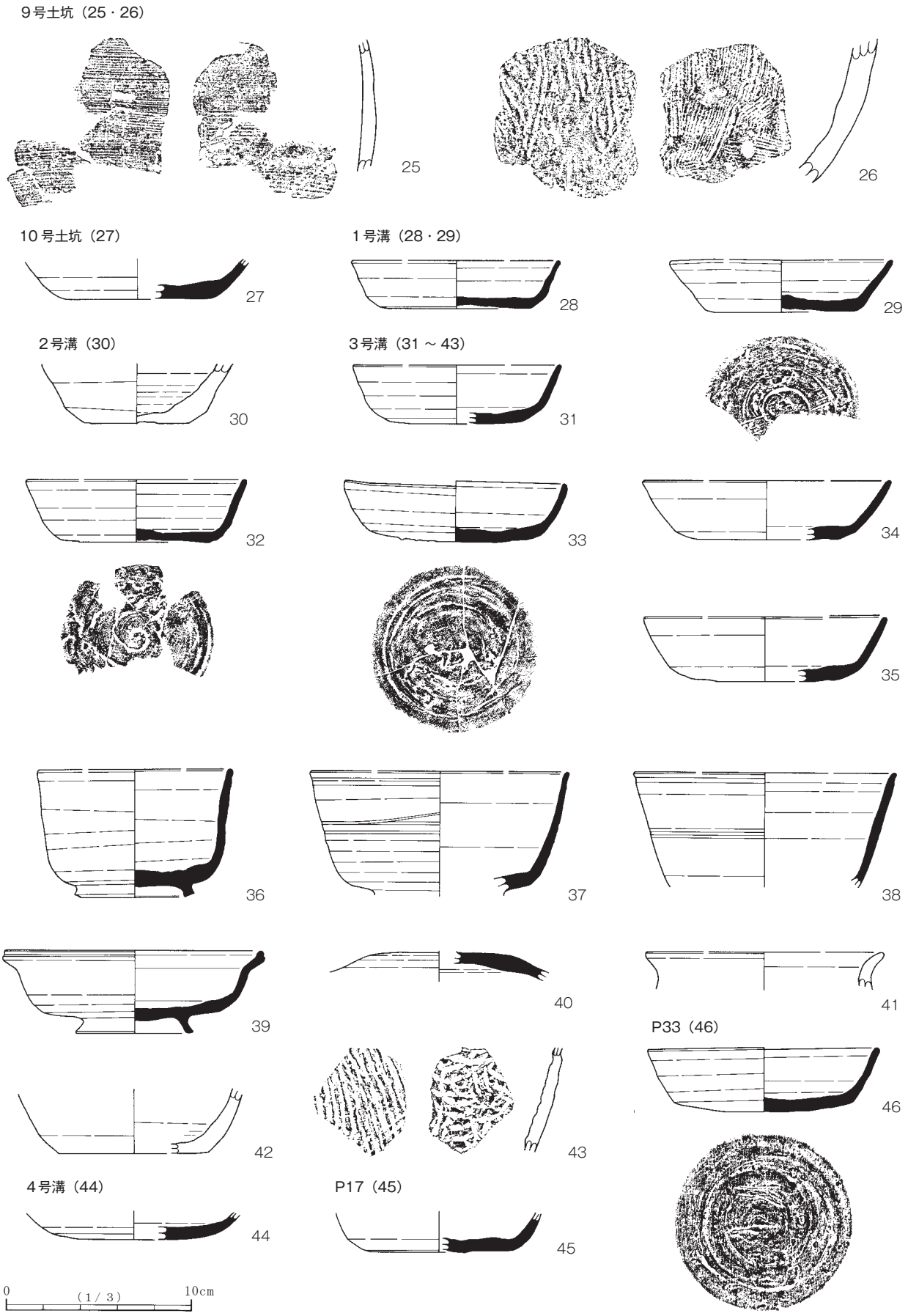
２号溝からは、須恵器坏と土師器坏・甕が出土している。１点（30）を図示した。30 は土師器甕の小形品で、胴部下端が回転ヘラケズリのため面取り状になっている。

３号溝からは、須恵器坏・坏蓋と土師器甕が多く出土している。13 点（31 ～ 43）を図示した。31 ～ 40 は須恵器である。31 ～ 35 は無台坏、36 は身の深いコップ形の有台坏、37・38 は体部外面中央に沈線が巡る金属器模倣の有台坏、39 は折縁坏、40 は坏蓋である。これら坏類の法量はやや小さく、笹澤編年Ⅴ２期に比定できる。41 ～ 43 は土師器甕で、そのうちの 41・42 は小形品である。

４号溝からは、須恵器坏と土師器坏・甕が僅かに出土している。図示した須恵器無台坏（44）は、底部のみの遺存で、全体の器形は不明である。



第18図　遺構出土の土器（1）



第19図　遺構出土の土器（2）

ピット（第19図、図版８）

17号ピット（Ｐ17）からは、須恵器坏と土師器甕が出土している。図示した須恵器無台坏（45）は、口縁部から体部上半が欠損し、全体の器形が不明である。

33号ピット（Ｐ33）からは、須恵器無台坏（46）が１点出土している。底部はやや丸みを持ち、法量はやや小さい。笹澤編年Ｖ１期に比定できる。

遺構外（第20～31図、図版８～12）

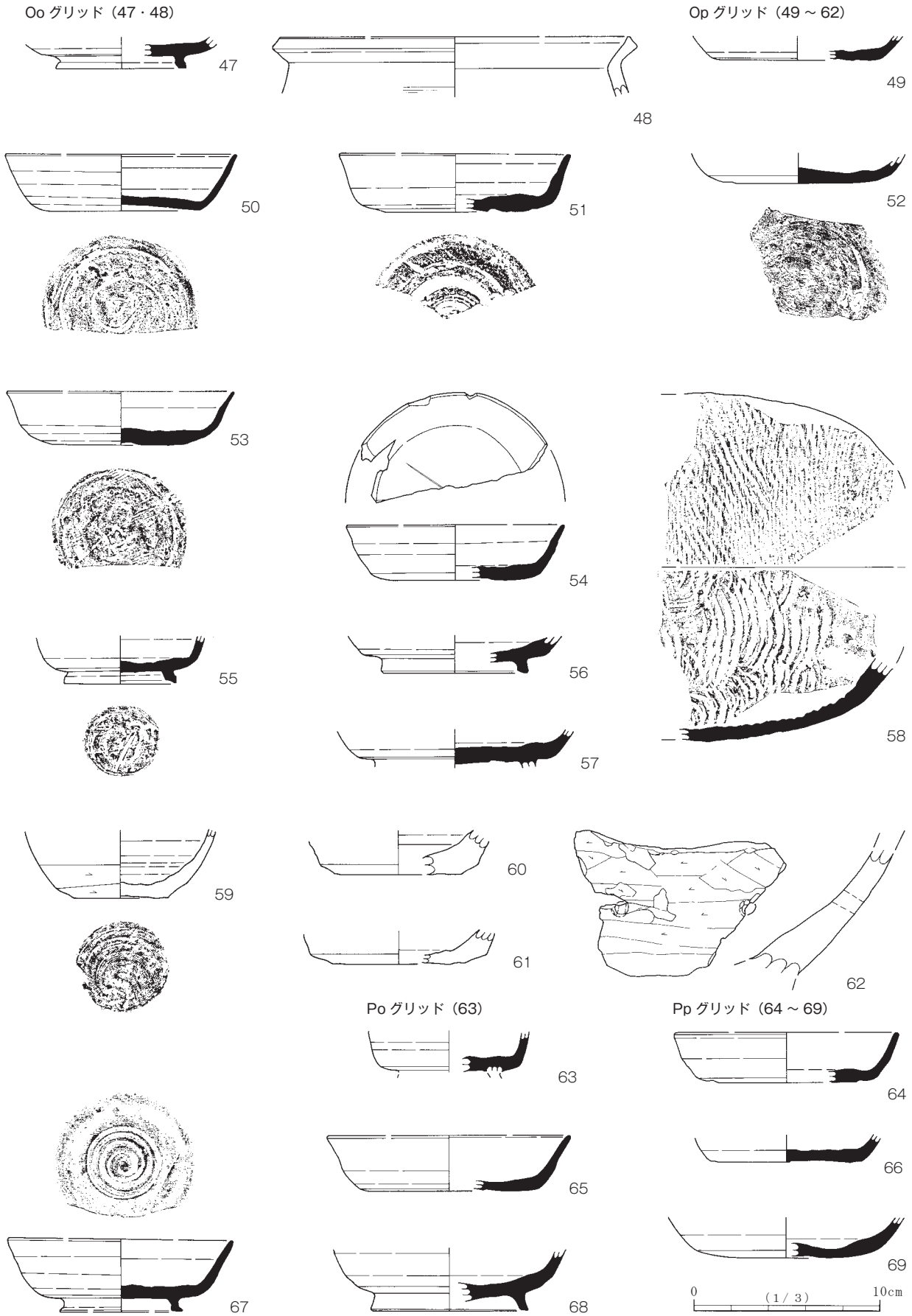
大部分が遺物包含層のⅢ層から出土している。ただし、細別した２層のうち、Ⅲａ層からの出土は少なく、大半はⅢｂ層からの出土である。出土した器種については、須恵器は坏が主体で、横瓶や甕といった貯蔵具の出土量は少ない。土師器は甕が主体だが、坏も一定量出土している。以下、グリッドごとに様相を概観する。

Ooグリッドからは須恵器坏・坏蓋と土師器甕が少量出土している。Opグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・横瓶・壺・甕と土師器坏・甕が出土している。出土量は、須恵器坏がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は僅かであった。Poグリッドからは、須恵器坏と土師器坏・甕が少量出土している。また、Ⅱ層から珠洲片口鉢の破片が１点出土している。Ppグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・把手付長頸瓶（72）・横瓶・甕と土師器坏・鍋・甕が出土している。出土量は、須恵器坏がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は少量であった。Qoグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・甕と土師器坏・甕が出土している。出土量は、須恵器坏と土師器甕がやや多く、その他の器種は僅かである。なお、珠洲片口鉢も２点（78・79）出土している。Qpグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・短頸壺蓋・横瓶・甕と土師器坏・甕が出土している。出土量は、須恵器坏が多量、土師器甕が極めて多量で、その他の器種は少量である。Roグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・甕と土師器坏・甕が少量出土している。Rpグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・壺・甕と土師器坏・鍋・甕が出土している。出土量は、須恵器坏がやや多く、土師器甕は多量である。その他の器種は少量であった。Soグリッドからは、土師器甕がやや多く、須恵器坏・坏蓋・甕と土師器坏が少量出土している。Spグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・長頸瓶・甕と土師器坏・甕が出土している。出土量は、須恵器坏と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。Toグリッドからは、土師器甕が多量に、須恵器坏・坏蓋・短頸壺蓋と土師器坏が少量出土している。Tpグリッドからは、須恵器坏・坏蓋と土師器坏・鍋・甕が出土している。出土量は、須恵器坏が多量、土師器甕が極めて多量で、その他の器種は少量である。Uoグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・横瓶・甕と土師器坏・甕が出土した。出土量は、須恵器坏と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。Upグリッドからは、須恵器坏・坏蓋・甕と土師器坏・鍋・甕が出土した。出土量は、須恵器坏と土師器甕がやや多く、その他の器種は少量である。また、土師質土器小皿（271）も出土している。Vo・Vpグリッドからは、須恵器坏と土師器甕が僅かに出土した。

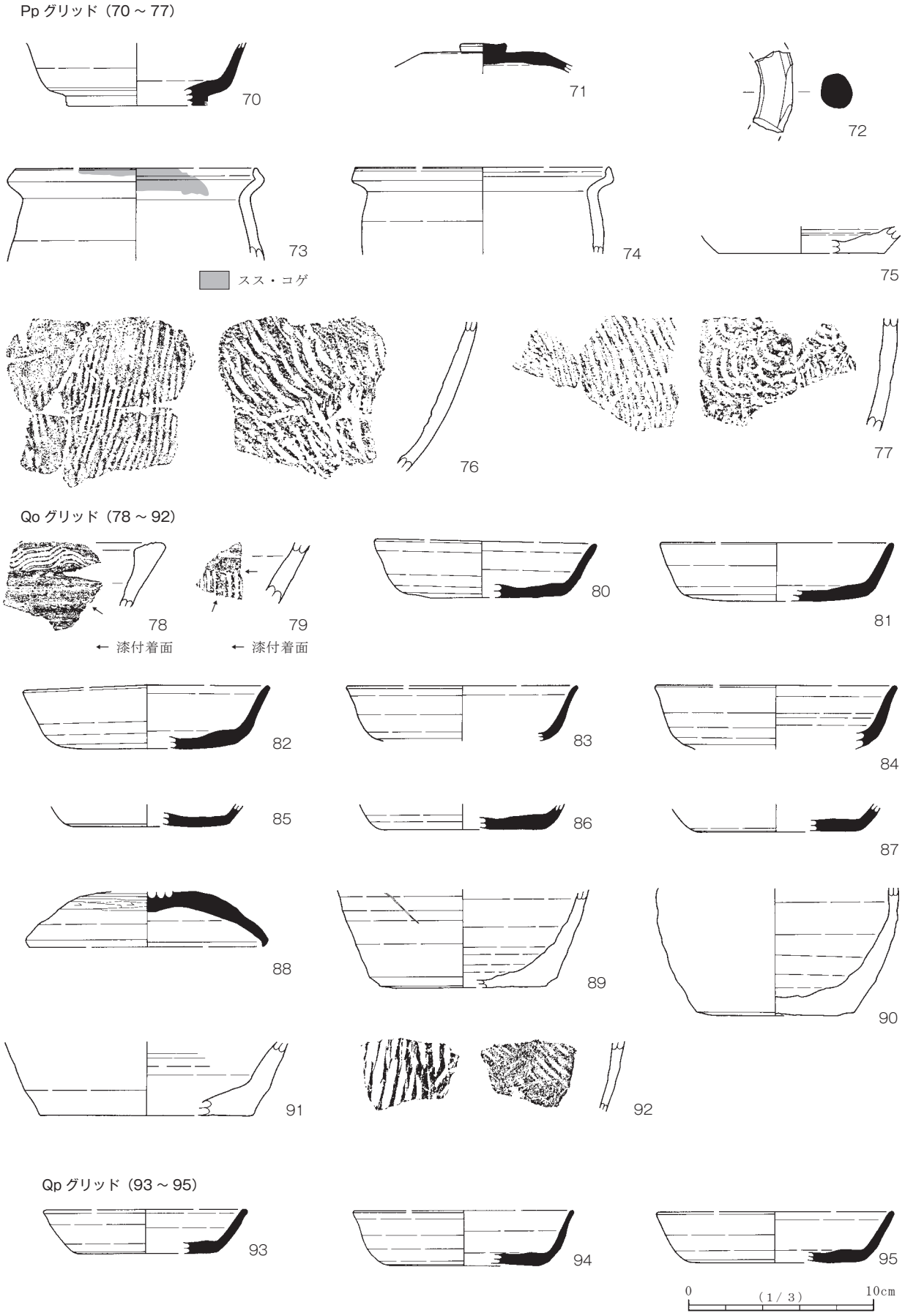
次に、特徴的な遺物について触れておく。54・89・183・247は線刻のある土器である。54は須恵器無台坏である。底部内面に「―ヵ」と、焼成前に線刻されている。89は土師器甕で、胴部外面に線が描かれている。描かれたのが焼成前か後かは判然としない。183は土師器甕の小形品である。胴部外面に複数の線が、焼成前に描かれている。247は須恵器無台坏である。底部外面に「―ヵ」と、焼成前に線刻されている。

62・157は穿孔のある土器である。62は足高の高台が付く土師器有台鉢と考えられる。体部下位に穿孔が二つ確認できる。二つの孔は位置がほぼ水平で、焼成前に開けられている。なお、上面の割れ口にも穿孔のような痕跡がみられるが、判然としない。157は土師器甕の小形品で、胴部上位に穿孔が二つ確認できる。二つの孔は位置がほぼ水平で、焼成前に開けられている。

78・79は珠洲片口鉢である。78は１面、79は２面の割れ口にそれぞれ漆が付着しており、補修の痕と考えられる。なお、両者は同一個体の可能性がある。ともに吉岡編年Ｖ期に比定され、年代は15世紀代と推定される。

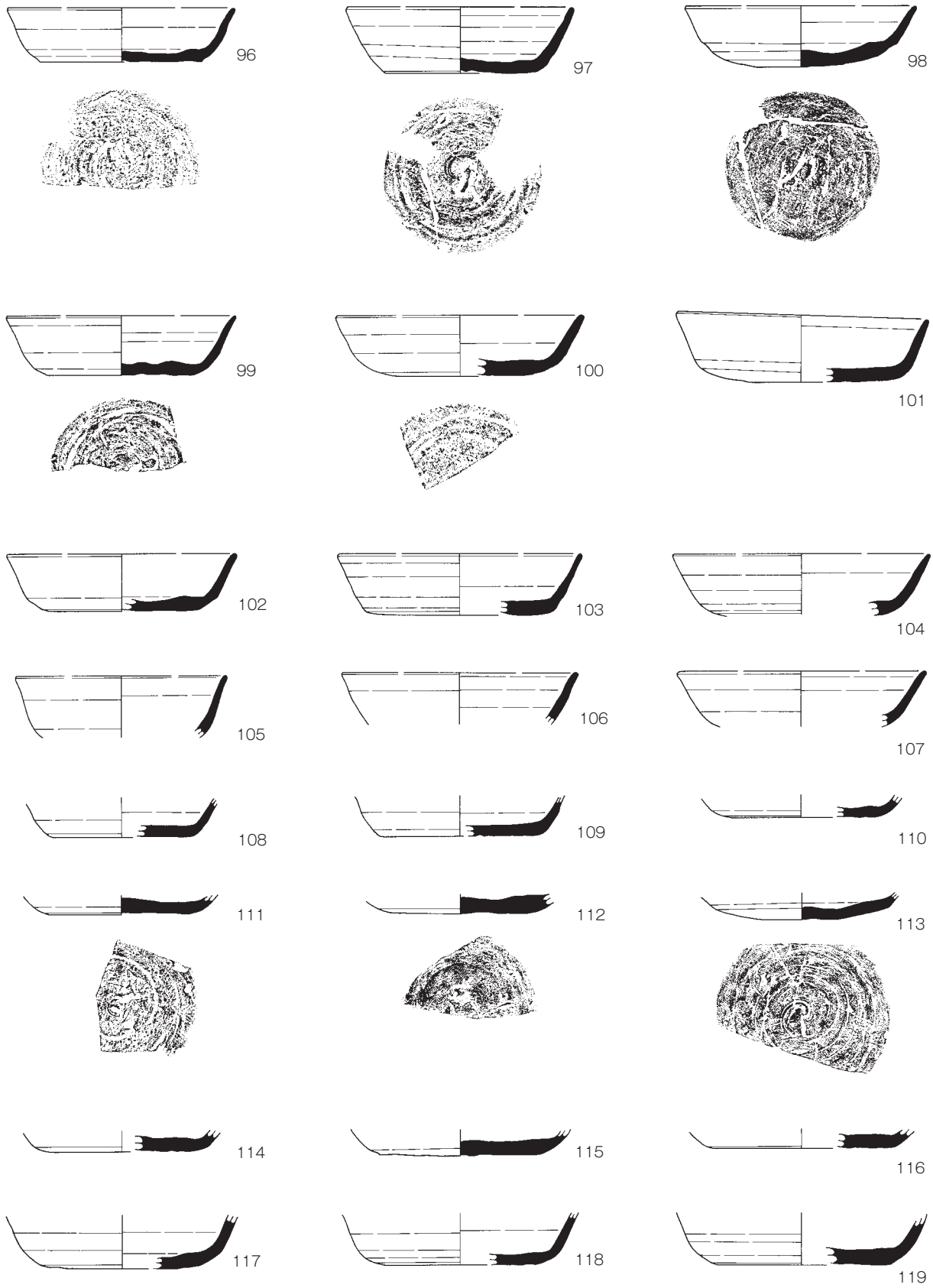


第 20 図　遺構外出土の土器（1）



第 21 図　遺構外出土の土器（２）

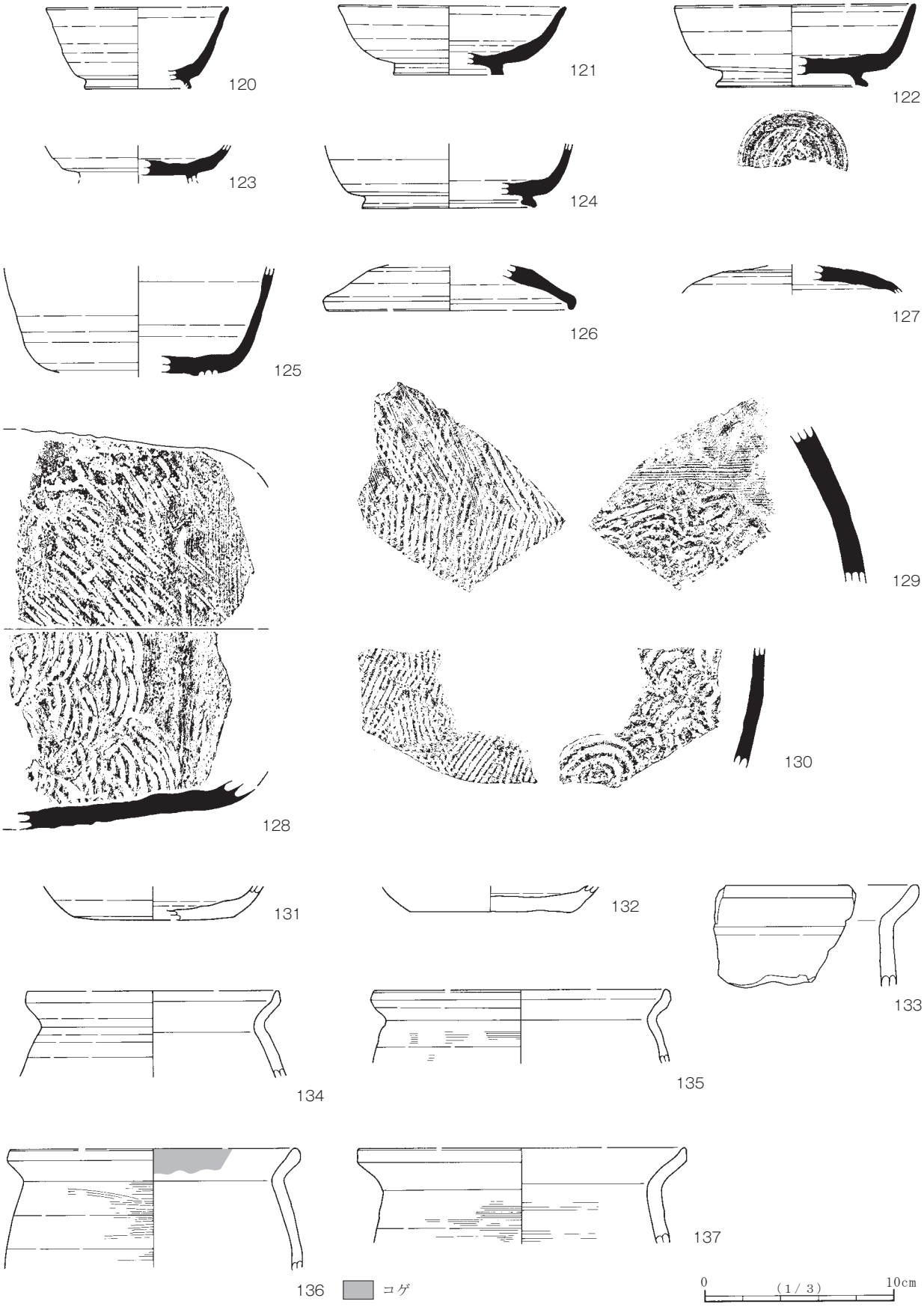
Qp グリッド（96 ～ 119）



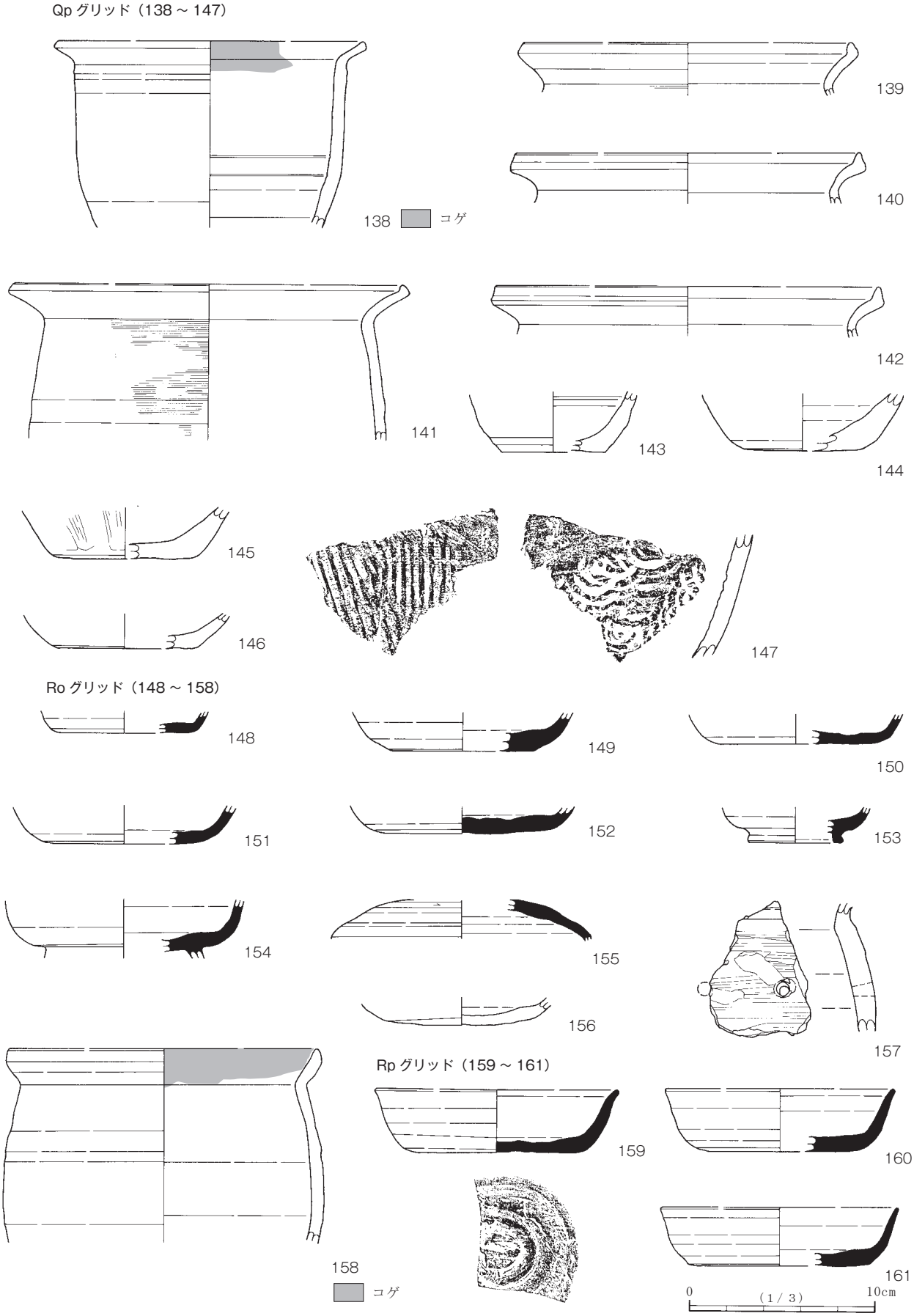
第 22 図　遺構外出土の土器（３）

0　(1/3)　10cm

Qp グリッド（120 ～ 137）

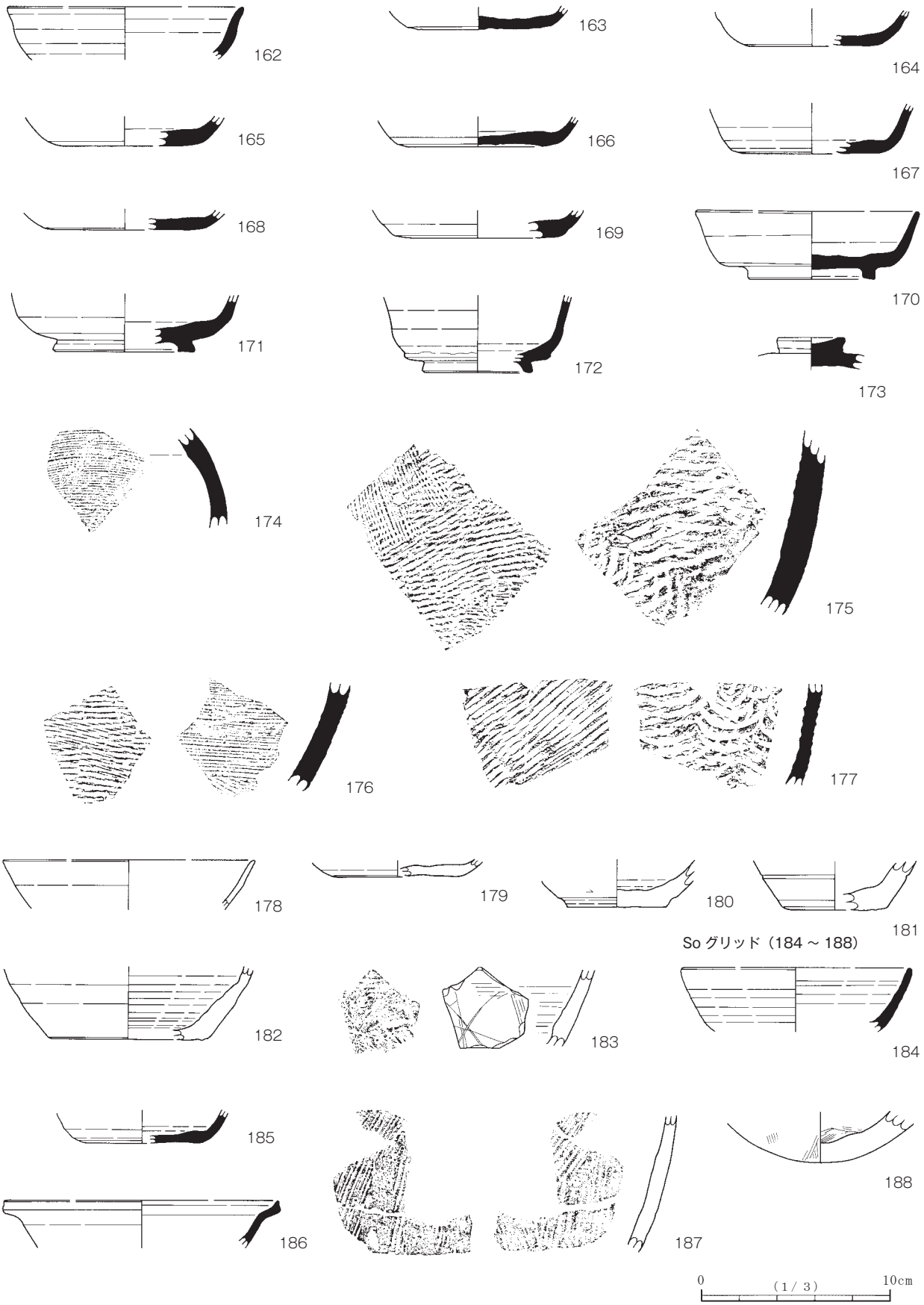


第 23 図　遺構外出土の土器（4）



第 24 図　遺構外出土の土器（５）

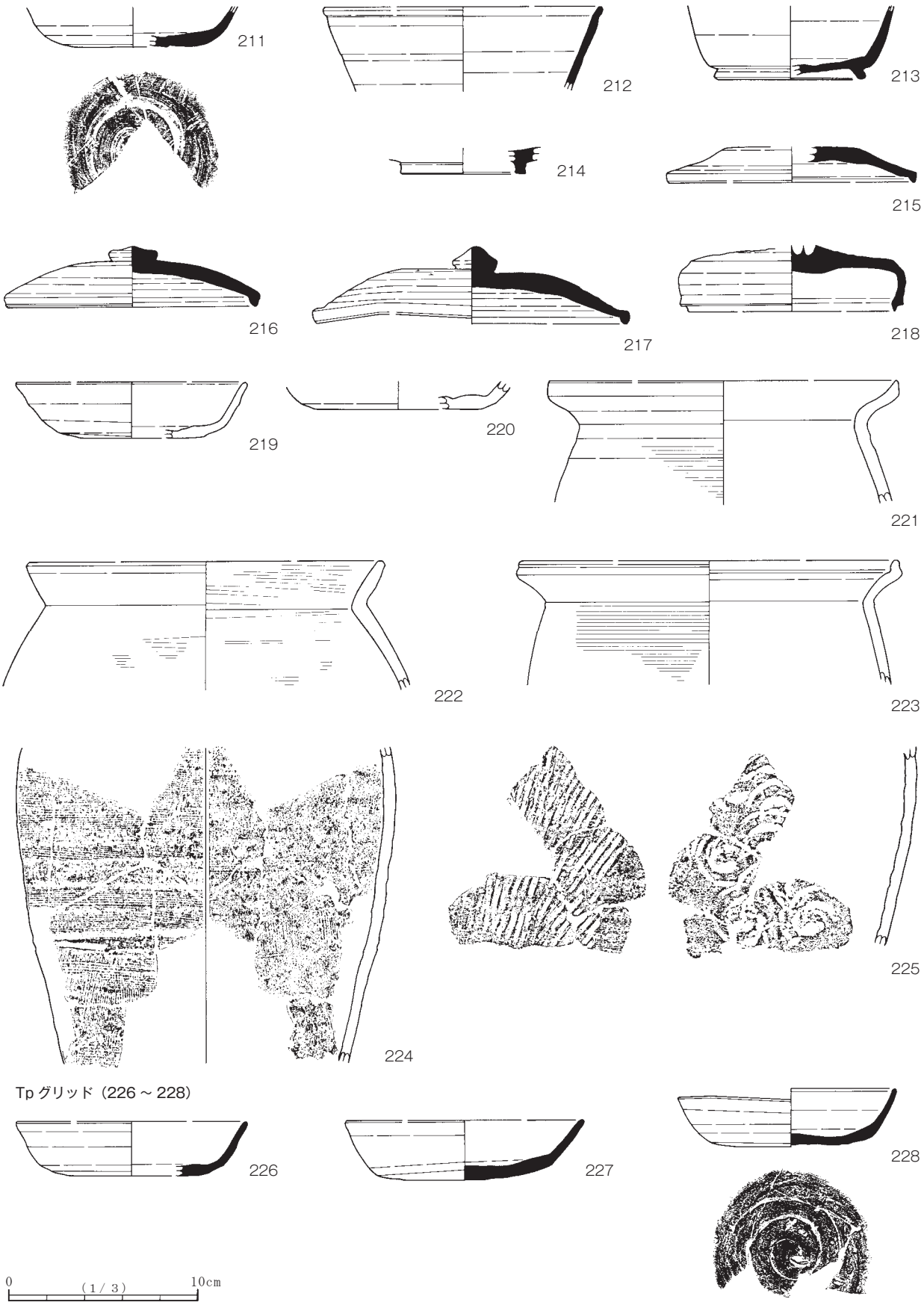
Rp グリッド（162 ～ 183）



第 25 図　遺構外出土の土器（6）

第 26 図　遺構外出土の土器（７）

To グリッド（211 ～ 225）

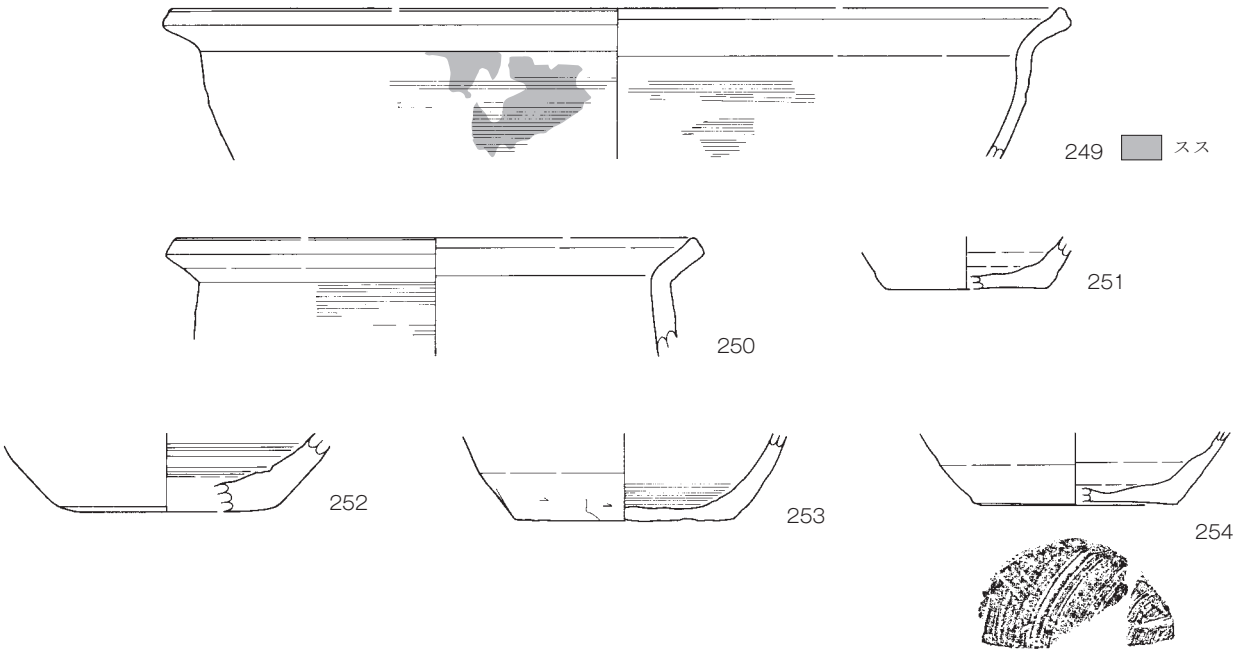


第 27 図　遺構外出土の土器（8）

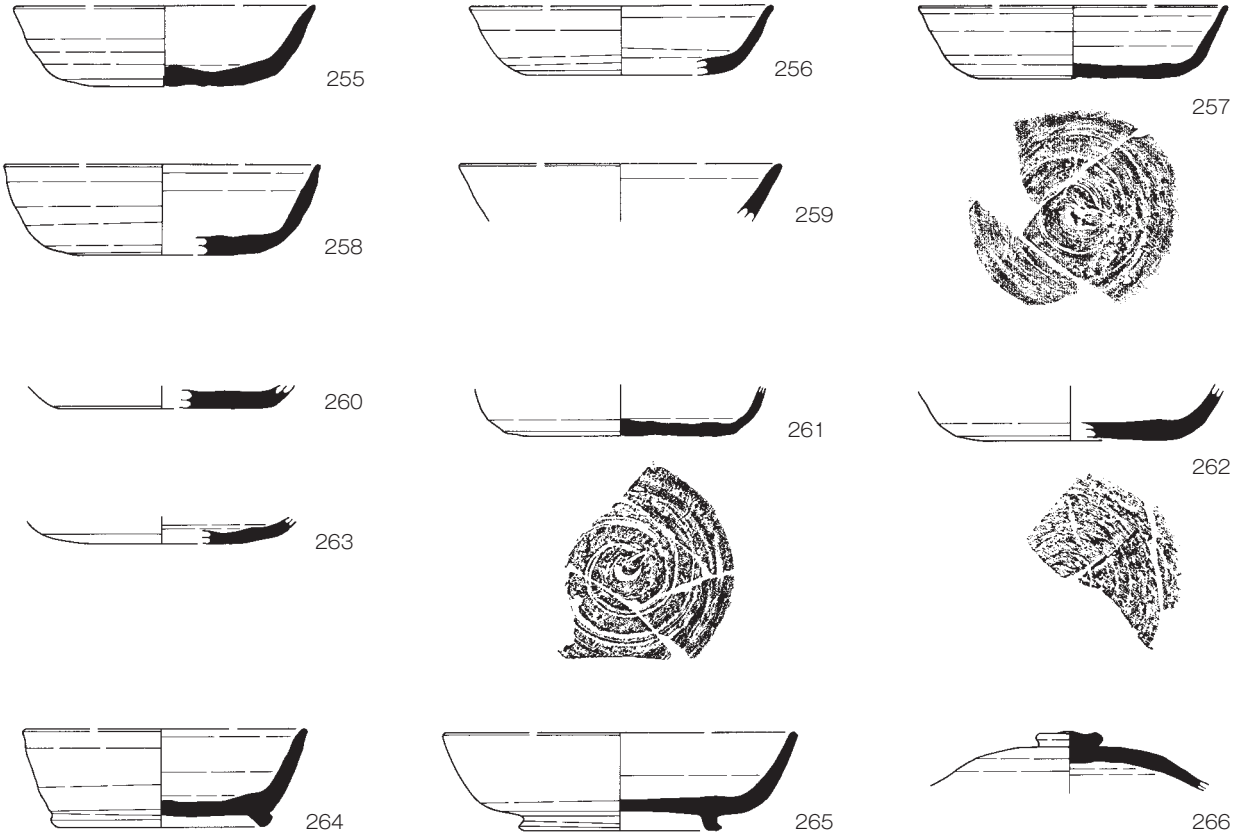
Tp グリッド（229 ～ 248）

第 28 図　遺構外出土の土器（９）

Tp グリッド（249 ～ 254）



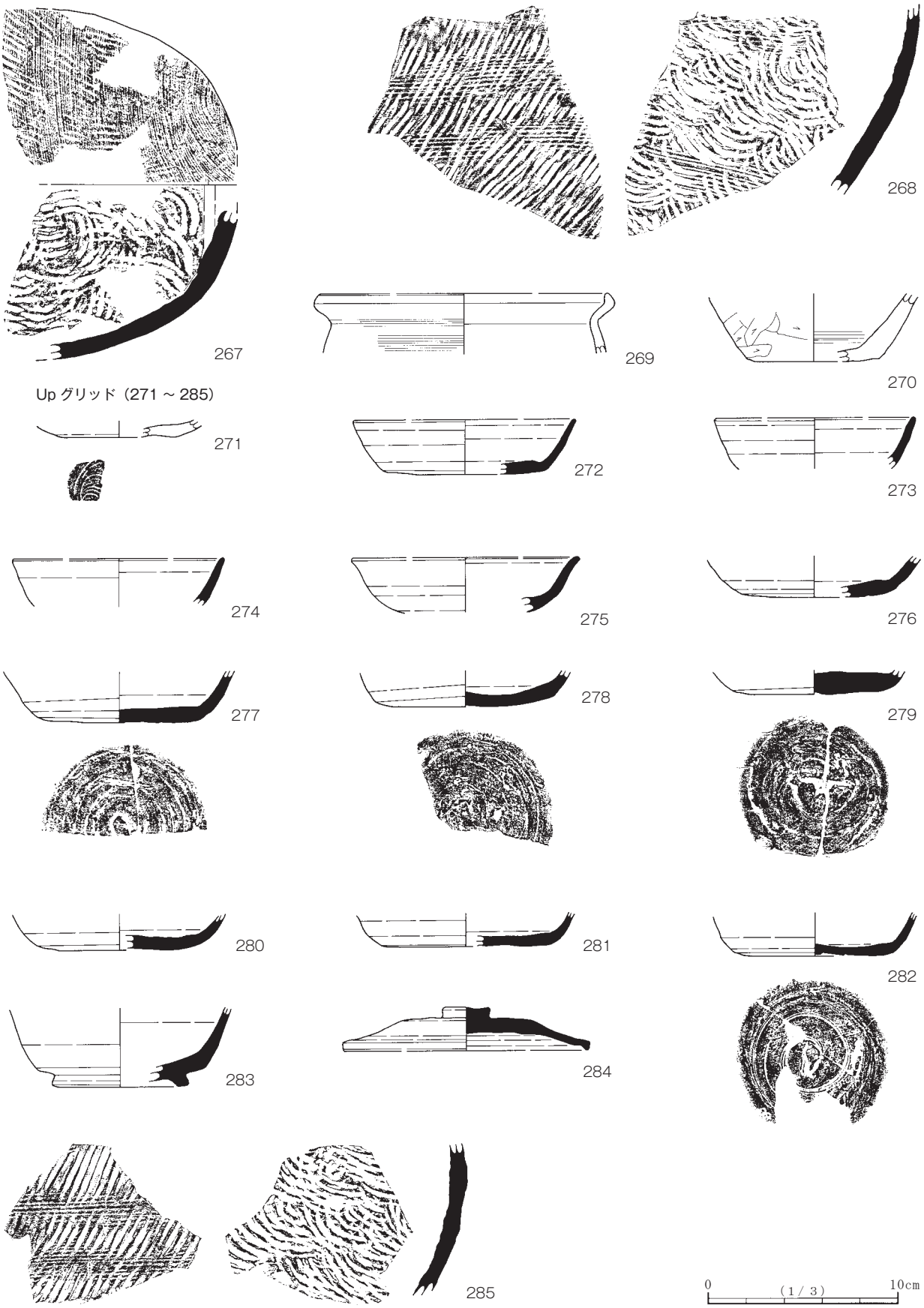
Uo グリッド（255 ～ 266）



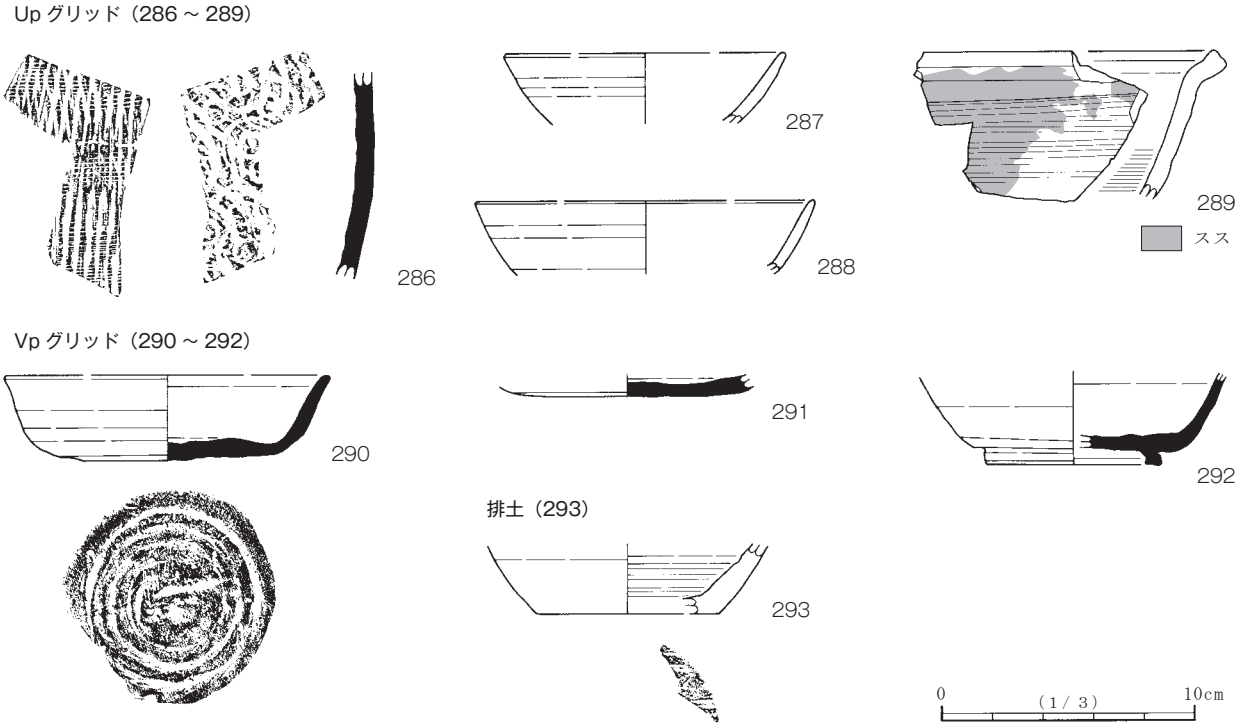
0　（1／3）　10cm

第 29 図　遺構外出土の土器（10）

Uo グリッド（267 ～ 270）



第 30 図　遺構外出土の土器（11）



第 31 図　遺構外出土の土器（12）

2　墨書土器・黒色土器

出土した墨書土器は、全部で５点である。そのほかに、墨書関連の遺物として、転用硯が１点出土した。いずれも須恵器で、遺構外からの出土である。ここでは、６点（294 ～ 299）すべてを図示した。なお、文字の判読については、浅井勝利氏（新潟県立歴史博物館）からご教示をいただいた。

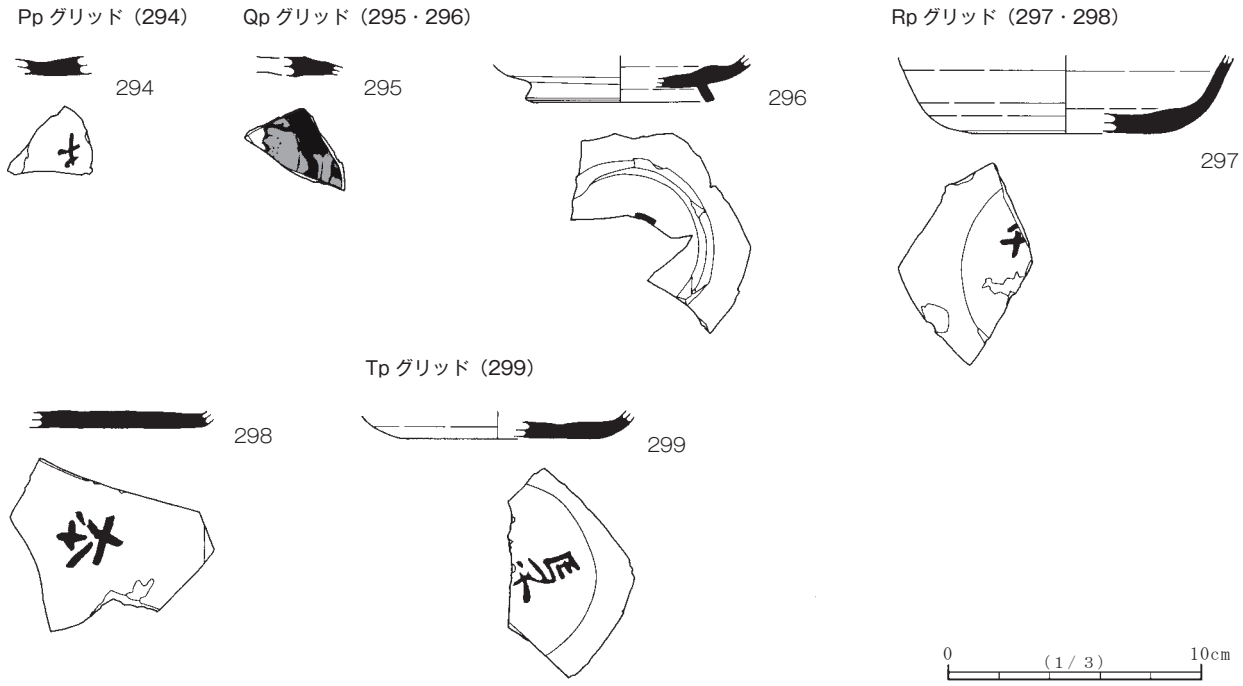
294 は無台坏の底部で、外面に「千」と書かれている。295 は坏蓋を硯に転用したもので、天井部内面に墨痕が認められる。296 は有台坏である。底部外面に墨書がみられるが、欠損によりその内容は不明である。297 は無台坏で、底部外面に「千」と書かれている。298 は皿の底部で、外面に「本」と書かれている。なお、今回の調査で、明確に皿と判断できた遺物は、本資料だけであった。299 は無台坏で、底部外面に「馬□」と書かれている。「馬」の下に記された文字は、欠損により不明である。

黒色土器については、小破片のため図示していない。いずれも器種は坏で、内面を黒色処理している。出土した破片数は、Pp グリッドから２点（1.4g）、Qo グリッドから１点（1.8g）、Qp グリッドから２点（4.2g）、Rp グリッドから２点（3.8g）、Sp グリッドから５点（12.1g）、Tp グリッドから１点（2.4g）である。Sp グリッドから若干多く出土しているが、その出土位置に特別な意味は見いだせない。

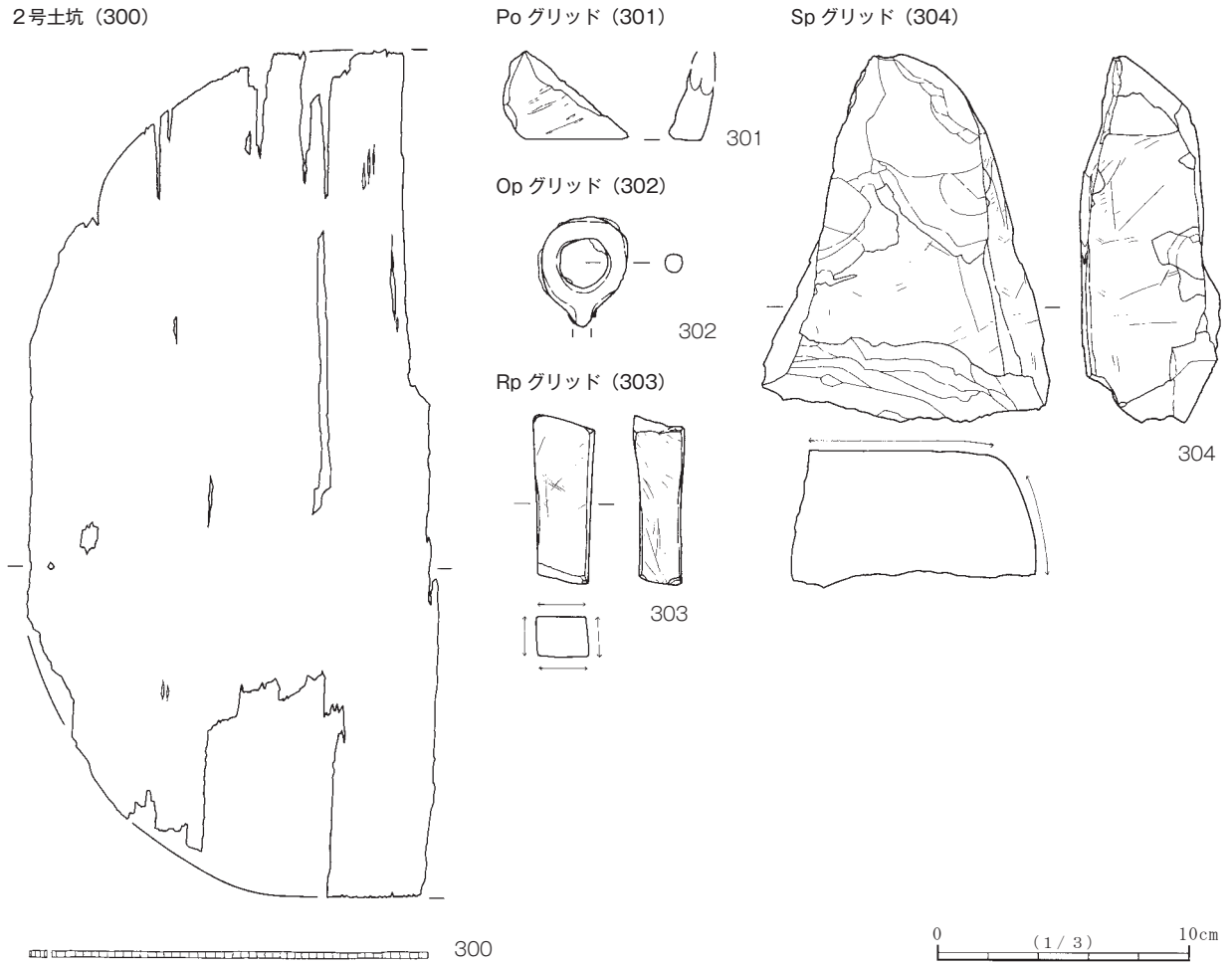
3　その他の遺物

木製品、土製品、金属製品、石製品が出土している。木製品は出土量が少ない。遺存状態も悪く、形を保って取り上げられたものは数点である。ここでは１点（300）を図示した。300 は蓋板である。２号土坑からの出土で遺存状態は悪い。厚さは 2.5 ㎜と薄く、外縁部付近に穿孔が１箇所確認できる。

土製品と金属製品は１点ずつ、石製品は２点、いずれも遺構外から出土した。ここでは４点（301 ～ 304）を全て図示した。301 は円筒形土製品で、住居のカマド構築部材と推定される。302 は環状鉄製品で、その性格は不明である。303・304 は砥石で、その材質からどちらも中砥と考えられる。



第 32 図　墨書土器



第 33 図　その他の遺物

第Ⅴ章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

新潟県新発田市に所在する菅田遺跡（２区）は姫田川右岸に位置する。発掘調査では平安時代の土師器・須恵器、中世の陶器などが出土している。

本分析調査では２号土坑から出土した木製品２点について樹種同定を行い、木材利用について検討する。

１　試料

試料は、２号土坑から出土した、蓋板（300）および槽の木製品２点である。

２　分析方法

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

３　結果

結果を以下に示し、検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道と、樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、１～15 細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２個が多い。放射組織は単列、１～10 細胞高。

樹種同定結果

試料名		器　種	樹　種
２号土坑	300	蓋板	スギ
２号土坑	－	槽	マツ属複維管束亜属

４　考察

２号土坑から出土した蓋板（300）の樹種はスギである。スギは水に強く、割裂性が良くて曲げに強い良材であることから、建築材や器具材などさまざまな用途に使われる。加工しやすく曲げに強いことから、曲物の側板、底板、蓋板にはヒノキとともに多用される。伊東隆夫・山田昌久編（2012）の出土木製品用材データベースをみても、全国的に曲物にスギ材を用いる例は多い。

２号土坑から出土した槽の樹種はマツ属複維管束亜属である。マツは典型的な陽樹で痩せ地でも育ち、成長も早いため、人家の近くに多く、入手しやすい木材である。材質は中庸で、加工しやすく、特に水湿に強く耐久性に富む。このことから、土木材や建築材として利用されるほか、器具材としても利用される。先述した出土木製品用材データベースをみても、県内では、各時代において、様々な用途で多用された樹種であることがいえる。

引用文献

林　昭三，1991，日本産木材顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所，66-176.

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.

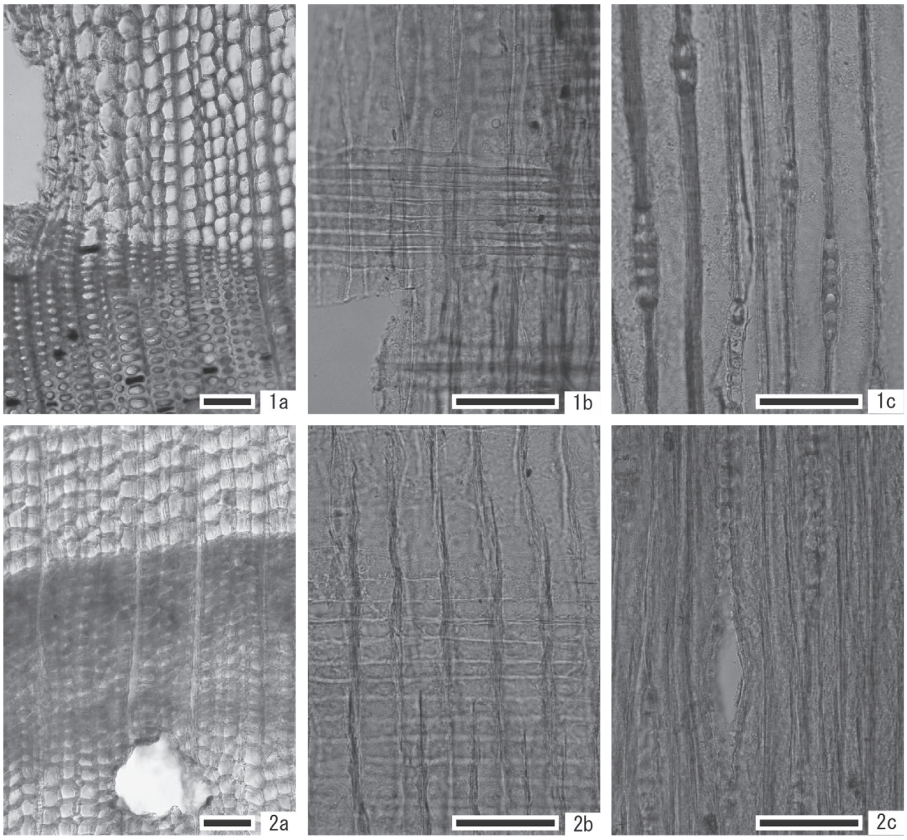
伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編），2012，木の考古学　出土木製品用材データベース．海青社，449p.

Richter H.G.，Grosser D.，Heinz I. and Gasson P.E.（編），2006，針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p.［Richter H.G.，Grosser D.，Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.

Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.



1. スギ（２号土坑 300）
2. マツ属複維管亜属（２号土坑 槽）

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第34図　木材の顕微鏡写真

第Ⅵ章　まとめ

今回調査を実施した２区では、中世および古代の土坑、溝、ピットを検出した。遺構は、主に調査区内の微高地部分で検出している。調査区西部の低地部分は、ピットを１基検出しただけで、遺構はほぼ分布していない。１区（令和元年調査）の調査結果と照らし合わせると、同区の東部では湿地を検出しており、２区の低地がそのままその湿地へ続いている可能性がある。その場合、低地および湿地は、東西約 133 ｍの幅で広がっていると推定される。また、１区はその他に、西部で流路を確認し、その流路と東の湿地に挟まれた平坦地では、土坑とピットを検出している。ただし、遺構の数は少なく、その分布も２区に比べて希薄であった。１・２区ともに調査範囲が狭いことから、確定的ではないが、上記の遺構分布状況や地形的要因などから判断して、菅田遺跡は、２区の位置する遺跡東半部を中心に営まれた集落跡と推定される。

ここで、２区の調査結果について改めてまとめてみたい。中世に該当する遺構は、１～３号土坑および１～11 号ピットで、その数は多くない。また、調査区中央部のやや東寄りで検出したが、その範囲は狭く限定的である。遺構の時期は、出土した土師質土器小皿の年代から、３号土坑が 13 世紀代と推定されるものの、そのほかの遺構については不明であった。このように、中世の菅田遺跡は、時期の分かる遺構や出土遺物が極めて限られている。そのため、集落の存続時期を明確にすることは難しいが、ここでは３号土坑の年代から、その時期を 13 世紀代、すなわち中世前半と考えておきたい。なお、中世の遺物としては、遺構外から珠洲片口鉢も出土している。ただし、15 世紀代の所産と推定され、集落の時期とは年代差がみられる。

古代に該当する遺構は、４～ 10 号土坑および１～４号溝、12 ～ 36 号ピットである。出土遺物から推定される遺構の時期は、４号土坑が８世紀第４四半期から９世紀初頭頃、５号土坑が８世紀後半、９号土坑が８世紀末から９世紀初頭頃、１号溝が９世紀第３四半期、３号溝が８世紀末から９世紀初頭頃、Ｐ 33 が８世紀第４四半期である。以上のことから、古代の菅田遺跡は、８世紀後半から９世紀第３四半期にかけて集落が営まれていたと考えられる。遺物包含層から出土した土器の年代も、概ねこの時期に該当しており、整合する。また、１区の調査結果で示された遺跡の年代とも矛盾していない。

今回検出した遺構は、中世と古代ともに遺存状態は良くない。また、建物跡などの居住に関連する遺構や、鍛冶炉・畝状小溝といった手工業や農業などの生産に関連する遺構は検出されていない。そのため、集落の詳細な内容やその性格を明らかにすることはできなかった。ただし、古代については、遺構外からの出土遺物が多く、穿孔のある土師器（62・157）など、特徴ある遺物も出土している。以下、少し触れておく。

62 は、体部に穿孔のある土師器有台鉢である。同器種は有台盤とも呼称され、阿賀北地域では、新発田市桑ノ口遺跡（鶴巻ほか 2003）、新発田市地蔵潟Ａ遺跡（本田ほか 2012）、胎内市蔵ノ坪遺跡（飯坂ほか 2002）、胎内市船戸川崎遺跡（水澤・四柳 2002）、村上市鴨侍遺跡（吉井 2002）などから出土している。ただし、穿孔のあるものはなく、器面の調整技法も 62 と類似するものはない。157 は、胴部に穿孔のある土師器甕の小形品である。穿孔のある甕は、新発田市坂ノ沢Ｃ遺跡（渡邊・田中 2001）でも出土しているが、穿孔が焼成後であることや、その位置が頸部であることなど、157 とは様相が大きく異なる。これらのことから、62 と 157 は、周辺地域では類例のない特徴的な土器と考えられ、その用途は特別なものであったと想定される。なお、特徴的な土器は１区からも出土している。外面を赤彩した土師器無台坏で、県内での出土事例は少ない。このように、一般的ではない遺物が複数出土していることは、本遺跡の性格を考えるうえで注目すべき点といえるだろう。

引用・参考文献

阿部洋輔・木村宗文　1980「第二編　中世の新発田　第一章　荘園の成立　第二節　新発田市域の荘園」『新発田市史』上巻　新発田市

飯坂盛泰ほか　2002『蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団

伊藤喜代子ほか　2006『太田遺跡・箱館遺跡　発掘調査報告書』新発田市教育委員会

伊藤喜代子ほか　2008『加治天王前遺跡　発掘調査報告書』新発田市教育委員会

伊藤正志ほか　2021『五斗・菅田遺跡　発掘調査報告書』新発田市教育委員会

加藤　学ほか　2014『小船渡遺跡』新潟県教育委員会・㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団

桑原正史　1980「第一編　原始・古代の新発田　第二章　古代の新発田　第二節　律令時代の阿賀北地方」『新発田市史』上巻　新発田市

国土地理院　1993『1:25,000 土地条件図　新発田』

坂井秀弥ほか　1989『山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所

笹澤正史　2012「第Ⅳ章 まとめ　２ 遺物の時期的位置付けと特徴」『地蔵潟Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

笹澤正史　2014「Ⅴ まとめ　１ 丸山Ａ遺跡出土土器の特徴と時期的な位置付け」『丸山Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

笹澤正史　2019「第５章 古代　第２節 土器・木製容器　第２項 阿賀北」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会

菅善四郎　1961『菅谷 川東郷土史料』上巻・下巻　川東郷土史料刊行委員会

鈴木　暁ほか　2006『家ノ内遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

鈴木　暁・笹澤正史　2012『空毛遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

高橋礼弥・松田時次　1988『加治川治水・利水誌』加治川水防事務組合

田中耕作ほか　1990『三光館跡・宝積寺館跡』新発田市教育委員会

鶴巻康志　1998『市道関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ』新発田市教育委員会

鶴巻康志ほか　2003『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

戸根与八郎ほか　2017『五十公野館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

新潟古代土器研究会　2004『越後阿賀北地域の古代土器様相』

野尻湖火山灰グループ　1989『火山灰分析の手びき』地学団体研究会

本田祐二ほか　2012『地蔵潟Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

本田祐二ほか　2018『板山館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

水澤幸一・四柳嘉章　2001『下町・坊城遺跡Ⅴ』中条町教育委員会

水澤幸一・四柳嘉章　2002『船戸川崎遺跡４次調査』中条町教育委員会

水澤幸一　2007「中世越後の土器と陶磁器－11～14c. 前半」『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会

吉井雅勇　2002『鴨侍遺跡』荒川町教育委員会

吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

渡邊美穂子・田中耕作　1999『山ノ下遺跡・坂ノ沢Ｄ遺跡・岩ノ沢遺跡』新発田市教育委員会

渡邊美穂子・田中耕作　2001『坂ノ沢Ｃ遺跡 Ⅱ（平安時代編）』新発田市教育委員会

渡邊美穂子ほか　2014『丸山Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

遺物観察表

・計測値の（　）は復元値、〈　〉は残存値を示す。
・調整の回転ヘラ切りに続く（　）は、回転方向を示す。

土器

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
5	1	115 トレンチ			須恵器	無台坏	(12.3)	2.8	(8.2)	1/6	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英を少量、長石・赤色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。体部外面下端強いロクロ目。底部回転ヘラ切り。	
	2	130 トレンチ			須恵器	有台坏	(12.0)	4.1	(7.4)	1/9	2.5Y7/1 灰白色	良好	石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	3	131 トレンチ			須恵器	無台坏	(11.0)	3.7	(8.0)	1/8	7.5Y6/1 灰色	堅緻	微小な長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。口縁部内面沈線状に凹む。底部回転ヘラ切り。	
	4	132 トレンチ			須恵器	鉢	—	〈5.7〉	(10.8)	体部～底部 1/10	2.5Y6/2 灰黄色	良好	長石・石英を少量含む。	内外面回転ナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。	
	5	133 トレンチ			須恵器	無台坏	—	〈0.9〉	8.2	底部完存	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	6	133 トレンチ			須恵器	無台坏	12.5	3.45	9.8	3/4	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	石英・長石を少量、褐色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	7	133 トレンチ			須恵器	甕	—	—	—	胴部片	N6/0 灰色	堅緻	5YR6/1褐灰色で緻密。長石を微量含む。	外面平行タタキ。内面は同心円当て具痕の後、縦位・横位ハケメ。	
	8	133 トレンチ			土師器	坏蓋	(15.8)	〈1.6〉	つまみ径 —	口縁部1/7	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	石英を少量、微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	
18	9	3号土坑	Sp4-2	1層	土師質土器	小皿	(8.6)	〈1.45〉	丸平底	1/6	10YR8/2 灰白色	良好	石英を少量、長石・黒色粒子・細礫を微量含む。	手づくね成形。内外面ヨコナデ。	13Cの所産。
	10	4号土坑	Qp4-3 Qp5-2	1層 Ⅲb層	須恵器	有台坏	(15.6)	〈5.8〉	—	口縁部～体部上半1/8	5B5/1 青灰色	堅緻	7.5YR6/3にぶい褐色。長石を多量、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。体部外面中位に2条の沈線が巡る。	
	11	4号土坑	Qp5-3	1層	土師器	甕	—	—	—	胴部片	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英多量で、大粒がやや目立つ。長石をやや多く、黒雲母・黒色粒子を少量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	12	4号土坑	Qp5-3	1層	土師器	鍋	(33.8)	〈8.7〉	—	口縁部～体部上半1/10	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英・長石・赤色粒子を多量、金雲母・白色針状物・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面回転ナデの後、体部カキメ。内面は口縁部回転ナデ、体部カキメの後に一部ヘラナデ。	体部内外面にススコゲ。
	13	5号土坑	Qo5-5 Qo5-5 Qp5-1 Qp5-2 Ro1-5 Rp1-5	1層 Ⅲb層 〃 〃 〃 〃	須恵器	無台坏	—	〈3.2〉	9.8	体部～底部 1/2	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英を多量、長石を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	14	5号土坑	Qo5-5 Qp4-3	1層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.0〉	(9.2)	底部1/4	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英やや多く、大粒がやや目立つ。長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	15	9号土坑	To4-5 To4-5	1層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	12.2	3.3	8.4	ほぼ完形	2.5Y6/1 黄灰色	堅緻	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。小礫を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	16	9号土坑	Tp3-1	1層	須恵器	無台坏	(12.6)	3.0	(8.8)	1/4	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英をやや多く、白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	17	9号土坑	Tp4-1 Tp4-5	2層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	3.65	9.6	3/7	10YR8/2 灰白色	良好	石英を少量、長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	18	9号土坑	To4-5	1層	須恵器	無台坏	—	〈1.8〉	(9.6)	体部下半～底部1/4	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	長石を多量、石英をやや多く、白色針状物・褐色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	19	9号土坑 〃	To4-5 Tp4-1 To4-5	1層 〃 Ⅲb層	須恵器	有台坏	(11.7)	3.7	6.8	3/5	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	10YR7/3にぶい黄褐色。石英・長石を多量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	20	9号土坑	Tp3-1	1層	土師器	甕	—	〈5.0〉	(8.8)	胴部下位～底部1/3	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英をやや多く、長石・黒雲母・橙色粒子を少量、赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面カキメ。	
	21	9号土坑 〃 〃	To3-5 Tp3-1 Tp4-1	1層 〃 〃	土師器	甕	(15.6)	〈6.7〉	—	口縁部～胴部上半2/7	5YR6/6 橙色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母を少量、金雲母・赤色粒子・細礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデ。	口縁部内面にコゲ。
	22	9号土坑	To3-5	1層	土師器	甕	(19.6)	〈8.1〉	—	口縁部～胴部上位1/6	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英・長石・金雲母をやや多く、赤色粒子・小礫を微量含む。	内外面とも口縁部回転ナデ、胴部カキメ。	
	23	9号土坑	Tp3-1	1層	土師器	甕	(19.2)	〈6.5〉	—	口縁部～胴部上位1/6	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、小礫を微量含む。	外面は口縁部～頸部回転ナデ、胴部カキメ。内面カキメ。	
	24	9号土坑	Tp4-1	1層	土師器	甕	—	—	—	口縁部～胴部上位片	7.5YR7/6 橙色	良好	石英多量、長石やや多く、ともに大粒が目立つ。金雲母・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	胴部内面にコゲ。

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
19	25	９号土坑 〃	Tp3-1 TP4-1 Tp3-1	１層 〃 Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石を少量、黒雲母・金雲母・細礫を微量含む。	外面カキメ。内面カキメの後、一部縦位ヘラナデ。	外面にススス。
	26	９号土坑	To4-5	１層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	10YR2/1 黒色	良好	石英を少量、長石・赤色粒子・橙色粒子を微量含む。	外面平行タタキ。内面縦位・横位ハケメ。	
	27	10号土坑	Vo2-5	1層	須恵器	無台坏	－	〈2.0〉	(10.0)	体部下半～底部1/4	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英を少量、長石・白色針状物・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	28	１号溝	Tp3-1 Tp5-1	１層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.2)	2.6	(8.2)	1/3	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	29	１号溝	Tp2-1 Tp2-1	１層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.0)	2.8	8.2	1/2	7.5Y5/1 灰色	堅緻	黒色小斑点が目立つ。微小な長石を多量、微小な石英・白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	小泊産。
	30	２号溝	Tp4-1	２層	土師器	甕	－	〈3.2〉	(5.6)	胴部下位～底部1/6	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、金雲母・橙色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面は回転ナデ、胴部下端回転ヘラケズり。内面は回転ナデで強いロクロ目。	
	31	３号溝	Tp5-1	１層	須恵器	無台坏	(11.2)	3.2	(7.7)	1/5	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英をやや多く、微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	32	３号溝 〃	Up1-1 Up2-1 Up2-1 Up3-2	１層 〃 Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(11.9)	3.4	8.0	2/5	7.5Y6/1 灰色	堅緻	器面は滑らか。微小な長石を多量、微小な石英・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	小泊産。
	33	３号溝	Up1-1 Uo2-5 Up1-1 Up2-2	１層 Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	12.0	3.3	9.2	4/5	10YR8/3 浅黄橙色	良好	器面は滑らか。石英を少量、長石・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	34	３号溝	Uo1-5	１層	須恵器	無台坏	(13.2)	3.2	(8.0)	1/8	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	微小な長石をやや多く、石英・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	35	３号溝	Tp5-1	１層	須恵器	無台坏	(13.1)	3.5	(7.4)	1/6	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石を少量、白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	36	３号溝 〃 〃	Uo2-5 Up1-1 Up2-1 Qp4-2 Rp1-1 Tp5-3 Up1-2 Up2-2 Up4-1	１層 〃 〃 Ⅲb層 〃 〃 〃 〃 〃	須恵器	有台坏	(10.5)	6.9	6.4	2/3	N3/0 暗灰色	堅緻	5YR6/1褐灰色。長石が極めて多量で目立つ。石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	37	３号溝 〃	Uo2-5 Up2-1 Tp5-2 Tp5-3 Uo2-5 Uo3-5 Up2-1 Up3-2	１層 〃 Ⅲb層 〃 〃 〃 〃 〃	須恵器	有台坏	(14.0)	〈6.7〉	－	口縁部～体部1/3	7.5YR5/2 灰褐色 (内面： 2.5Y6/1 黄灰色)	堅緻	7.5YR7/4にぶい橙色。石英・長石を多量含む。	内外面回転ナデ。口縁部外面が僅かにくびれる。体部外面中位に２条の沈線が巡る。	
	38	３号溝	Uo2-5 Tp4-1 Tp5-1	１層 Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(14.1)	〈6.2〉	－	口縁部～体部1/6	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	黒色粒子をやや多く、石英・長石を微量含む。	内外面回転ナデ。口縁部外面に凹状の沈線、体部外面中位に２条の沈線が巡る。	
	39	３号溝	Up2-1 To4-5 To5-5 Tp4-1	１層 Ⅲb層 〃 〃	須恵器	折縁坏	13.9	4.5	6.3	3/4	2.5Y7/1 灰白色	良好	石英・長石を多量、褐色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。口縁部外面に１条の沈線が巡る。高台貼り付け。	
	40	３号溝	Tp5-1	１層	須恵器	坏蓋	－	〈2.0〉	つまみ径 －	1/7	N6/0 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色。長石をやや多く、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。	
	41	３号溝 〃	Uo1-5 Up1-1	１層 〃	土師器	甕	(12.8)	〈2.0〉	－	口縁部1/8	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英をやや多く、微小な長石を少量、白色針状物を微量含む。	内外面ナデ。	
	42	３号溝	Up1-1 Up1-1 Up3-1	１層 Ⅲb層 〃	土師器	甕	－	〈3.2〉	(8.0)	胴部下位～底部1/3	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	石英多量で、大粒目立つ。微小な長石・黒色粒子を微量含む。	外面回転ナデ。内面カキメ。	
	43	３号溝	Tp4-2	１層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石を少量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	44	４号溝	Tp5-2 Up1-1	１層 Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.4〉	(8.8)	底部1/4	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英・長石を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	45	Ｐ17	Qp5-1	２層	須恵器	無台坏	－	〈2.1〉	(8.0)	体部下半～底部1/4	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	長石多量、石英やや多く、ともに大粒が目立つ。白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
19	46	P33	Tp3-1	1層	須恵器	無台坏	12.5	3.5	9.6	ほぼ完形	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	石英多量、長石やや多く、ともに大粒が目立つ。白色針状物・黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
20	47		Oo5-5	Ⅲa層	須恵器	有台坏	—	〈1.3〉	(7.0)	底部1/3	N6/0 灰色	堅緻	長石多量で、大粒がやや目立つ。石英を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	48		Oo5-5	Ⅲa層	土師器	甕	(18.8)	〈3.0〉	—	口縁部～頸部1/9	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英・長石・黒雲母をやや多く、小礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデ。	
	49		Op4-2	Ⅲa層	須恵器	無台坏	—	〈1.3〉	(8.5)	底部1/4	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	長石やや多く、石英少量で、ともに大粒がやや目立つ。褐色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	50		Op4-2	Ⅲa層	須恵器	無台坏	(12.4)	3.1	8.5	1/2	7.5Y6/1 灰色	堅緻	器面は滑らか。微小な長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	小泊産。
	51		Op5-1	Ⅲa層	須恵器	無台坏	(12.4)	3.2	(9.0)	1/4	2.5Y6/2 灰黄色	堅緻	器面はざらつく。長石を極めて多量、石英を多量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	52		Op3-2	Ⅲa層	須恵器	無台坏	—	〈1.6〉	(9.8)	底部1/3	5Y7/1 灰白色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	53		Op Pp1-3 Pp2-1	Ⅲa層 〃 Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.2)	2.9	7.2	2/5	N6/0 灰色	堅緻	器面は滑らか。長石多量で、大粒が目立つ。石英を少量、白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)の後、ハケナデ。	
	54		Op2-2 Op5-2	Ⅲa層 〃	須恵器	無台坏	(11.7)	3.0	(9.2)	2/7	5Y7/1 灰白色	堅緻	石英をやや多く、長石を少量、黒色粒子・白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、一部ハケナデ。	焼成前に底部内面線刻「一カ」。
	55		Op	Ⅲa層	須恵器	有台坏	—	〈2.5〉	6.0	底部7/8	5Y6/1 灰色	堅緻	長石多量で、大粒が目立つ。石英を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	56		Op	Ⅲa層	須恵器	有台坏	—	〈2.0〉	(7.9)	底部1/6	2.5Y8/2 灰白色	良好	長石を少量、石英・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	57		Op2-2 Op4-2	Ⅲa層 〃	須恵器	有台坏	—	〈1.9〉	—	体部下端～底部1/4	10YR7/3 にぶい黄橙色	堅緻	長石やや多く、石英少量で、ともに大粒がやや目立つ。白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	58		Op4-3	Ⅲa層	須恵器	横瓶	—	〈18.8〉	—	胴部片	N7/0 灰白色	堅緻	長石をやや多く、微小な石英を少量含む。	外面カキメの後、平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	59		Op4-3	Ⅲa層	土師器	甕	—	〈3.6〉	5.1	胴下部～底部2/3	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、黒色粒子・小礫を微量含む。	外面回転ナデの後、胴部下端回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。底部回転糸切り。	
	60		Op3-2	Ⅲa層	土師器	甕	—	〈1.8〉	(6.8)	底部1/6	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英を多量、長石・黒雲母をやや多く、赤色粒子を微量含む。	外面は胴部下端面取り状のナデ。内面回転ナデか。	
	61		Op	Ⅲa層	土師器	甕	—	〈1.6〉	(9.5)	底部1/4	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英・長石を多量、黒雲母を少量、赤色粒子・小礫を微量含む。	外面は胴部下端面取り状のナデ。内面回転ナデか。	
	62		Op3-2 Op4-2	Ⅲa層 〃	土師器	有台鉢	—	—	—	体部片	10YR6/2 灰黄褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、黒色粒子・小礫を少量、金雲母・白色針状物を微量含む。	外面ヘラケズリ。内面横位・斜位ナデ。	焼成前に体部穿孔２箇所（３箇所の可能性あり）。
	63		Po1-5	Ⅲa層	須恵器	有台坏	—	〈2.1〉	—	体部下半～底部1/5	2.5Y7/2 灰黄色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け(欠損)。	
	64		Pp4-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.0)	2.7	(9.6)	1/8	7.5YR6/3 にぶい褐色	堅緻	5YR7/1明褐灰色で緻密。器面は滑らか。石英・長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	65		Pp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(13.0)	3.0	(9.6)	1/4	2.5Y8/3 淡黄色	良好	石英やや多く、大粒がやや目立つ。長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	66		Pp2-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.3〉	(8.0)	底部1/4	7.5Y6/1 灰色	堅緻	微小な長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	67		Pp4-1 Qo1-5	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(12.5)	3.9	(6.6)	3/5	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部内面に強いロクロ目。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	68		Pp4-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	—	〈3.3〉	(8.4)	1/4	N6/0 灰色	堅緻	5YR７/1明褐灰色。器面は滑らか。微小な長石を少量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	69		Pp1-2	Ⅲa層	須恵器	無台坏	—	〈2.3〉	(9.6)	体部下半～底部1/6	2.5Y8/2 灰白色	やや軟質	石英を少量、微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。摩耗が著しい。	
21	70		Pp2-1 Pp3-3	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	—	〈3.4〉	—	体部下半～底部1/8	N5/0 灰色	堅緻	2.5Y7/2灰黄色で緻密。長石を多量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	71		Pp3-1	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	—	〈1.3〉	つまみ径 2.5	天井部2/5	5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。つまみは上面が僅かに凹み、中央がやや高い。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
21	72		Pp1-2	Ⅲa層	須恵器	把手付長頸瓶	－	－	－	把手部片	2.5Y6/1 黄灰色	堅緻	緻密。長石を少量含む。	面取り。	外面の一部5Y4/3暗オリーブ色の自然釉。
	73		Pp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	(13.1)	〈5.0〉	－	口縁部～胴部上位1/7	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母を少量含む。	内外面回転ナデ。	口縁部内外面にススコゲ。
	74		Pp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	(13.8)	〈4.7〉	－	口縁部～胴上部1/8	5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石・黒雲母をやや多く、小礫を少量含む。	内外面回転ナデ。	
	75		Pp5-2	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈1.0〉	(8.9)	底部1/9	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く、黒雲母・金雲母を少量、赤色粒子を微量含む。	胴部外面下端ヘラケズリか。内面回転ナデ。	
	76		Pp2-1 Pp2-2	Ⅲb層 〃	土師器	甕	－	－	－	胴部片	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。赤色粒子を多量、長石をやや多く、金雲母・小礫を少量、黒色粒子を微量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	77		Pp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英・長石を多量、黒雲母・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕の後、一部縦位ハケメ。	
	78		Qo	Ⅲb層	珠洲	片口鉢	－	－	－	口縁部片	7.5Y6/1 灰色	良好	やや疎。長石を少量、白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。口縁端部上面に櫛目波状文。	割れ口１面に漆付着(補修痕)。 15Cの所産。
	79		Qo	Ⅲb層	珠洲	片口鉢	－	－	－	胴部片	7.5Y6/1 灰色	良好	やや疎。白色針状物をやや多く、長石を微量含む。	内面に卸し目。単位は不明。	割れ口２面に漆付着(補修痕)。 15Cの所産。
	80		Qo5-5 Qp5-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(12.0)	3.1	(8.6)	3/7	5Y6/1 灰色	堅緻	緻密。器面は滑らか。微小な長石を少量、石英・白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	81		Qp4-5 Qp5-1 Ro1-5	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(12.6)	3.2	(10.0)	1/3	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英をやや多く、長石を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	82		Qo5-5 Qp1-2 Qp3-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(13.3)	3.45	9.9	3/7	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英を多量、長石・褐色粒子を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	83		Qo2-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.5)	〈3.0〉	(9.4)	口縁部～体部1/8	N6/0 灰色	堅緻	長石多量で、大粒がやや目立つ。石英を少量含む。	内外面回転ナデ。	
	84		Qo5-5	Ⅲb層	須恵器	坏	(13.0)	〈3.5〉	(10.0)	1/7	10YR8/2 灰白色	良好	石英・微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	85		Qo4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.1〉	(8.8)	底部1/4	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、ヘラナデ。	
	86		Qo3-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.4〉	(9.0)	底部1/7	2.5Y8/2 灰白色	堅緻	緻密。器面は滑らか。石英・長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	87		Qo5-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.3〉	(9.0)	底部1/7	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	微小な石英・微小な長石を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	88		Qo2-4	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(12.6)	〈3.0〉	つまみ径 －	1/4	5Y6/1 灰色	堅緻	緻密。長石をやや多く、石英を少量含む。	外面は天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。内面回転ナデ。	
	89		Qo5-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈5.3〉	(9.0)	胴部下半～底部1/5	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	石英・長石を多量、黒雲母を少量、赤色粒子・橙色粒子・細礫を少量、黒色粒子を微量含む。	外面は回転ナデ、胴部下端面取り状のナデ。内面回転ナデで強いロクロ目。	胴部外面に線刻。
	90		Qo4-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈6.9〉	8.5	胴部下半～底部7/8	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	長石極めて多量、石英多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、金雲母を少量、赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面剥離が著しく、調整不明。内面回転ナデ。	
	91		Qo2-4	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈3.9〉	(11.5)	胴部下位～底部1/7	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	石英・長石を多量、黒雲母を少量、金雲母・赤色粒子・黒色粒子・細礫を微量含む。	外面回転ナデ。内面カキメ。	
	92		Qo2-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	N1.5/0 黒色 (内面：10YR7/3 にぶい黄橙色)	良好	石英をやや多く、長石を少量、金雲母・黒雲母・赤色粒子を微量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	外面にスス。
	93		Qp4-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.0)	2.4	(7.8)	1/9	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	94		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.9)	3.0	(8.4)	1/4	10Y6/1 灰色	堅緻	緻密。器面は滑らか。長石やや多く、大粒がやや目立つ。石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
21	95		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	2.8	(9.8)	1/6	2.5Y7/2 灰黄色	堅緻	緻密。石英やや多く、大粒が目立つ。長石を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
22	96		Qp2-2 Qp2-3 Qp4-3	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(11.8)	2.8	8.4	2/7	10Y6/1 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色で緻密。器面は滑らか。長石やや多く、石英少量で、ともに大粒が目立つ。黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	97		Qp2-3 Qp3-3 Qp4-2 Qp4-3 Qp5-2	Ⅲb層 〃 〃 〃 〃	須恵器	無台坏	(11.8)	3.45	8.0	1/2	N6/0 灰色	堅緻	器面は滑らか。黒色小斑点が目立つ。微小な長石を多量、石英・白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	98		Qp4-1 Qp4-2 Qp4-3	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(12.0)	3.2	7.9	3/4	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英・長石少量だが、ともに大粒がやや目立つ。小礫を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	99		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.9)	3.1	(7.6)	1/4	2.5Y6/1 黄灰色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	100		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	3.15	(8.6)	1/6	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英をやや多く、長石を少量、褐色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、ヘラナデ。	
	101		Pp3-2 Qp1-3	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	13.0	3.5	10.4	4/7	2.5Y8/2 灰白色	やや軟質	石英多量で、大粒がやや目立つ。長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	102		Qp4-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.9)	3.0	(8.0)	1/4	10YR8/2 灰白色	やや軟質	石英を多量、長石・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。摩耗が著しい。	
	103		Qp5-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.6)	3.2	(9.6)	1/8	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	104		Qp1-1	Ⅲb層	須恵器	坏	(13.3)	〈3.2〉	(8.7)	1/6	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	緻密。石英を少量、長石・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	105		Qp4-2	Ⅲb層	須恵器	坏	(10.9)	〈3.2〉	—	口縁部～体部1/6	N7/0 灰白色	堅緻	長石多量、石英少量で、ともに大粒がやや目立つ。	内外面回転ナデ。	
	106		Qp4-2 Qp4-3	Ⅲb層 〃	須恵器	坏	(12.2)	〈2.7〉	—	口縁部～体部1/6	2.5Y6/2 灰黄色	堅緻	石英・長石やや多く、大粒がやや目立つ。	内外面回転ナデ。	
	107		Qp3-2	Ⅲb層	須恵器	坏	(12.9)	〈2.9〉	—	口縁部～体部1/8	2.5Y5/1 黄灰色	堅緻	やや疎。黒色小斑点が目立つ。長石をやや多く、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	108		Qp5-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.75〉	(7.9)	体部下半～底部1/5	N6/0 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色。長石多量で、大粒が目立つ。石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	109		Qp1-1 Qp2-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	—	〈2.1〉	(8.2)	底部1/5	5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	110		Qp4-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.0〉	(8.2)	底部1/8	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	111		Qp4-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.0〉	(8.0)	底部3/7	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒がやや目立つ。細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	112		Qp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈0.6〉	(8.5)	底部1/3	N6/0 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色で緻密。長石をやや多く、石英を少量、白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	113		Qp3-2 Qp3-3 Qp4-2 Qp4-3 排土	Ⅲb層 〃 〃 〃	須恵器	無台坏	—	〈1.2〉	9.0	底部4/7	10YR7/3 にぶい黄橙色	堅緻	石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)	
	114		Qp2-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.0〉	(9.0)	底部1/5	2.5Y8/2 灰白色	堅緻	やや疎。石英・長石・小礫を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	115		Qp4-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.4〉	(8.3)	底部2/5	10YR8/2 灰白色	良好	石英を多量、長石をやや多く、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	116		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈0.85〉	(9.8)	底部1/6	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英・微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り	
	117		Qp3-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈2.7〉	(8.2)	体部～底部1/6	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	118		Qp4-1 Qp5-2	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	—	〈2.65〉	(8.9)	体部～底部1/5	10Y6/1 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	119		Qp3-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈2.7〉	(9.3)	体部～底部1/5	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英・微小な長石・橙色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、ヘラナデ。	
23	120		Qp4-2 Qp4-3	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(9.6)	4.3	(5.6)	1/6	N5/0 灰色	堅緻	2.5YR6/1赤灰色。器面はざらつく。黒色小斑点がやや目立つ。長石を多量、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	121		Qp4-3 Rp3-2	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(12.0)	3.65	(5.8)	1/3	N6/0 灰色	堅緻	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。小礫を少量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
23	122		Qp3-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	(12.7)	4.35	(8.0)	1/2	5Y6/1 灰色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	123		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	—	〈2.0〉	—	体部下端～底部1/4	7.5Y6/1 灰色	堅緻	緻密。微小な長石を少量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	124		Qp4-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	—	〈3.3〉	(9.2)	体部～底部1/4	N5/0 灰色	堅緻	7.5YR6/3にぶい褐色で緻密。石英・長石やや多く、ともに大粒がやや目立つ。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	125		Qo3-5 Qp3-2	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	—	〈5.5〉	—	体部～底部1/7	2.5Y7/2 灰黄色	堅緻	石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け(欠損)。	体部外面に火だすき痕。
	126		Qp3-2	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(13.1)	〈2.4〉	つまみ径 —	1/10	7.5YR6/4 にぶい橙色	堅緻	N7/0灰白色で緻密。石英・長石を少量含む。	内外面回転ナデ。	
	127		Qp3-2	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	—	〈1.45〉	つまみ径 —	1/6	N6/0 灰色	堅緻	緻密。長石をやや多く、微小な石英を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	
	128		Qp5-2 Qp5-3 Ro5-5 Rp1-2 Rp2-2 Rp3-1 Rp3-2 Sp	Ⅲb層 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	須恵器	横瓶	—	—	〈21.2〉	胴部片	7.5Y5/2 灰オリーブ色 (内面：10YR8/1 灰白色)	堅緻	やや疎。黒色小斑点が目立つ。長石を多量、石英を少量含む。	外面カキメの後、平行タタキ。内面回転ナデの後、同心円当て具痕。	外面は自然釉。
	129		Qp4-1	Ⅲb層	須恵器	甕	—	—	—	胴部片	N4/0 灰色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。	外面縦位ハケメの後、平行タタキ。内面カキメの後、ヘラナデ・同心円当て具痕。	
	130		Qp4-2 Ro1-5	Ⅲb層 〃	須恵器	甕	—	—	—	胴部片	N5/0 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	131		Qp3-2	Ⅲb層	土師器	無台坏	—	〈1.8〉	(8.5)	底部1/4	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	石英・長石をやや多く、赤色粒子を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	132		Qp	Ⅲb層	土師器	無台坏	—	〈1.35〉	(8.5)	底部1/4	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟質	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、小礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデか。底部切り離し不明。	
	133		Qp3-2 Qp4-1	Ⅲb層 〃	土師器	甕	—	—	—	口縁部～頸部片	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟質	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。赤色粒子を少量、金雲母・小礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデ。	
	134		Qp5-1	Ⅲb層	土師器	甕	(13.2)	〈4.5〉	—	口縁部～胴部上位1/7	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。	
	135		Qp3-3 Qp5-2	Ⅲb層 〃	土師器	甕	(15.6)	〈3.8〉	—	口縁部～胴部上位1/7	5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石・黒雲母を少量、金雲母・細礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデか。	
	136		Qp5-3	Ⅲb層	土師器	甕	(15.2)	〈6.3〉	—	口縁部～胴部上位1/7	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、黒雲母・橙色粒子を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、頸部～胴部カキメ。内面回転ナデ。	口縁部内面にコゲ。
	137		Qp5-3	Ⅲb層	土師器	甕	(17.3)	〈5.0〉	—	口縁部～胴部上位1/8	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英を多量、長石・小礫を少量、赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	内外面とも口縁部回転ナデ、胴部カキメ。	
24	138		Qp5-2 Rp5-1	Ⅲb層 〃	土師器	甕	(16.4)	〈10.1〉	—	口縁部～胴部1/7	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや軟質	石英多量、長石やや多く、ともに大粒が目立つ。黒雲母・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。胴部内面中位に２条の沈線。	口縁部内面にコゲ。
	139		Qp4-2	Ⅲb層	土師器	甕	(17.8)	〈2.7〉	—	口縁部1/7	7.5YR8/4 浅黄橙色	やや軟質	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、金雲母・黒雲母を少量、赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、頸部カキメ。内面回転ナデ。	
	140		Qp4-3	Ⅲb層	土師器	甕	(18.7)	〈2.7〉	—	口縁部1/10	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く、黒雲母を少量、赤色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	141		Qp2-3 Qp4-3 Qp5-3	Ⅲb層 〃 〃	土師器	甕	(21.1)	〈8.4〉	—	口縁部～胴部上半1/8	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く、金雲母・黒雲母を少量、白色針状物・赤色粒子・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、頸部～胴部カキメ。内面回転ナデ。	
	142		Qp3-3	Ⅲb層	土師器	甕	(20.8)	〈2.6〉	—	口縁部1/9	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石・黒色雲母を少量、赤色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	143		Qp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	—	〈3.1〉	(5.6)	胴部下位～底部1/4	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英多量で、大粒がやや目立つ。長石をやや多く、赤色粒子を少量、黒雲母を微量含む。	外面は胴部下端回転ヘラケズリ、底部ヘラナデか。内面カキメ。	
	144		Qp3-3	Ⅲb層	土師器	甕	—	〈3.0〉	(6.4)	胴部下位～底部1/4	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、金雲母・黒雲母・赤色粒子・細礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデ。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
24	145		Qp2-3	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈2.6〉	(7.8)	胴部下位～底部1/5	7.5YR7/6 橙色	良好	石英・長石をやや多く、赤色粒子を少量、金雲母・黒雲母・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面縦位ハケメ。内面ナデ。	
	146		Qp	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈1.8〉	(7.9)	底部1/7	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母を少量含む。	外面調整不明。内面ナデ。	
	147		Qp2-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英を多量、長石・黒雲母をやや多く、金雲母を少量、赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面平行タタキ。内面回転ナデの後、同心円当て具痕。	
	148		Ro5-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.2〉	(8.0)	底部1/6	N5/0 灰色	堅緻	微小な長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	149		Ro1-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈2.1〉	(8.0)	体部下半～底部1/7	10YR8/3 浅黄橙色	良好	緻密。石英を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	150		Ro5-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.6〉	(8.2)	体部下半～底部1/5	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英・長石をやや多く、白色針状物・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	151		Ro1-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈2.0〉	(8.7)	体部～底部1/8	2.5Y7/2 灰黄色	良好	緻密。石英・長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	152		Ro1-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.5〉	(9.8)	底部1/3	10YR8/3 浅黄橙色	良好	緻密。石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	153		Ro5-5	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈1.9〉	(5.2)	体部下半～底部1/5	2.5Y7/3 浅黄色	良好	石英・長石を少量、黒色粒子・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	154		Ro1-5	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈3.1〉	－	体部下半～底部1/7	2.5Y7/3 浅黄色	良好	石英をやや多く、長石を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	155		Ro1-5	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(14.0)	〈2.1〉	つまみ径 －	1/9	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	長石を多量、石英をやや多く含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	
	156		Ro1-5	Ⅲb層	土師器	無台坏	－	〈1.1〉	(7.8)	体部下端～底部3/8	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	石英をやや多く、微小な長石・白色針状物・赤色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	157		Ro4-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	頸部～胴部片	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。金雲母・黒色粒子を微量含む。	外面カキメの後、一部斜位ヘラナデ。内面回転ナデ。	焼成前に胴部穿孔２箇所。
	158		Ro5-5 Rp5-2	Ⅲb層 〃	土師器	甕	(16.8)	〈10.5〉	－	口縁部～胴部上半1/5	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。	口縁部内面にコゲ。
	159		Rp2-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(13.2)	3.4	(8.8)	1/3	2.5Y7/2 灰黄色	堅緻	緻密。器面は滑らか。長石・石英を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	160		Rp3-2 Rp3-3	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(12.4)	3.4	(9.2)	1/6	2.5Y8/3 淡黄色	良好	石英・長石・黒色粒子・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	161		Rp3-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	3.2	(9.8)	1/10	2.5Y8/2 灰白色	堅緻	器面は滑らか。石英をやや多く、長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りか。	
25	162		Rp3-2	Ⅲb層	須恵器	坏	(12.5)	〈2.8〉	－	口縁部～体部1/8	7.5YR7/6 橙色	堅緻	器面は滑らか。石英をやや多く、微小な長石を少量、赤色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	163		Rp	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.0〉	(7.6)	底部1/6	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	164		Rp4-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.8〉	(7.3)	体部下半～底部1/4	10YR8/2 灰白色	やや軟質	石英を少量、長石・黒色粒子・細礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	165		Rp1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.5〉	(8.4)	底部1/6	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英を少量、微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りか。	
	166		Rp1-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.4〉	(8.5)	体部下端～底部1/4	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英を少量、長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、ヘラナデ。	
	167		Rp1-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈2.4〉	(8.0)	体部下半～底部1/7	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	器面はざらつく。石英をやや多く、長石を少量、白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	168		Rp1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈0.9〉	(8.4)	底部1/5	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英をやや多く、微小な長石を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	169		Rp1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.5〉	(8.9)	底部1/10	2.5Y7/2 灰黄色	良好	石英やや多く、大粒が目立つ。長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	170		Rp2-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	(11.8)	3.1	6.7	3/7	5YR6/6 橙色	堅緻	5Y6/1灰色で緻密。長石を多量、石英をやや多く、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	171		Rp1-1	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈3.1〉	(7.5)	体部下半～底部1/5	2.5Y7/1 灰白色	良好	石英・長石をやや多く、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	172		Rp1-3	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈4.0〉	(5.8)	体部～底部1/8	2.5Y8/2 灰白色	堅緻	緻密。石英を少量、長石・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。体部外面下端未調整。高台貼り付け。	
	173		Rp3-2	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	－	〈1.0〉	つまみ径 3.6	つまみ完存	10YR8/1 灰白色	堅緻	やや疎。黒色小斑点がやや目立つ。微小な長石を少量、微小な石英・小礫を微量含む。	内面回転ナデ。つまみは上面が凹む。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
25	174		Rp2-2	Ⅲb層	須恵器	壺	－	－	－	胴部片	N7/0 灰白色	堅緻	黒色小斑点がやや目立つ。長石をやや多く、微小な石英を少量含む。	外面カキメの後、一部斜位ヘラナデ。内面回転ナデ。	
	175		Rp1-2	Ⅲb層	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	2.5Y6/1 黄灰色	堅緻	長石を多量、石英を少量、黒色粒子を微量含む。	外面平行タタキの後、一部縦位ハケメ。内面同心円当て具痕。	
	176		Rp4-3	Ⅲb層	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	7.5Y5/1 灰色	堅緻	石英・長石を多量含む。	外面平行タタキ。内面横位・斜位ハケメ。	
	177		Rp Sp2-1	Ⅲb層 〃	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	N6/0 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色。長石をやや多く、微小な石英を少量含む。	外面平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	178		Rp3-2	Ⅲb層	土師器	坏	(13.3)	〈2.6〉	－	口縁部～体部上半1/10	2.5YR6/6 橙色	やや軟質	微小な石英・長石を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	179		Rp2-2	Ⅲb層	土師器	無台坏	－	〈0.75〉	(7.0)	底部1/3	7.5YR8/4 浅黄橙色	やや軟質	石英多量で、大粒が目立つ。長石を少量、金雲母・赤色粒子・黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	180		Rp4-2	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈1.4〉	5.2	胴部下位～底部1/2	10YR6/2 灰黄褐色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、金雲母・小礫を微量含む。	外面回転ヘラケズリ。剥離が著しい。内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	181		Rp1-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈2.6〉	(5.6)	胴部下位～底部1/5	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母・橙色粒子を少量含む。	胴部外面下位に１条の沈線が巡る。内面回転ナデ。底部ヘラケズリか。	
	182		Rp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈3.7〉	(8.4)	胴部下位～底部1/5	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母をやや多く、金雲母・赤色粒子・黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部ヘラケズリか。	
	183		Rp5-2	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母・白色針状物・黒色粒子・細礫を微量含む。	外面カキメ、一部縦位ハケメ。内面カキメ。	焼成前に胴部外面線刻。
	184		So1-5 So3-5	Ⅲb層 〃	須恵器	坏	(12.2)	〈3.4〉	－	口縁部～体部2/7	N6/0 灰色	堅緻	長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	185		So5-5	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	－	〈1.6〉	(6.8)	体部下半～底部1/7	10Y6/1 灰色	堅緻	微小な長石を多量、微小な石英・白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	186		So5-5	Ⅲb層	須恵器	折縁坏	(14.3)	〈2.5〉	－	口縁部1/10	2.5Y7/1 灰白色	良好	長石を多量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	187		So5-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石・金雲母をやや多く、黒雲母・赤色粒子・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面縦位ハケメ。内面一部横位ハケメの後、縦位・斜位ハケメ。	
	188		So2-5	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈2.1〉	丸底	底部3/7	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	石英・長石をやや多く、金雲母・黒雲母・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面縦位ハケメ。内面縦位・横位ハケメ。	
26	189		Sp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.0)	3.0	(8.8)	1/6	7.5Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、石英を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	190		Sp4-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	2.7	(8.1)	1/10	2.5Y6/2 灰黄色	良好	石英・長石をやや多く、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	191		Sp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.0〉	(7.6)	底部1/5	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	微小な石英・微小な長石を少量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	192		Sp3-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈3.0〉	(10.0)	体部～底部1/7	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英を少量、長石・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	193		Sp5-1	攪乱層	須恵器	有台坏	－	〈3.6〉	(4.9)	体部～底部1/5	N6/0 灰色	堅緻	長石を少量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	194		Sp3-1	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈1.5〉	(8.0)	底部1/5	2.5Y8/3 淡黄色	良好	石英・長石を少量、小礫を微量含む。	外面回転ナデ。内面回転ナデの後、一部ヘラナデ。高台貼り付け。	
	195		Sp2-3	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈3.1〉	(8.7)	体部下半～底部1/8	N5/0 灰色	堅緻	5YR6/6橙色。微小な長石を多量、微小な石英をやや多く、赤色粒子を少量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	
	196		Sp5-1	攪乱層	須恵器	坏蓋	－	〈1.7〉	つまみ径 －	1/6	N6/0 灰色	堅緻	器面はざらつく。石英・長石を多量含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ・回転ナデ。内面回転ナデ。	
	197		Sp2-3	Ⅲb層	須恵器	長頸瓶	(13.0)	〈7.0〉	－	口縁部～頸部1/7	N4/0 灰色	堅緻	5YR6/1褐灰色。微小な石英・微小な長石を多量含む。	内外面回転ナデ。	
	198		Sp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	－	－	胴部片	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く、黒雲母を少量、金雲母・赤色粒子・小礫を微量含む。	外面カキメの後、平行タタキ。内面ナデの後、同心円当て具痕。	
	199		To3-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.7)	2.85	(8.1)	1/9	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	微小な長石を少量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	200		To4-5 Tp1-2	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(12.5)	3.3	8.8	3/4	10YR8/2 灰白色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。摩耗が著しい。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
26	201		To3-5 To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.8)	3.25	(7.4)	1/5	2.5Y6/2 灰黄色	堅緻	微小な長石を多量、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	202		To5-5 Up1-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(11.7)	3.2	9.0	2/3	7.5Y6/1 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色。黒色小斑点が目立つ。石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	203		To5-5 Tp4-1 Tp5-1 Uo3-5	Ⅲb層 〃 〃 〃	須恵器	無台坏	(13.0)	3.1	7.8	1/2	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好で硬質	石英・長石を少量、白色針状物・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	204		To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.9)	3.35	(8.4)	1/2	2.5Y8/2 灰白色	良好	石英やや多く、大粒がやや目立つ。長石を少量、黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	205		To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.6)	3.2	(9.1)	1/4	2.5Y7/2 灰黄色	堅緻	石英・長石をやや多く、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	206		To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.9)	3.1	(9.4)	1/6	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	石英・長石を多量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	207		To4-5	Ⅲb層	須恵器	坏	(13.1)	〈2.85〉	—	口縁部～体部1/6	10YR8/2 灰白色	良好	石英を少量、長石を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	208		To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈2.1〉	(8.4)	体部下半～底部1/3	2.5Y7/1 灰白色	堅緻	長石少量で、大粒が目立つ。石英を少量、黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	209		To5-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.7〉	(9.2)	体部下半～底部1/5	5Y6/1 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	210		To4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.3〉	(10.0)	底部2/7	10YR8/2 灰白色	やや軟質	石英をやや多く、微小な長石・細礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
27	211		To3-5 To4-5	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	—	〈2.1〉	(7.6)	体部下半～底部3/8	2.5Y6/1 黄灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量、白色針状物・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	212		To2-5	Ⅲb層	須恵器	有台坏	(14.8)	〈4.5〉	—	口縁部～体部上半1/9	5Y7/1 灰白色	堅緻	長石を少量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。口縁部外面にくびれ。	
	213		To5-1	Ⅲb層	須恵器	有台坏	—	〈3.9〉	(8.0)	1/4	10YR8/3 浅黄橙色	やや軟質	石英・長石を少量、橙色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	214		To4-5	Ⅲb層	須恵器	有台坏	—	〈0.75〉	(6.6)	底部1/5	N5/0 灰色	堅緻	5YR6/1褐灰色。長石を少量、石英を微量含む。	内面回転ナデ。高台貼り付け。	
	215		To4-4	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(13.0)	〈1.9〉	つまみ径 —	1/4	10YR6/1 褐灰色	堅緻	長石を少量、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	216		To5-5 Uo2-5 Up2-2	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	坏蓋	13.3	3.2	つまみ径 2.55	2/3	N5/0 灰色	堅緻	器面は滑らか。長石をやや多く、石英・白色針状物を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。つまみは扁平な擬宝珠形で、貼り付け。	
	217		To4-5	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(16.6)	4.1	つまみ径 2.35	5/9	7.5Y5/1 灰色	堅緻	黒色小斑点が目立つ。長石を多量、微小な石英・白色針状物を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。つまみは擬宝珠形で、貼り付け。	
	218		To3-1 To4-5 Tp4-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	短頸壺蓋	(11.0)	〈3.5〉	つまみ径 —	5/8	5Y4/1 灰色	堅緻	黒色小斑点が目立つ。長石をやや多く、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	219		To4-5	Ⅲb層	土師器	無台坏	(12.2)	3.0	7.6	1/3	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	220		To1-4	Ⅲb層	土師器	無台坏	—	〈1.2〉	(8.8)	底部1/9	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、金雲母・黒雲母・黒色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部切り離し不明。	
	221		To4-5 To5-5	Ⅲb層 〃	土師器	甕	(18.5)	〈6.4〉	—	口縁部～胴部上位1/7	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。金雲母・小礫を少量、黒雲母・黒色粒子を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデ。	
	222		To4-5	Ⅲb層	土師器	甕	(18.9)	〈6.6〉	—	口縁部～胴部上位1/6	2.5YR6/6 橙色	良好	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。黒雲母・白色針状物・赤色粒子・黒色粒子・小礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデか、胴部カキメで、摩耗が著しい。内面カキメ。	
	223		To4-5	Ⅲb層	土師器	甕	(20.1)	〈6.6〉	—	口縁部～胴部上位1/6	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英を多量、長石・黒雲母をやや多く、白色針状物・細礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデ。	
	224		To4-5	Ⅲb層	土師器	甕	—	〈16.8〉	—	胴部1/5	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	石英・長石を多量、黒雲母をやや多く、赤色粒子を微量含む。	外面カキメ、一部縦位ハケメ。内面回転ナデ、一部カキメ・縦位ハケメ。	
	225		To3-5	Ⅲb層	土師器	甕	—	—	—	胴部片	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英を多量、長石・金雲母をやや多く、黒雲母・小礫を微量含む。	外面一部カキメの後、平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	226		Tp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.2)	2.9	(8.4)	1/10	2.5Y8/1 灰白色	良好	長石少量で、大粒が目立つ。石英・黒色粒子・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
27	227		Tp4-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.6)	3.2	9.2	1/3	10YR8/2 灰白色	やや軟質	石英を少量、長石・白色針状物・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	228		Tp5-1 Uo4-5 Up1-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	11.6	3.1	8.5	1/2	10Y5/1 灰色	堅緻	石英・長石多量で、ともに大粒が目立つ。白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
28	229		Tp1-3 Tp2-2 Tp5-2	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(11.3)	3.0	(8.0)	2/7	10YR8/2 灰白色	やや軟質	石英をやや多く、長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。摩耗が著しい。	
	230		Tp4-1 Tp4-5	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(12.2)	2.9	8.3	2/3	2.5Y7/1 灰白色	良好で硬質	長石をやや多く、微小な石英を少量、白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)の後、ヘラナデ。	
	231		Tp5-1 Uo1-5 Uo4-5	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(12.0)	3.25	7.4	4/7	2.5Y7/2 灰黄色	良好で硬質	石英を少量、微小な長石・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	232		Tp5-1 Up3-1 Up5-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	(12.4)	3.1	7.8	4/9	2.5Y7/1 灰白色	良好で硬質	石英多量で、大粒が目立つ。長石をやや多く、白色針状物・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)の後、ヘラナデ。	
	233		Tp2-2	Ⅲb層	須恵器	坏	(12.2)	〈2.6〉	—	口縁部～体部1/6	5Y6/1 灰色	良好で硬質	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。	内外面回転ナデ。	
	234		Tp1-2 Tp2-1 Tp2-2	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	—	〈1.3〉	7.7	底部1/2	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	長石少量で、大粒が目立つ。石英をやや多く、黒色粒子を微量含む。	外面調整不明。内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	235		Tp4-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈2.4〉	(7.4)	体部下半～底部1/4	2.5Y7/1 灰白色	良好で硬質	石英・長石をやや多く、礫・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	236		Tp3-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.6〉	(8.8)	体部下半～底部1/9	2.5Y7/1 灰白色	良好で硬質	長石をやや多く、石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	237		Tp4-2 Up3-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	—	〈2.1〉	7.7	体部下半～底部3/7	10Y6/1 灰色	堅緻	器面は滑らか。微小な長石を極めて多量、微小な石英を少量含む。	内外面回転ナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部回転ヘラ切り(右)。	小泊産。
	238		Tp5-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.3〉	(8.6)	体部下半～底部1/3	N7/0 灰白色	堅緻	長石を多量、石英をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	239		Tp4-1 Up1-1 UP2-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	—	〈1.9〉	(7.5)	体部下半～底部1/3	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英・小礫を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	240		Tp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈0.65〉	(8.8)	底部1/3	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英・長石・細礫を微量含む。	外面調整不明。内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	241		Tp3-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈0.85〉	(9.6)	底部1/3	N4/0 灰色	堅緻	緻密。微小な長石を多量、微小な石英をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	
	242		Tp4-1 Tp4-2	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(9.6)	4.3	5.6	1/3	N6/0 灰色	堅緻	微小な長石をやや多く、微小な石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。高台貼り付け。	
	243		Tp3-1 Tp4-2 Tp	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	有台坏	11.4	3.7	8.4	3/7	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	244		Tp5-1 Up1-1	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(11.8)	3.75	6.6	1/2	N5/0 灰色	堅緻	石英やや多く、大粒がやや目立つ。長石を多量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部内面一部ミガキ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	245		Tp4-1	Ⅲb層	須恵器	有台坏	(12.0)	〈3.85〉	(6.8)	2/9	10YR7/1 灰白色	堅緻	器面はざらつく。黒色小斑点が多い。石英やや多く、長石少量で、ともに大粒が目立つ。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	246		Tp4-1 Tp4-2 Tp4-5	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	有台坏	(15.8)	6.85	9.2	4/7	N5/0 灰色	堅緻	7.5YR7/1明褐灰色。石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。高台貼り付け。	
	247		Tp5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	—	〈1.1〉	—	底部片	N6/0 灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色。石英・微小な長石を微量含む。	内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	焼成前に底部外面線刻「一ヵ」。
	248		Tp5-1	Ⅲb層	土師器	鍋	(26.6)	〈4.6〉	—	口縁部～体部上位1/11	7.5YR6/6 橙色	良好	石英多量、長石やや多く、ともに大粒が目立つ。黒雲母・白色針状物・小礫を微量含む。	外面回転ナデ。内面は口縁部回転ナデ、体部カキメ。	
29	249		Tp5-1 Up1-1	Ⅲb層 〃	土師器	鍋	(35.4)	〈6.0〉	—	口縁部～体部上位1/11	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英・長石を多量、金雲母を少量、赤色粒子を微量含む。	内外面ともに回転ナデの後、体部カキメ。	体部外面にスス。
	250		Tp5-1	Ⅲb層	土師器	甕	(20.6)	〈4.0〉	—	口縁部～胴部上位1/9	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	石英・長石をやや多く、金雲母を少量、白色針状物・黒雲母・赤色粒子・小礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、胴部カキメ。内面回転ナデ。	
	251		Tp4-1	Ⅲb層	土師器	甕	—	〈1.5〉	(6.4)	底部1/5	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英・長石を多量含む。	外面剥離により調整不明。内面回転ナデ。底部回転糸切りか。	
	252		Tp3-1	Ⅲb層	土師器	甕	—	〈2.6〉	(8.6)	底部1/5	10YR8/3 浅黄橙色	良好	石英多量で、大粒が目立つ。長石・赤色粒子を少量、黒色粒子・金雲母・黒雲母を微量含む。	外面調整不明。内面は回転ナデで、強いロクロ目。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
29	253		Tp3-1 Tp4-1	Ⅲb層 〃	土師器	甕	－	〈3.35〉	8.7	胴部下位～底部2/3	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	石英・長石多量で、大粒が目立つ。黒雲母を少量、赤色粒子・小礫を微量含む。	胴部外面下端ヘラケズリ。内面は胴部下位カキメの後、回転ナデ。	
	254		Tp5-1	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈2.85〉	(8.0)	胴部下位～底部1/2	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	石英をやや多く、長石を少量、白色針状物を微量含む。	内外面回転ナデ。底部静止糸切り。	
	255		Uo4-4 Uo4-5	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(11.9)	3.2	(8.2)	1/4	10YR8/2灰白色	良好	石英やや多く、大粒がやや目立つ。長石を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	256		Uo2-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.0)	2.75	(8.6)	1/7	5Y6/1灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量、白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りか。	
	257		Uo3-5 Up1-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	(12.2)	2.9	8.3	1/2	10YR7/3にぶい黄橙色	良好	石英を少量、微小な長石・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	258		Uo4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.5)	3.6	(7.6)	1/4	7.5Y6/1灰色	堅緻	器面は滑らか。長石をやや多く、微小な石英・白色針状物・黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	259		Uo3-5	Ⅲb層	須恵器	坏	(12.7)	〈2.3〉	－	口縁部2/7	10YR8/2灰白色	やや軟質	石英やや多く、大粒が目立つ。微小な長石を少量、小礫を微量含む。	外面摩耗により調整不明。内面回転ナデ。	
	260		Uo2-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈0.9〉	(8.9)	底部1/3	2.5Y7/1灰白色	堅緻	石英・長石やや多く、大粒が目立つ。小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	261		Uo1-5 Up1-1 Up2-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	－	〈1.9〉	(9.2)	体部下端～底部1/2	2.5Y7/2灰黄色	良好	石英・小礫を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	262		Uo1-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.95〉	(9.2)	体部下半～底部1/4	10YR7/3にぶい黄橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	263		Uo4-5	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈0.9〉	(9.6)	底部1/4	7.5YR6/3にぶい褐色	良好	石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	264		Uo3-5 Up2-1 Up4-1	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	有台坏	11.2	3.9	8.75	3/4	2.5Y6/2灰黄色	良好	石英・長石やや多く、ともに大粒が目立つ。小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	265		Uo1-5 Up1-1	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	(12.0)	3.9	(8.0)	1/4	5Y6/1灰色	堅緻	長石多量で、大粒が目立つ。石英を少量、黒色粒子を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。	
	266		Uo5-5	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	－	〈2.1〉	つまみ径2.6	1/4	5Y6/1灰色	堅緻	器面は滑らか。長石を少量、石英・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。つまみは上面が僅かに凹み、中央がやや高い。	
30	267		Uo3-5 Up1-2	Ⅲb層 〃	須恵器	横瓶	－	〈18.5〉	－	胴部片	5PB7/1明青灰色	堅緻	長石多量で、大粒が目立つ。石英をやや多く、小礫を微量含む。	外面カキメの後、平行タタキ。内面同心円当て具痕。	
	268		Uo4-5	Ⅲb層	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	7.5Y5/1灰色	堅緻	5YR7/1明褐灰色で緻密。微小な石英・長石を微量含む。	外面一部カキメの後、平行タタキ。内面一部横位ハケメの後、同心円当て具痕。	
	269		Uo2-5	Ⅲb層	土師器	甕	(15.3)	〈3.1〉	－	口縁部～頸部1/6	10YR5/3にぶい黄褐色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母を少量、小礫を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、頸部カキメ。内面回転ナデ。	
	270		Uo4-4	Ⅲb層	土師器	甕	－	〈3.4〉	(6.9)	胴部下位～底部1/5	7.5YR4/2灰褐色	良好	石英を多量、長石を少量、黒雲母・赤色粒子・黒色粒子を微量含む。	外面ヘラケズリ。内面カキメ。	
	271		Up5-3	Ⅲb層	土師質土器	小皿	－	〈0.6〉	(5.7)	底部1/9	10YR8/3浅黄橙色	良好	含有物が極めて少ない。微小な石英・微小な長石・赤色粒子を微量含む。	外面回転ナデ。内面回転ナデか。底部回転糸切り。	
	272		Uo1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(11.7)	2.9	(8.6)	1/4	5Y6/1灰色	堅緻	長石を多量、石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	273		Up2-1	Ⅲb層	須恵器	坏	(10.6)	〈2.7〉	－	口縁部～体部上半1/7	N5/0灰色	堅緻	7.5YR7/1明褐灰色。長石をやや多く、石英を少量含む。	内外面回転ナデ。	
	274		Up3-1	Ⅲb層	須恵器	坏	(11.2)	〈2.5〉	－	口縁部～体部上半1/8	2.5Y5/1黄灰色	堅緻	石英・長石を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	275		Up1-1	Ⅲb層	須恵器	坏	(12.0)	〈2.9〉	－	口縁部～体部1/8	2.5Y8/2灰白色	良好	器面は滑らか。石英を少量、微小な長石を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	276		Up1-3	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈2.0〉	(7.6)	体部下半～底部1/6	2.5Y8/3淡黄色	良好	石英をやや多く、長石を少量、赤色粒子・小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	277		Up5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈2.7〉	(8.6)	体部下半～底部1/3	10YR8/3浅黄橙色	良好	石英をやや多く、長石を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	
	278		Up1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.8〉	(9.4)	体部下端～底部1/3	2.5Y6/1黄灰色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒がやや目立つ。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	279		Up1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.1〉	8.6	底部完存	10YR8/3浅黄橙色	良好	石英やや多く、長石少量で、ともに大粒が目立つ。細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
30	280		Up1-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.9〉	(8.6)	体部下半～底部1/7	2.5Y7/1 灰白色	良好	微小な石英・微小な長石・白色針状物・細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	281		Up5-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈1.7〉	(9.0)	体部下半～底部1/4	7.5Y6/1 灰色	堅緻	石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	
	282		Up1-1 Up2-1 Up3-3	Ⅲb層 〃 〃	須恵器	無台坏	－	〈2.1〉	8.4	体部下半～底部3/4	5Y6/1 灰色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	283		Up5-3	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈4.1〉	(7.2)	体部～底部1/7	10YR5/1 褐灰色	堅緻	器面はざらつく。石英・長石をやや多く含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	内面7/5Y4/3 暗オリーブ色の自然釉。
	284		Up1-2	Ⅲb層	須恵器	坏蓋	(12.9)	2.3	つまみ径 2.5	2/5	N7/0 灰白色	堅緻	長石をやや多く、石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。つまみは上面が僅かに凹み、中央部がやや高い。	
	285		Up1-2	Ⅲb層	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	N4/0 灰色	堅緻	7.5YR7/2明褐灰色で緻密。石英・微小な長石を微量含む。	外面平行タタキの後、一部カキメ。内面同心円当て具痕。	
31	286		Up1-1	Ⅲb層	須恵器	甕	－	－	－	胴部片	2.5Y8/3 淡黄色	良好で硬質	石英・微小な長石を微量含む。	外面平行タタキの後、一部カキメ。内面同心円当て具痕。	
	287		Up2-1	Ⅲb層	土師器	坏	(11.1)	〈2.8〉	－	口縁部～体部上半1/8	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	含有物が極めて少ない。微小な長石・黒雲母を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	288		Up1-1	Ⅲb層	土師器	坏	(13.4)	〈2.9〉	－	口縁部～体部1/10	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	微小な石英・長石を少量、細礫を微量含む。	内外面回転ナデ。	
	289		Up1-1 Up2-1	Ⅲb層 〃	土師器	鍋	－	〈5.9〉	－	口縁部～胴部片	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	石英・長石をやや多く、黒雲母を少量、金雲母・小礫を微量含む。	内外面ともに回転ナデの後、体部カキメ。	外面にスス。
	290		Vp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	(12.8)	3.4	8.5	3/8	10YR6/1 褐灰色	堅緻	5Y6/1灰色で緻密。器面は滑らか。長石多量で、大粒が目立つ。石英を少量、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左)。	
	291		Vp2-1	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	〈0.4〉	(9.2)	底部1/4	N7/0 灰色	堅緻	長石多量、石英やや多く、ともに大粒が目立つ。	内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(右)。	
	292		Vp1-2	Ⅲb層	須恵器	有台坏	－	〈3.45〉	7.0	体部～底部1/3	N6/0 灰色	堅緻	長石を多量、石英をやや多く、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り(左か)。高台貼り付け。	
	293		排土		土師器	甕	－	〈2.7〉	(7.2)	胴部下位～底部1/7	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	石英をやや多く、長石・黒色粒子・細礫を微量含む。	外面回転ナデ。内面回転ナデ・カキメ。底部外面板状圧痕。	

墨書土器

挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
32	294		Pp4-2	Ⅲb層	須恵器	無台坏	－	－	－	底部片	N7/0 灰白色	堅緻	長石を多量、石英を少量含む。	内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	底部外面に墨書「千」。
	295		Qp5-2	Ⅲb層	須恵器	転用硯(坏蓋)	－	－	－	天井部片	N5/0 灰色	堅緻	微小な長石をやや多く、微小な石英を微量含む。	外面は口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。	内面に墨痕。
	296		Qp4-3 Rp4-2	Ⅲb層 〃	須恵器	有台坏	－	〈1.5〉	(7.4)	体部下端～底部1/3	N6/0 灰色	堅緻	石英・長石をやや多く、小礫を微量含む。	内外面回転ナデ。高台貼り付け。	底部外面に墨書「□」。
	297		Rp4-2 Sp1-2	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	－	〈3.0〉	(8.2)	体部下半～底部1/5	N6/0 灰色	堅緻	器面は滑らか。長石をやや多く、石英を微量含む。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切りの後、一部ヘラナデか。	底部外面に墨書「千」。
	298		Rp1-2	Ⅲb層	須恵器	皿	－	－	－	底部片	10Y6/1 灰色	堅緻	長石を多量、微小な石英をややや多く、細礫を微量含む。	内面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	底部外面に墨書「本」。
	299		Tp4-2 Up2-1	Ⅲb層 〃	須恵器	無台坏	－	〈0.9〉	(7.8)	体部下端～底部3/8	5Y6/1 灰色	堅緻	石英・長石やや多く、ともに大粒がやや目立つ。	内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。	底部外面に墨書「馬□」。

その他の遺物

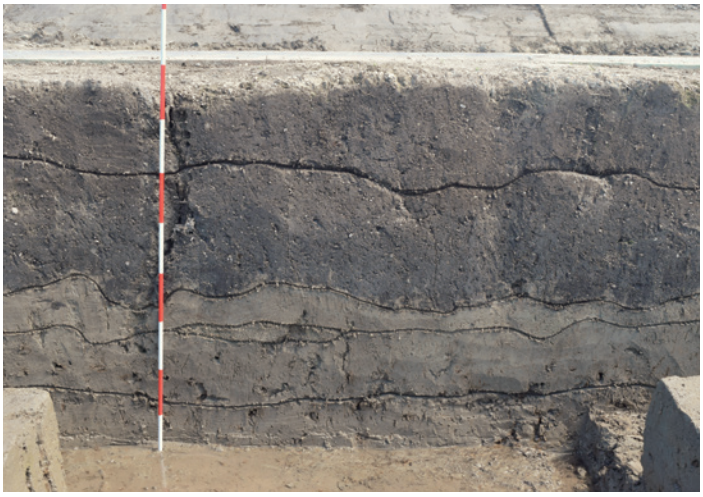
挿図	掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	色調	焼成	胎土	調整ほか	備考
							口径	器高	底径						
33	300	２号土坑	Sp1-2	１層	木製品	蓋板	径 33.5	幅 〈16.4〉	厚さ 0.25	樹種：スギ ／ 木取り：柾目				穿孔１箇所。	
	301		Po3-5	Ⅲb層	土製品	円筒形土製品	－	－	－	底部片	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	石英を多量、長石をやや多く、黒雲母・赤色粒子・小礫を微量含む。	外面平行タタキ。内面調整不明。底部外面板状圧痕。	
	302		Op	Ⅲa層	金属製品	環状鉄製品	長さ 〈4.4〉	幅(径) 3.3	厚さ 1.6	重量：9.8ｇ					銹により小礫付着。
	303		Rp2-2	Ⅲb層	石製品	砥石	長さ 6.7	幅 2.1	厚さ 1.6	重量：51.0ｇ ／ 材質：凝灰岩				砥面は表裏面・左右側面・小口上面の５面。	中砥。
	304		Sp4-2	攪乱層	石製品	砥石	長さ 〈14.6〉	幅 2.1	厚さ 〈5.45〉	重量：920.0ｇ ／ 材質：頁岩				砥面は表面・右側面の２面。	中砥。

調査区遠景（南から）

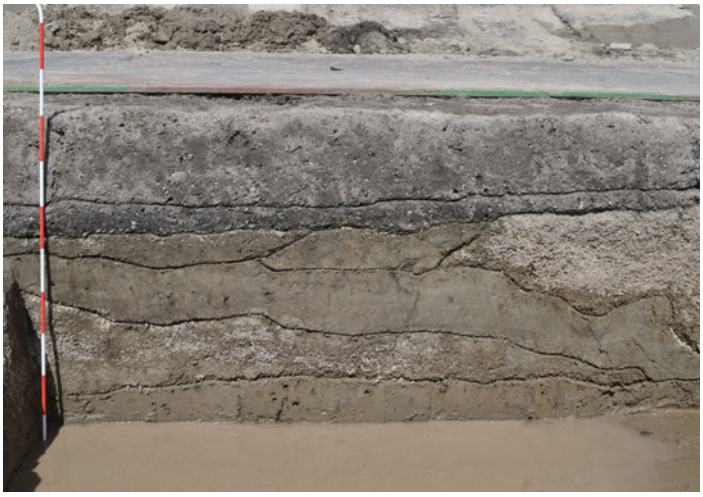
調査区近景（北西から）

図版２　調査区全景、基本土層

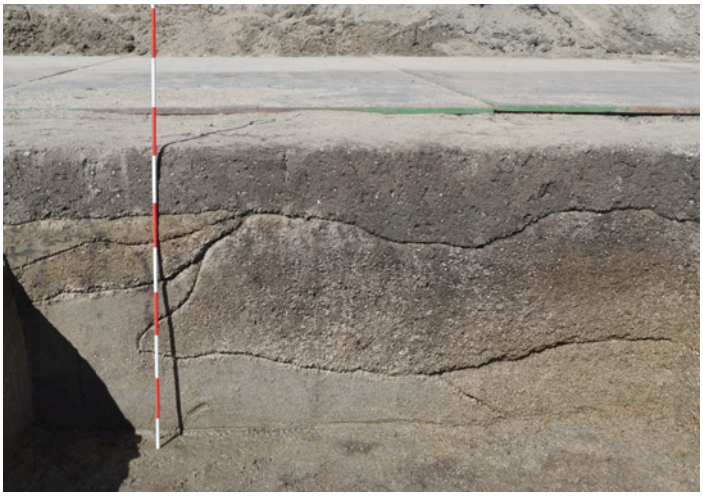
調査区全景（南西から）



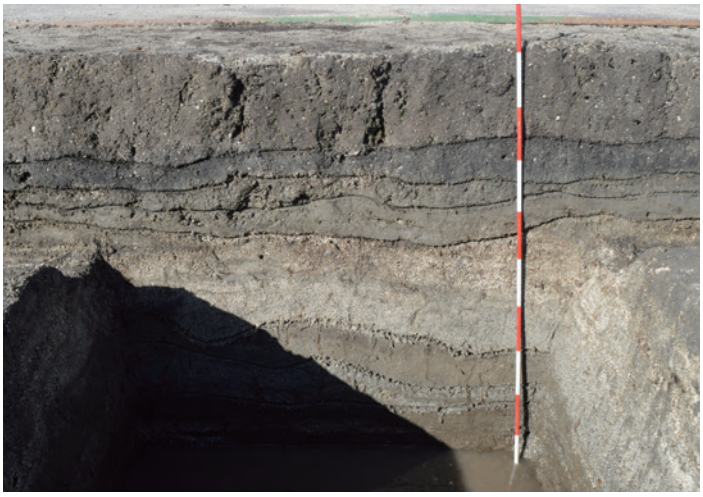
基本土層①（南西から）



基本土層②（南西から）



基本土層③（南西から）



基本土層④（南西から）

１～３号土坑（北から）

１号土坑　土層断面（南東から）

１号土坑（南東から）

２号土坑　土層断面（南東から）

２号土坑　遺物出土状態（東から）

２号土坑（南東から）

３号土坑　土層断面（東から）

３号土坑（南東から）

図版４　４～７号土坑

４号土坑　土層断面（南東から）

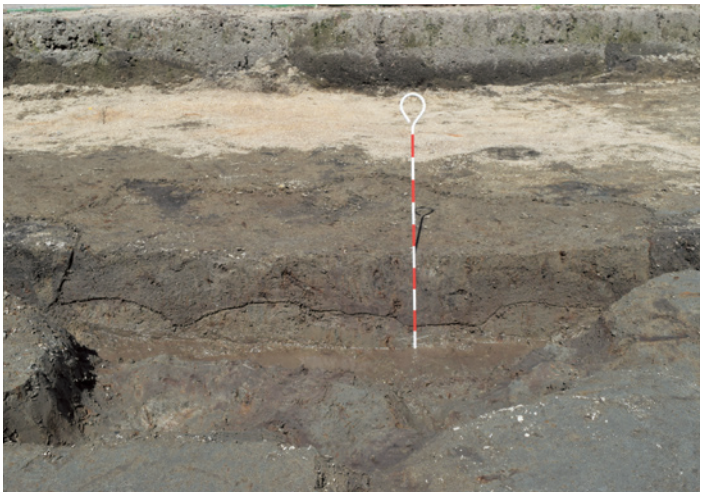
４号土坑（北東から）

５号土坑　土層断面（南西から）

５号土坑（北東から）

６号土坑　土層断面（南西から）

６号土坑（南西から）



７号土坑　土層断面（南西から）

７号土坑（南から）

８号土坑　土層断面（東から）

８号土坑（東から）

９号土坑　土層断面（北西から）

９号土坑　遺物出土状態（北西から）

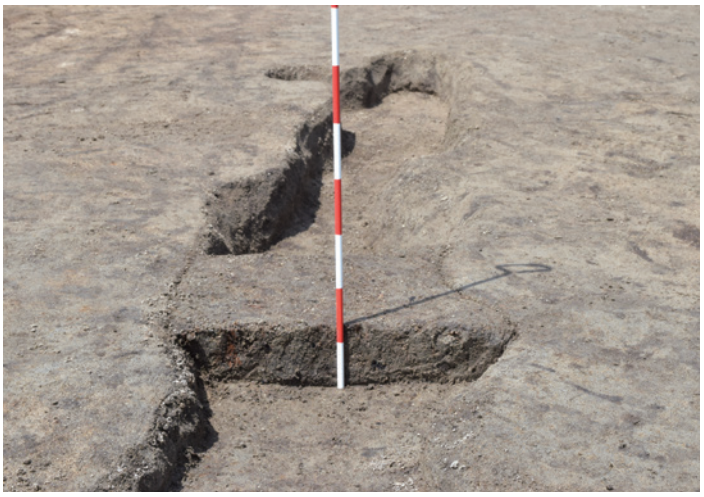
10号土坑　土層断面（南東から）

10号土坑（南西から）

１～４号溝（北から）

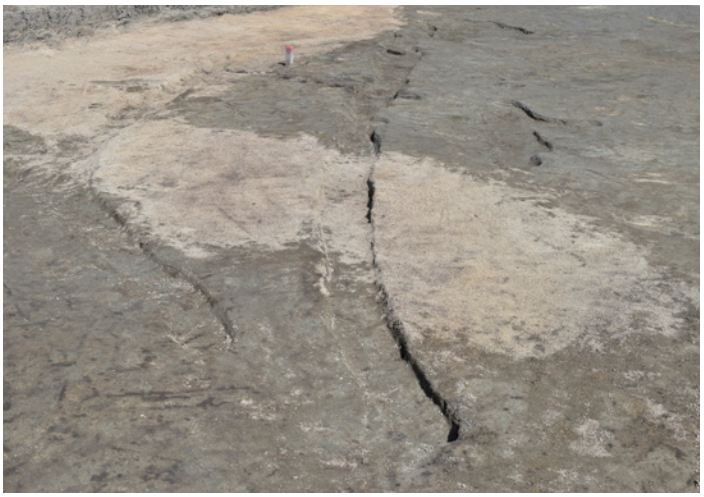
１～４号溝（東から）

図版６　１～４号溝、２・33号ピット



１号溝　土層断面（南東から）

１号溝（北西から）



２・３号溝（西から）

３号溝　遺物出土状態（西から）

４号溝　土層断面（東から）

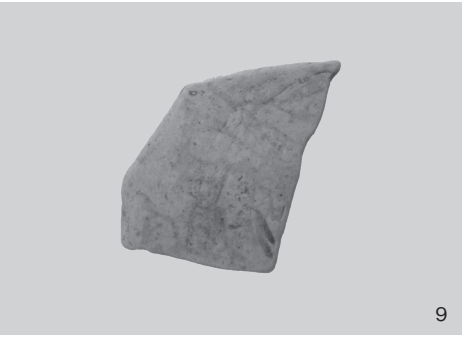
４号溝（西から）

２号ピット　土層断面（南西から）

33号ピット　土層断面（東から）

4

6


9

12

13

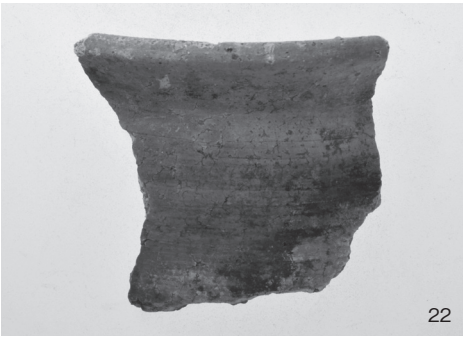
15

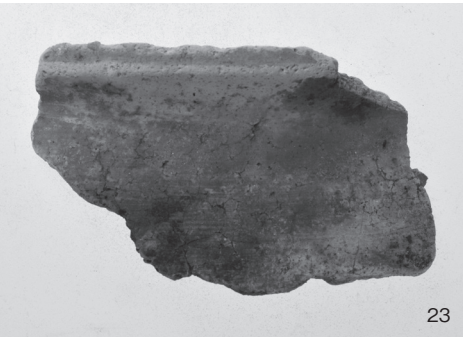
17

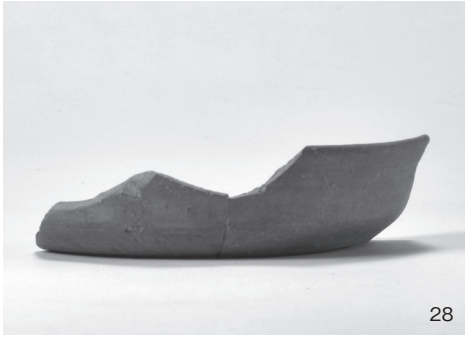
19

20

21


22

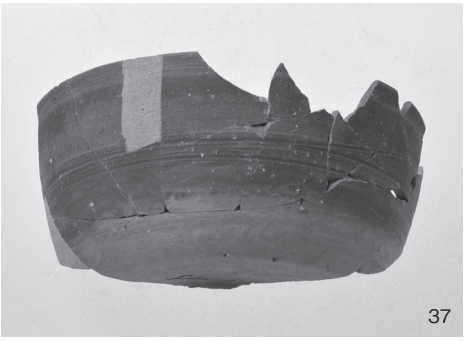

23


28

29

33

36


37

39

図版８　土器（２）

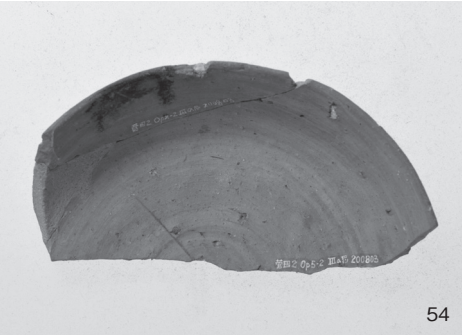
42

46

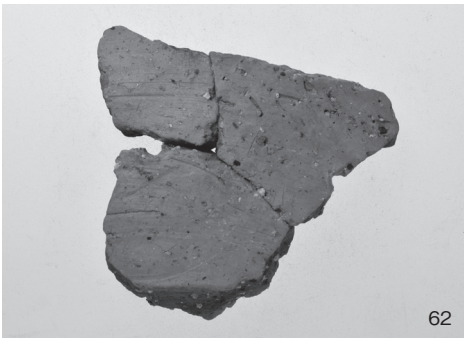
50

51

53

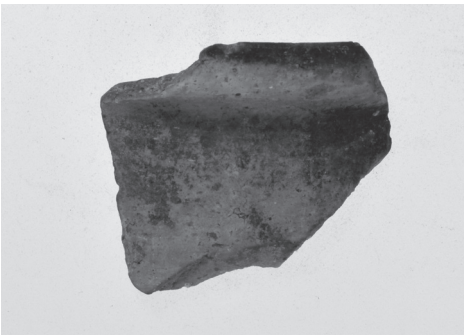

54

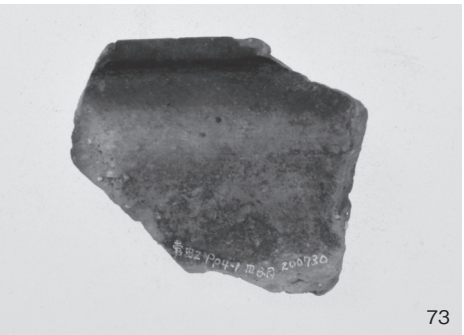
59

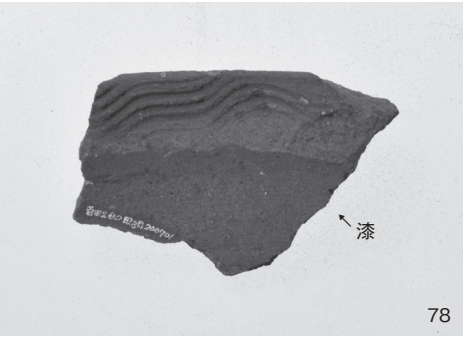

62

67

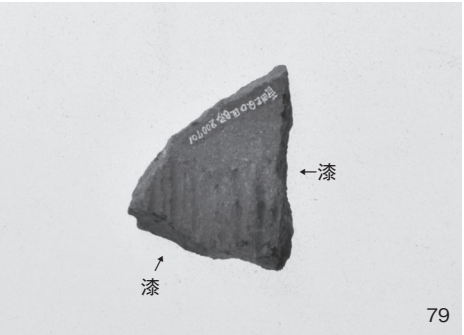
71




73



78

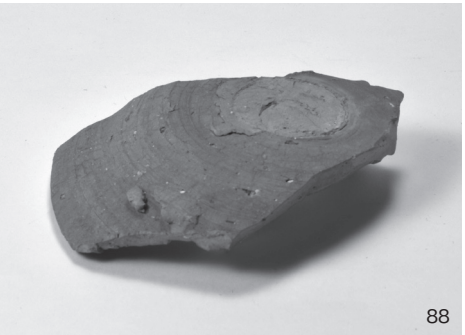


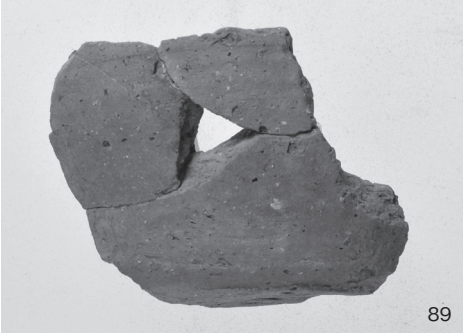
79

80

81

82


88


89

90

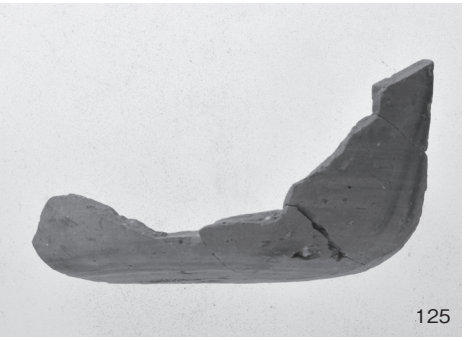
97

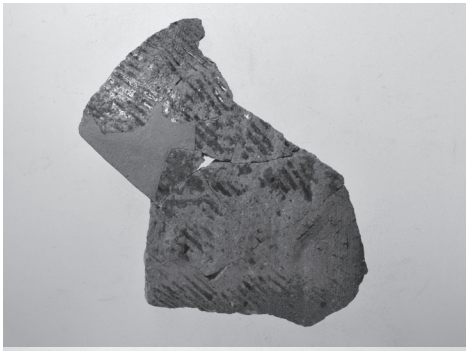
98

101

121

122


125

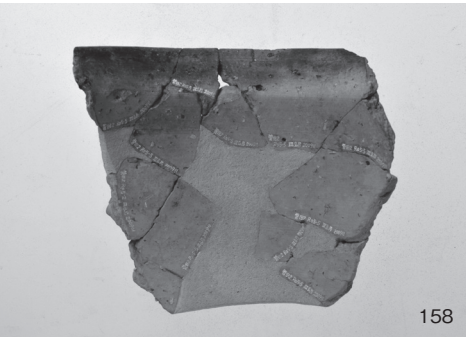

128

136

138

141

157


158

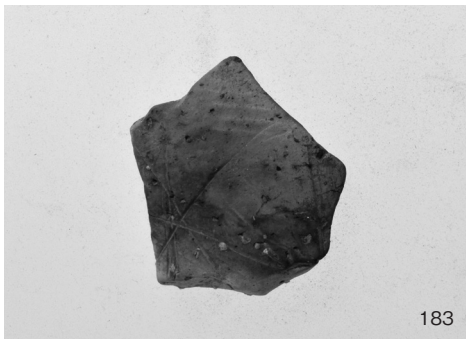
図版10　土器（4）

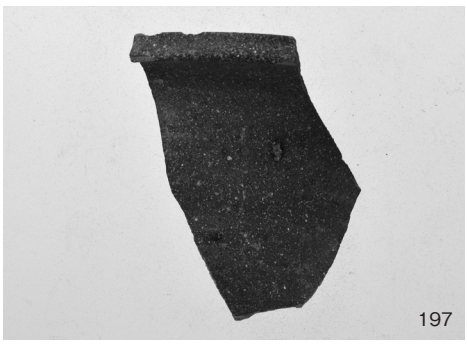
159

170

180

182


183


197

200

201

202

203

204

205

215

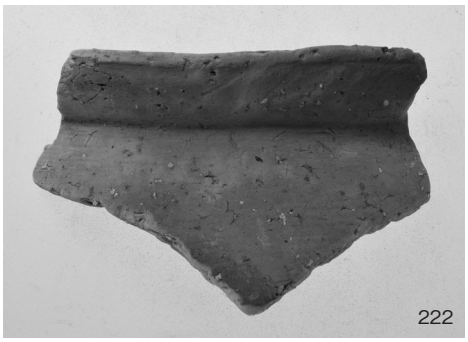
216

217

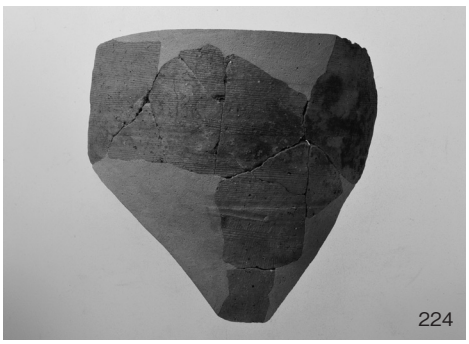
218

219

221


222

223


224

228

230

231

232

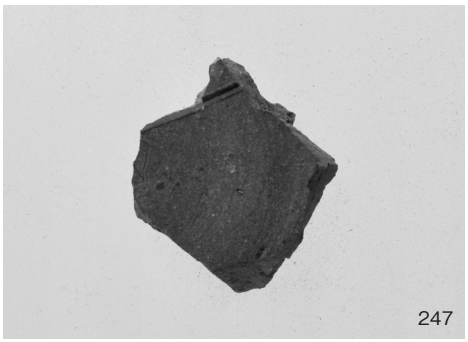
242

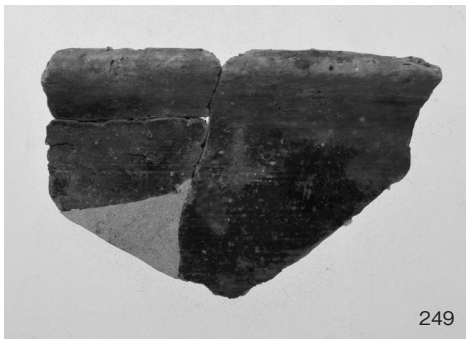
243

244

245

246


247


249

254

258

264

265

図版12　土器（6）、墨書土器、その他の遺物

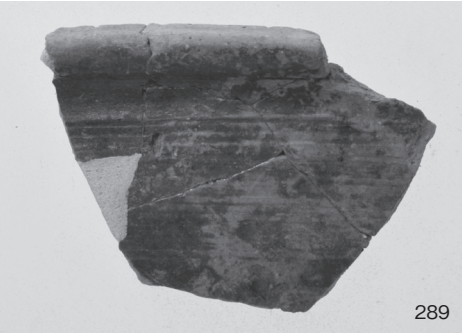
266

271

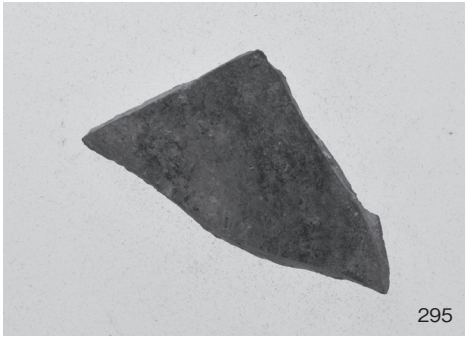
272

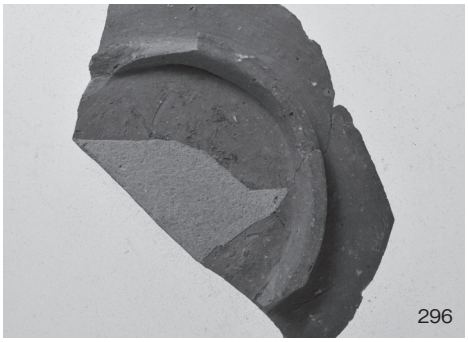
283

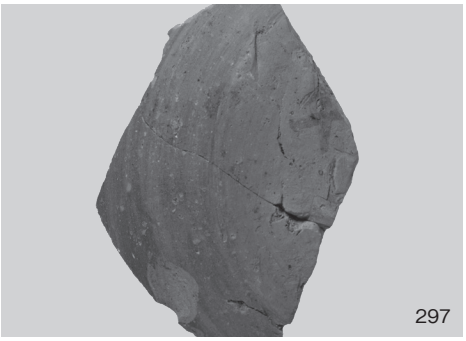
284

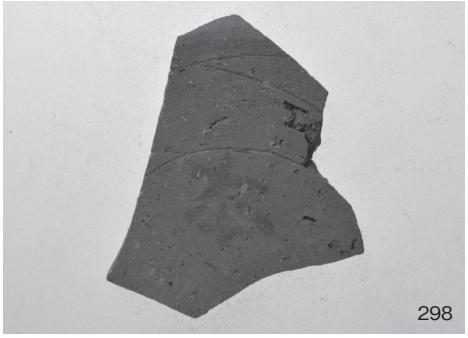

289

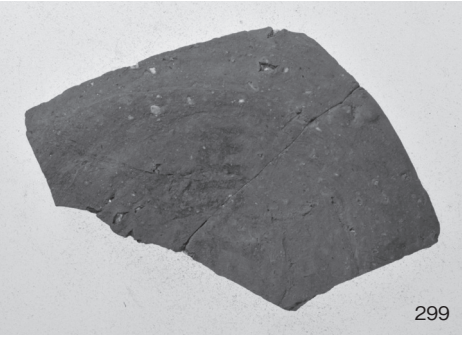
294


295


296


297


298


299

300

301

302

303

304

報 告 書 抄 録

ふりがな	すがたいせき はっくつちょうさほうこくしょに
書 名	菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ
副書名	経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第66
編著者名	津田憲司 、パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	新発田市教育委員会
所在地	〒959－2323 新潟県新発田市乙次281番地2 TEL 0254-22-9534
発行年月日	令和4（2022）年3月24日
体 裁	A4判 横組1段 本文60頁 写真図版12頁

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
菅田遺跡（すがたいせき）	新潟県新発田市東姫田字菅田276番地1 ほか	15206	706	37°56′49″	139°23′07″	20200625～20200909	473.7m²	経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菅田遺跡（2区）	集落跡	古代（平安時代）	土坑 7基、溝 4条、ピット 25基	須恵器、土師器、土製品、石製品、金属製品	
	集落跡	中世（鎌倉時代）	土坑 3基、ピット 11基	珠洲、土師質土器、木製品	

要 約

菅田遺跡は、新発田市東姫田に所在する遺跡で、令和元年（１区）と同２年（２区）に、それぞれ本発掘調査を実施した。本報告書は、２区の調査に関する記録である。調査の結果、本遺跡は、古代（8世紀後半～9世紀第3四半期）と、中世前半（13 世紀）に営まれた集落跡であることが明らかとなった。ただし、古代・中世ともに遺構の遺存状態は良くなく、また、居住や生産に関連した遺構も見つからなかったため、集落の詳細な内容や性格を把握することはできなかった。なお、古代については、穿孔のある土器など、特徴ある遺物が出土しており、集落の性格を考えるうえで注目される。

菅田遺跡 発掘調査報告書Ⅱ

経営体育成基盤整備事業 姫田川右岸地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅱ

発　行　令和４（2022）年３月 24 日
新発田市教育委員会
新潟県新発田市乙次 281 番地２
印　刷　島津印刷株式会社